

中 尾

(遺構篇)

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第6集—

1983

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団

資料

(財)群馬県埋蔵文化財
調査事業団保管

NO. 58-656

昭和 58 年 10 月 7 日



重層した住居群

前橋台地と中尾遺跡

利根川をはさんで赤城山と対峙する標高1,448mの榛名山。この山麓には、同心円状の等高線が南東に向かって美しい扇形に描かれる。榛名山の南東麓に接し、烏川から利根川を経て、かつて利根川が流れていた広瀬川低地帯まで続くこの地は、前橋台地と呼ばれる一大洪積台地だ。榛名山麓から流れ落ちた水が、下流の南東麓では放射状の小河川となって台地を割むため、ここに特異な洪積台地上の水田地帯を生んだ。浅間山の火山灰に埋もれていた日高遺跡の水田跡は、生々しい火山災害と水田経営のあり様を示し、国府をはじめ、発掘によって明らかとなった寺院や集落は、この台地が古代の政治的中枢部であったことを如実に物語る。天平13年の国分寺造営詔勅に謳われた造営の適地は、中尾遺跡の北2.5kmの至近距離に選定されたのだ。

遺跡は、前橋台地特有の沖積地内に点在する微高地上に占地する。古墳時代の前期から平安時代におたる竪穴住居が重複を繰り返して分布し、この大半が奈良時代以降に造られている。全体図上に連続と続く住居は、申し合わせたかのように東壁に竪を設置し、似たような構造と規格をもつ。このなかの一群は、明らかに国府や国分寺と同じ時期に営まれたのだ。前橋台地内における集落の一形態が、沖積地に囲まれたこの僅かな微高地上に展開する、重複した住居群に現出されているのである。





D-12号住居周辺



住居全景 (C-123号住居)



竈 (C-123号住居)



住居全景 (C-32号住居)



緑釉出土状態 (C-32号住居)

中 尾

(遺構篇)

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第6集一

1983

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団





辨圖1 中尾邊跡周辺地形図

序

関越自動車道新河線も、昭和55年7月には前橋インターチェンジまで開通し、現在では群馬と首都圏とを結ぶ動脈として多くの人々に利用されています。

中尾遺跡は、現在の前橋インターチェンジの真下に発見された遺跡で、関越自動車道建設工事に伴い、昭和51年度から52年度にかけて、日本道路公団東京第二建設局の委託を受けて発掘調査を実施しました。

この遺跡では、奈良時代から平安時代にかけての多くの住居跡が調査され、この時期の集落の研究をすすめる上で貴重な資料を得ることができました。特に、この地域が、当時の上野国の中心地であった上野国府に近接するところでもあり、国府とその周辺地域の研究をすすめる上でも注目される遺跡といえましょう。

本報告書の刊行にあたっては、昭和58年度から2年計画で財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団にて本格的な整理作業に着手していただき、ここに関越自動車道地蔵埋蔵文化財発掘調査報告書第6集(遺構篇)として発刊する運びとなりました。

報告書刊行にいたるまでには、日本道路公団東京第二建設局の関係者の方々、発掘調査担当者とそれに携わっていただいた方々、そして整理担当者とその仕事をすすめていただいた方々等から多方面にわたる御協力をいただきました。ここに厚く感謝を申し上げるとともに、本報告書が学界はもちろんのこと多くの方々に広くご覧いただき、有効な活用の道がひらかれていくことを念じ序文といたします。

なお、遺物関係の報告につきましては、引き続き昭和59年度に「遺物篇」として発刊する予定となっております。

昭和58年3月25日

群馬県教育委員会

教育長 横山 巖

目 次

	口絵	
	例言・凡例	
I	予備調査作業報告	vii
	1 調査に至る経緯	
	2 分布調査の過程と結果	
	3 試掘調査の過程と結果	
	4 調査の成果と本調査への指針	
II	本調査作業報告	x
	1 調査の方法と過程	
	2 遺構・遺物の出土傾向	
	3 予備調査との照合結果	
	4 本調査の成果	
III	住居図面写真記録集成	1
IV	遺構図面写真記録集成	147
	1 掘立柱建物	
	2 土 壇	
	3 井 戸	
	4 溝	
	5 中尾城	
	住居番号索引	166

別添資料

付図 I 中尾遺跡全体図

挿図・図版目次

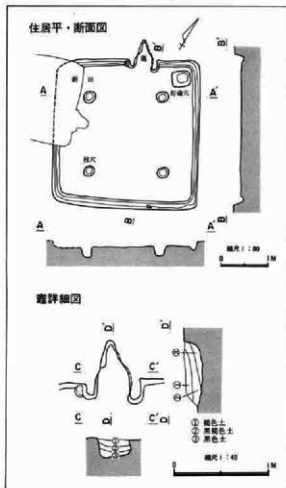
挿図	1	中尾遺跡周辺地形図	ii
	2	子備調査トレンチ配置図	viii
	3	本調査発掘区域図	x
	4	遺跡全体図	xi
	5	C地区遺構配置図	2
	6	D地区遺構配置図	52
	7	E・F地区遺構配置図	124
	8	中尾城現況図	164
図版	1	子備調査トレンチ（C地区）	vii
	2	遺構確認作業風景	
	3	遺跡周辺の地形	ix
	4	発掘調査風景	xii
	5	発掘調査風景（D-94号住居周辺）	
	6	古墳時代の住居（C-121号住居）	2
	7	重複状況（C-10・11号住居）	
	8	C-17号住居周辺（南から）	
	9	C-48号住居周辺（西から）	
	10	C-123号住居周辺（西から）	3
	11	奈良時代の住居（C-123号住居）	
	12	焼失家屋（C-13号住居）	
	13	C-71号住居周辺（東から）	
	14	C-32号住居周辺（西から）	
	15	D-146号住居周辺（西から）	52
	16	石帯出土状態（D-66号住居）	
	17	D-66号住居	
	18	18号井戸周辺（北から）	
	19	D-120号住居周辺（西から）	53
	20	D-57号住居周辺（南から）	
	21	D-8号住居周辺（南から）	
	22	F地区 北壁土層断面	124
	23	遺物出土状態（F-1・2号住居）	
	24	F-1・2号住居	
	25	E-6号住居周辺（西から）	
	26	E-21号住居周辺（西から）	125
	27	E-4号住居	
	28	重複状況（E-12-13号住居）	

例言

- 本書は關越自動車道(新海線)建設工事に伴う、群馬県高崎市巾尾町巾尾遺跡の発掘調査報告書である。
- 本巻には、出土遺物の具体的な報告は行わない。
- 調査は昭和51年7月1日から、昭和52年10月31日にかけて実施した。
- 調査は日本道路公団東京第二建設局の委託を受けて、

- 群馬県教育委員会が直営事業として実施した。
- 編集方針は、原則として重複した竪穴住居の一群を見開きでることにおき、順序は竪穴住居の旧→新に関する所見に従った。
- 遺構の内訳は竪穴住居279、獨立柱建物5、土垣123、井戸22、溝16、及び城跡の一部である。

図式凡例



記述凡例

- 形状** 外形の形状、規模による分類名・軸長・形状の特徴・住居分類型の特徴・集落内の分布位置。
- 面積** 平面図上でプランメーターによる3回の計測平均値(住居確認面の掘込から内側 壁溝含む)。
- 方位** 炉付住居は長軸線、竪付住居は竪付設置に直交する軸線の、磁北に対する傾き。磁北から時計回りを+、反時計回りを-とした。
- 床面** 構築面の土層・床面の構築方法・床面の状況。
- 柱穴** 配置の状況・個数・深さ・形状。
- 炉跡** 位置・形状・構築状況・使用状況。
- 竪穴** 位置・残存状態・寸法・形状・構築状況及び構造・使用状況。
- 壁溝** 形状・寸法・構築状況。
- 貯蔵穴** 位置・形状・寸法。
- 遺物** 出土平、断面位置・器種(器種のみを記したものは土師器を示す)。
- 重複** 重複する相手の住居名・新旧関係に関する所見とその根拠。

※ 住居の検索には巻末の竪穴住居索引表を参照のこと。



竪穴住居分類基準

上段：長軸長(長軸長/短軸長)
下段：長軸短(単位=)

規模 \ 形状	正方形	半横長長方形	横長長方形	半縦長長方形	縦長長方形
超大型	1.0 ~ 1.1 未満 6.5以上	1.1 ~ 1.5 未満 6.5以上	1.5以上 6.5以上	1.1 ~ 1.5 未満 6.5以上	1.5以上
大型	1.0 ~ 1.1 5.4 ~ 6.5	1.1 ~ 1.5 5.4 ~ 6.5	1.5以上 5.4 ~ 6.5 未満	1.1 ~ 1.5 5.4 ~ 6.5	1.5以上 5.4 ~ 6.5 未満
中型	1.0 ~ 1.1 4.3 ~ 5.4	1.1 ~ 1.5 4.3 ~ 5.4	1.5以上 4.3 ~ 5.4	1.1 ~ 1.5 4.3 ~ 5.4	1.5以上 4.3 ~ 5.4
小型	1.0 ~ 1.1 3.1 ~ 4.3	1.1 ~ 1.5 3.1 ~ 4.3	1.5以上 3.1 ~ 4.3	1.1 ~ 1.5 3.1 ~ 4.3	1.5以上 3.1 ~ 4.3
超小型	1.0 ~ 1.1 3.1未満	1.1 ~ 1.5 3.1未満	1.5以上 3.1未満	1.1 ~ 1.5 3.1未満	1.5以上 3.1未満

I 予備調査作業報告

群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査研究部長 松本浩一

- 1) 調査に至る経緯
- 2) 分布調査の過程と結果
- 3) 試掘調査の過程と結果
- 4) 調査の成果と本調査への指針

1) 調査に至る経緯

関越自動車道(新路線)は、東京―新潟を結ぶ高速道路として計画され、埼玉県東松山市―群馬県渋川市の間については、昭和44年1月に基本計画、同年6月に整備計画の決定がなされた。

群馬県教育委員会では、この路線に関連する埋蔵文化財保護に必要な資料を作成するため、昭和44年以来二度にわたる分布調査を実施し、調査をすべき遺跡の分布状況を確認した。

これら遺跡の発掘調査については、群馬県教育委員会教育長と日本道路公団東京建設局長との間で、「関越自動車道新路線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する了解事項」を締結し(昭和48年度)、この了解事項に基づいて調査を実施することとなった。

発掘調査は、昭和48年度から、県教育委員会の直営事業として実施され、中尾遺跡は昭和51年7月から調査を開始し、昭和52年10月に終了した。

2) 分布調査の過程と結果

前述のとおり、計画路線にかかる埋蔵文化財の分布調査は二度にわたって実施された。

第一回は、昭和44年に実施したもので、渋川市以南の路線の通過が予想される地域について、幅4kmにわたっての表面採集調査である。この結果、藤岡市―渋川市の間で386件の遺跡が確認された。

さらに、昭和46年6月に道路公団から群馬県に対して、渋川市以南について、幅200mにわたる計画路線内の関連公共事業の調査依頼があり、これに基づいて、県教育委員会は二度目の分布調査を実施することとなった。この幅員は200mという限定された範囲であり、藤岡―渋川間で22箇所の遺跡が確認された。

中尾遺跡は、上記22箇所の遺跡の一つである。遺跡は前橋インターチェンジにかかる地域であるが、高崎・前橋バイパス北側一帯に土器片の散布が多くみられ、バイパス北側を中心に遺跡地として確認された。

また、昭和50年7月発掘調査実施に先立ち、遺跡の範囲再確認の意味もあって、改めて分布調査を実施した。この際の所見では、バイパス北側の本線敷に沿った微高地上に土器片が集中的に散布し、東半分及び西側部分では散布がこくわずかであることが確認された。

3) 試掘調査の過程と結果

本遺跡には、昭和51年7月1日から調査に入った。分布調査で遺跡地とした範囲は40,000㎡に近い広い区域である。調査にあたっては、ほぼ南北に走る道路本線の中心杭2本(60m間隔)を見通して軸線を設定し、これを基準に10m正方の大グリッドを設定、これをさらに2m正方の小グリッドに区分した。また道路敷が南北に長いので、南北方向にあっては、



▲1 予備調査トレンチ (G地区)



▲2 遺構確認作業風景



神岡2 予備調査トレンチ配置図

1:3,000

100 mを1単位として南からA-E区の5区に区分した。また、東西方向にあっては、道路本線中心枕を見通した軸線を「100」とし、これより東は2 mを1単位として101、102…とし、西は同様に99、98…と連番として遺跡地内をカバーした。

さて、分布調査で最も土器の散布が多かったのが国道17号より北で、軸線としてとった本線中心枕周辺の桑園地帯である。ここは遺跡地のほぼ中央にあつている。

試掘溝は、幅1.5 m、長さ4 mのものを、縦・横ともに8 mの間隔をあけて設定することを原則とし、まず、前述の遺跡地中央部分から試掘に入った。この区域では、試掘溝にかかる遺構の数も多く、全面的調査を要する区域として、7月13日から表土の排土作業に入り、遺構調査にかかった。(神岡2中央下半部)

9月中旬、遺跡地東南の一隅を試掘、遺構が多く確認された中央部との間に溜田を挟む区域であるが、試掘の結果、中央部に見られるローム層の堆積は全

く見られず、粘性褐色土層及び灰褐色土層となり、以前は低地帯であった区域とみられた。なお、試掘溝内に溝状のものも見られたため、10月下旬、念のため、1,500 m²ほどの範囲について表土を除き精査したが遺構は検出されなかった。

11月1日～11月12日、遺跡地北東部の試掘。道路中心枕(グリッド100の軸線)から東20 m(110ライン)のところに帯状の水田(中尾城の堀跡)を境にして東と西では地層が全く異なることが明らかとなる。帯状水田から西はローム層の堆積が明確なものに対し、東ではローム層は全くない。試掘の結果でも、東側一帯では土器片の出土もほとんどなく、遺構はないのに対し、ロームの堆積する西側には、住居跡が密集している。東側に見られる地層は、粘性の非常に強い褐色土である。

11月15日、遺跡地西端の試掘。この区域にもローム層の堆積なし、井戸跡検出のため拡張したが他に遺構はなし。

11月16日、西側試掘と合わせて、遺跡地中央北半



▲3 遺跡周辺の地形

部の試掘に入る。遺構の検出が多いため、全面的に拉張の上調査することとする。

昭和52年4月20日から、遺跡地最東端区域試掘。粘性土が主体で東へ向って次第に傾斜していく傾向が見られる。遺構は確認できない。

なお、前年12月国道南の地区を試掘。この部分についても、国道北のC区で見られたローム層の堆積はなく、遺構も確認されなかった。また、南にある日高遺跡でみられた浅間山のB軽石及びC軽石の堆積は一部確認されたが水田遺構は認められなかった。

なお、水田遺構については、国道北においても、集落周辺では検出されなかった。

4) 調査の成果と本調査への指針

前述のとおり、予備調査として実施した分布調査の結果、地表で観察できた土器片の量は、国道北側の本線敷部分が濃密な分布を示していた。これに対して、東側及び西側の沖積地を挟んだ対岸では僅かな分布を認めるにすぎず、地区によって明確な分布量の差を示すことが確認された。この分布調査の結

果、遺跡は国道北側の微高地上を中心にして、沖積地を挟む東西の対岸に僅かなひろがりを示すことが予想された。

一方、分布調査に次いで実施した試掘調査の結果、国道北側の南北に続く微高地上で多数の住居跡が検出された。とりわけ、現在水田となっている中尾城の堀跡付近では、重複した平安時代の住居跡が多く、僅かではあるが古墳時代前期の住居跡も存在した。しかし、沖積地を挟む東側と西側の対岸及び、国道の南側には住居跡がなく、分布調査で予想した遺構の分布状況と一致する結果を得るに至った。

これらの分布調査及び試掘調査の結果、遺構の分布する範囲は国道北側の南北に続く微高地上に中心をもつことが予測され、調査対象範囲は当初の123,000㎡から38,000㎡に限定することが可能となった。また、試掘調査によって検出した遺構は、平安時代の竈を伴う小型住居が圧倒的に多かったが、僅かに古墳時代の住居跡も検出したことから、古墳時代から平安時代にわたる集落跡であることが予想された。

II 本調査作業報告

群馬県教育委員会文化財保護課
指導主事 都丸 肇
前橋市教育委員会社会教育課
主 事 前原 豊

- 1) 調査の方法と過程
- 2) 遺構・遺物の出土傾向
- 3) 予備調査との照合結果
- 4) 本調査の成果

1) 調査の方法と過程

前述の分布調査及び、試掘調査で得た資料に基づいて、遺構が最も密集すると予想した国道北側の微高地から、一部試掘調査と併行して本調査を開始するに至った。本調査は群馬県教育委員会の直営事業として実施し、昭和51年7月、微高地の南端から着手した。調査体制は右記のとおりである。

調査担当者

松本浩一（群馬県教育委員会文化財保護課 文化財保護主事）

都丸 肇（ 同 上 ）

前原 豊（県教育委員会文化財保護課 調査員）

佐藤京子（ 同 上 ）

調査は10m正方の大グリッドを遺跡地全体にかぶせて試掘溝を設定し、試掘の結果遺構の確認された地区については全面調査を実施した。なお、試掘の際遺構の存在が明らかになった所は試掘作業を中止して表土を排除し全面調査に移行したが、遺構の確認がされない地区については、試掘溝の数を増し試掘率を高めている。

昭和51年

7月1日 発掘用器材搬入。

7月2日 桑の抜根作業。

7月5日 グリッド用南北軸線の設定。グリッド基本杭打ち。

7月6日 C区試掘開始。土師器、須恵器の破



地図3 本調査発掘区域図

1:1,000

片多く出る。

- 7月10日 C区表土除去。全面調査に入る。
7月21日 C区遺構精査に入る。
9月13日 台風17号による雨。遺跡地内滞水著しい。
11月26日 C区遺構密集地、西側及び北側の表土除去作業。
12月4日 C区南側部分の表土除去。

昭和52年

- 2月9日 C区北端を東西に横断している用水路より南側については、調査はは終了。
2月14日 用水路から北、すなわち、C区北端及びD区にかけて表土除去作業開始。
2月17日 表土除去の終わった部分について、遺構確認及び住居跡精査に入る。
2月24日 10溝(城の堀跡)の精査に入る。
3月3日 10溝の東に南北に走る幅約15mの谷状落ち込みトレンチ掘削。
3月5日 上記落ち込みは自然に形成された谷であることを確認。この谷を境として東にはローム層の堆積なく粘性土が形成されているのに対し、谷の西はローム層が堆積している。この西側部分に遺構が集中している。この谷を境とした地形の相異が確認された。
3月7日 C区及びD区表土除去終了。
3月12日 10溝の走行は確認。
3月26日 昭和51年度作業終了。
4月7日 昭和52年度作業開始。
5月21日 県教育委員会主催「文化財の集い」の一環として現地説明会。
7月4日 D区南半部調査終了。
7月5日 D区北半部及びE区表土除去作業に入る。
7月12日 D区北半部の遺構精査に入る。
7月13日 D区・E区表土除去終了。
8月13日 連日のように雨降り続き遺跡内は水～25日となる。
10月14日 D、E区の調査終了。遺跡の主要部



挿図4 遺跡全体図

1:3,000

分は完了し、F区を残すのみとなった。調査は、開始以来二度目の秋を迎えた。

- 10月15日 F区(C区西側に設定)遺構精査。
10月21日 F区調査終了。
10月24日 器材・遺物の搬出。
10月31日 調査終了。

2) 遺構・遺物の出土傾向

分布調査の段階では遺跡の範囲は挿図3にみるように、インターチェンジ敷地内の大半を含む区域をマークしていたが、結果的に遺構は上の挿図4にみるように東西幅60～70m、南北250mの範囲内に集中していた。遺構分布の東限は、中尾城の堀跡とみられる帯状の水田によって明らかに区別される。この水田東には自然谷が形成されていたことが試掘により確認されている。前述のとおり、この南北に走る堀(谷)を境として、西はローム層堆積地、東は粘土層堆積地と地層的にも明確な区分がなされる。また南もC区南端からローム層の堆積は次第にうすくなり、国道南のB区にあっては、浅間B軽石の堆積もみられ低地帯となっている。同様な傾向は西側でもみられる。ただし、D区北部及びE区については、集落はさらに西へ延びるものと考えられるが、今回

の調査では路線外となるためどこまで範囲がひろがるかは確認がとれていない。竪穴住居を主体とする集落は、北から南へのびる舌状の微高地上に分布している。集落の時的傾向としてはC区北端及びD区南端に古式土師器を伴う住居及び鬼高期の土器を伴う住居がわずかにあるが、圧倒的に多いのは真間・国分期の土器を伴う奈良～平安時代の竪穴住居である。一方、この時期にあっても掘立柱形式の建物の数が少ないという傾向がみられる。竪穴住居も奈良～平安時代のものほとんどは12～15㎡と小形であり、床面に柱穴が検出されない傾向が強い。

中世期の遺構として、前述の微高地東端に沿って走る中尾城に関係するとみられる堀跡はあるが、堀以外では城に関係すると見られる遺構は検出されなかった。

1戸当りの遺物出土量は概して少ない傾向がある。出土品のうちで器類は須恵器の占める率が比較的高いが、質的には落ちるものが多い。一方では良質な灰釉陶器の出土も目立つ。また、わずかではあるが緑釉陶器が1戸の竪穴住居に集中して出土したことも注目される。土器類の他では、竪穴住居内から石製巡方が出土している。これらの物が出土し、圧倒的に奈良～平安時代の住居が多い集落であるにもかかわらず墨書土器の出土は、他の同時期の集落と比較しても非常に少ないというのも一つの特色であろう。

鉄器類の出土は少ないが、かなり使いこまれた砥石の出土は比較的多い。

3) 予備調査との照合結果

予備調査、特に表面採集による分布調査の段階でも、遺物散布量の密度に差が認められたが、調査段

階での地形からみて、東の区域にも遺構の存在も予想された。

しかし、試掘調査及び一部の拡張調査の結果からも、土器散布量の少なかった東及び西の区域には遺構はなく、最も濃密に散布していた本線数部分に遺構が集中する結果となった。本遺跡では、土器片散布密度の多少と遺構の有無とはほぼ一致する傾向を示している。さらに、分布調査に続いて実施した試掘調査によってこの傾向は一層明確となり、発掘区域を、当初予測した遺構の分布範囲に限定して実施することが可能となったのである。また、予測した集落の時期については、一部に縄文時代の土壇が存在したものの予測と同様な結果を得る結果となった。

4) 本調査の成果

昭和52年10月31日、1年4ヶ月にわたる調査は終了した。当初の、インターチェンジを含めた道路建設予定区域面積123,000㎡は、分布調査及び試掘調査の結果、国道の北側を中心とする38,000㎡に圧縮され、さらに本調査の結果から遺構が分布する範囲は、国道の北側に南北に続く微高地上の17,000㎡に集中することが判明した。検出された遺構は、竪穴住居279、掘立柱建物5、土壇123、井戸22、溝16、及び城跡の一部である。遺物は、勝坂、石田川、鬼高、真間、国分期の土器が出土している。

なお、調査段階より問題となっていた集落の範囲については、遺跡北半の西側が調査区域外となるため、全面発掘とは言いがたい。しかし、推定上野国府跡付近に位置するこの遺跡で、奈良～平安時代における集落の一形態を確認し得たことは事実で、そうした意味で重要な調査であったと考えられる。



▲4 発掘調査風景



▲5 発掘調査風景 (D-94号住居周辺)

III 住居図面・写真・記録集成



C 地区



▲6 古墳時代の住居 (C-121号住居)



▲7 重様状況 (C-10-11号住居)

▼8 C-17号住居周辺 (南から)



▼9 C-48号住居周辺 (西から)

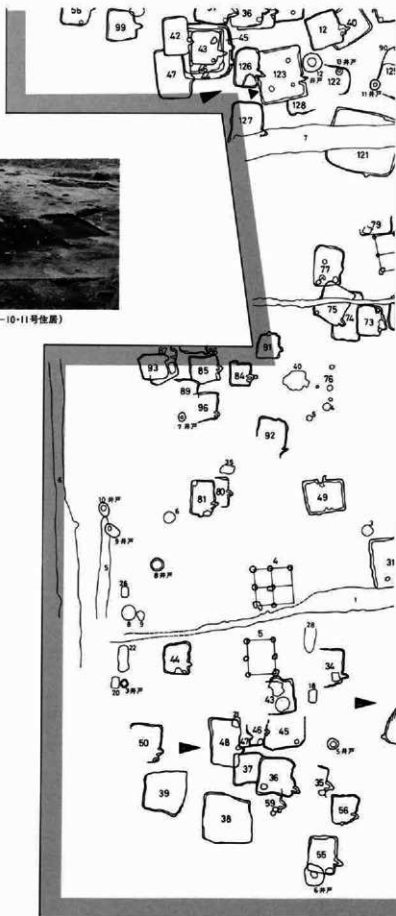
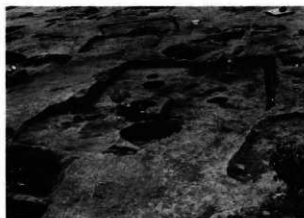
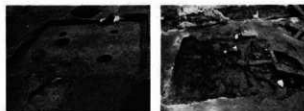




図5 C地区遺構配置図



▲10 C-123号住居周辺 (西から)



▲11 奈良時代の住居(C-123号住居) ▲12 焼失家屋 (C-13号住居)

▼13 C-71号住居周辺 (東から)



▼14 C-32号住居周辺 (西から)



C-1号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.6m、長軸4.9mの不整形平面形を示す。軸線の傾きは近接する住居に似ているが住居の形態は大きく異なる。D-47号住居と、住居の形状、規模が近似している。

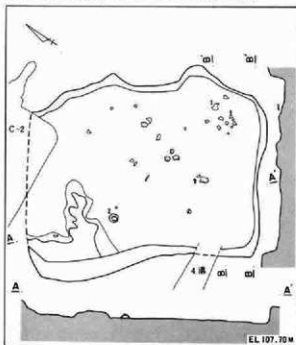
面積 18.7㎡ **方位** -39°

床面 粘質黒褐色土層を30cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で整っている。住居北西部に島状の小高い地山の掘り残した部分がある。

竈跡 確認できない。東壁の南側に幅70cm、奥行き30cmで半円形の掘り込みを検出した。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるので、この部分に設置していた可能性が高い。

遺物 住居北西部の床面直上より高台付埴、住居南東部の覆土内より甕が出土する。

重複 C-2号住居と重複する。C-2住居の焼土が、この住居の床面上を覆っている平面精査の所見を得た。



C-2号住居

形状 分類できない。東壁に竈を設置し、竈と相対する西壁の南側に貯蔵穴を配置する。北壁と南壁は確認できないが、貯蔵穴を竈と相対する壁の際に配置する正方形住居の例は中尾遺跡にない。 **方位** +85°

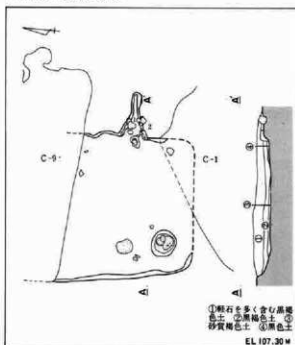
床面 粘質黒褐色土層を30cm掘り込んで床面とする。重複のため生活面を確認できたのは竈周辺部のみである。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの台形に掘り込んで燃焼部を壁外に造り出す。焚口部両端と燃焼部奥壁両側に4個の自然石を据える。煙道は火床から暖やかに立ち上がり、燃焼部の外側50cmまで伸びる。

貯蔵穴 住居南西隅に直径50cmの円形プランで設ける。

遺物 竈内より高台付埴、羽釜の破片が出土する。

重複 住居北側でC-9号住居、南側でC-1号住居と重複する。C-9号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得、竈の焼土がC-1住居の床面上を覆っている平面精査の所見を得た。



① 軽石を多く含む黒褐色土 ② 黒褐色土 ③ 粘質黒褐色土 ④ 黒色土



C-9号住居

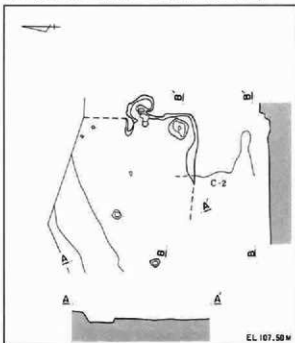
形状 分類できない。住居北側は後世の溝に切られ、南側で住居と重複するため、住居の南東部及び竈以外は確認できない。**方位** +93°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。確認した面は平坦で良く整っている。住居の西側に長軸50cm、深さ10cmの楕円形ピットを検出したが、この住居に伴うか否かは不明である。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部はそっくり壁外に造り出す。掘り込みに沿って自然石を据え、粘土で主体部を構築する。据えられた石は崩れて原位置を留めていない。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居南東隅に直径40cm、深さ10cmの不整円形プランで設ける。

重複 住居南側でC-2号住居と重複する。この住居がC-2住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



C-3号住居

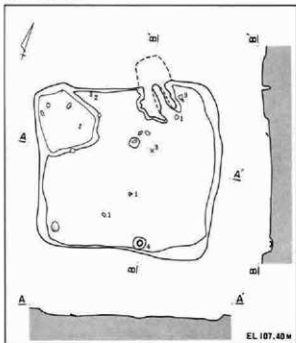
形状 小形準横長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.3m、長軸3.9mの整った長方形を示す。中尾遺跡では北壁に竈を設置する住居は少なく、東壁側の小形住居との時間差を示していると考えられる。**面積** 13.3㎡ **方位** -20°

床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。生活面が確実に把握できないためか、平坦な部分が確認できない。住居中央北側と南壁際中央に直径20cm、深さ10cmの性格不明な円形ピットを検出した。

竈跡 北壁の中央東側に設置する。残存状態は良い。粘土で壁に対してやや斜めに袖部を造り付け、主体部を構築する。袖部の状況から燃焼部は壁内に留まり、煙道は火床から緩やかな勾配で壁外60cmまで伸びる。

貯蔵穴 確認できない。類似から住居北東隅に設けていた可能性が高い。

遺物 住居中央部及び竈東側の床面に密着して環、瓿の破片が出土する。



C-4号住居

形状 小形正方形。一辺4.2mの整った平面形を示す。南壁部は掘り込みが浅いため確認できない。

面積 17.5㎡ **方位** -26°

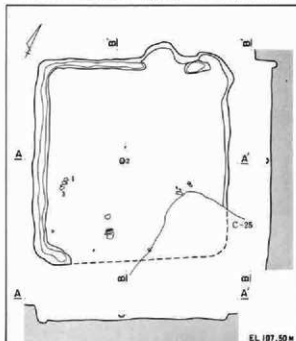
床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。貼床はそのまま構築面をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 確認できない。北壁中央東側に検出した半円形の掘り込みは精査の結果竈ではなかった。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する住居に切られた可能性がある。

壁溝 西壁と北壁の一部に幅10~20cm、深さ5~10cm。

遺物 住居中央部の床面直上より環(須恵器)、西壁際中央南側の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 住居南東部でC-25号住居と重複する。新旧関係を判別する実証的資料はないが、竈が確認できないことからC-25住がこの住居を切って構築していると判定する。



C-25号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸4.2mの整った平面形を示す。D-146号住居と、住居の形状、規模が近似している。

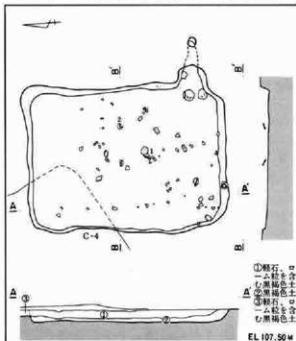
面積 12.7㎡ **方位** +84°

床面 粘質黒褐色土層を25cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南端近くに設置する。残存状態が良く煙道部の天井は原形を留めていた。壁を幅60cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで燃焼部は壁外に造り出す。煙道は幅20cmで火床から水平に40cm伸びて、70°の角度で立ち上がる。燃焼部手前床面の2個の河原石は性格が不明である。

遺物 住居中央部の床面直上より羽釜、住居中央東側の床面直上より高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 住居北西部でC-4号住居と重複する。新旧関係を判別する実証的資料はないが、C-4住の竈が検出できないことから、この住居がC-4住を切っていると判定する。



C - 16号住居

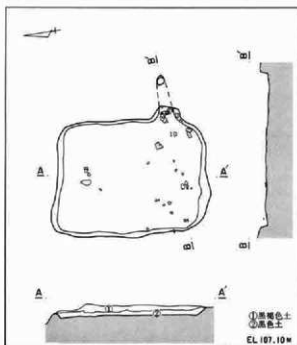
形状 小形単純長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.1mを測る。西壁に対して東壁が僅かに短い不整長方形を示す。台地の東端に占地し、相似形で規模が異なるC-25号住居と、同時存在し得ない距離に近接している。D-10号住居と、住居の形状、規模が近似する。

面積 7.6㎡ **方位** +97°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を整えて生活面としている。生活面は全体に平坦で整っている。

竈跡 東壁の南壁近くに設置する。残存状態が良く、煙道の天井は遺存していた。壁を幅50cm、奥行き35cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は粘質の黒褐色土で構築する。煙道は幅25cmで、火床から水平に60cm伸びて垂直に立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 住居南東部の床面直上より皿が出土する。



C - 12号住居

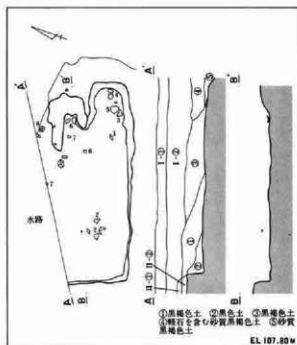
形状 分類できない。北側の半分が後世の溝に切られて確認できないため、住居の外形は確定できない。

方位 +69°

床面 粘質黒褐色土を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。住居南西部の床面上10cmより性格不明の焼土を検出した。なお、住居北側に設定した土層断面から切込面はII-1層であることを確認し、壁高は50cmと推定できる。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が悪く天井部、袖部共に崩れている。ロームと粘質土の混土で主体部を構築し、燃焼部は壁内に造り付ける。煙道部の状況は不明であるが、壁外への掘り込みはない。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈の火床に密着して環、盤、住居南東隅の覆土内より高台付皿(須恵器)、住居南西部の焼土上面より高台付皿(須恵器)が出土する。



C - 13号住居

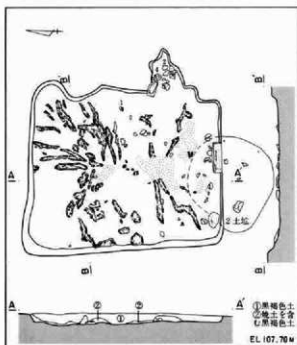
形状 小形準横長長方形、長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸4.2mで、東壁の北端に幅70cmの半円形をした張り出し部をもつ不整長方形を示す。

面積 14.1㎡ **方位** +85°

床面 粘質黒褐色土を20cm掘り込み平坦に整えて床面とする。住居一面の床面に密着して炭化材及び焼土が出土する。住居一面の床面に密着して炭化材及び焼土が出土する。焼失家屋である。炭化材は住居の北東部に集中し、壁の外側から中央に向かって規則的に焼け落ちている。主柱及び棟木と推定される炭化材は検出できない。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き60cmの方形に掘り込んで焼部は壁外に造り出す。焚口部の左側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は幅20cmで焼部部の外側20cmまで伸びる。なお、焚口部の補強材と同質の切石が南壁際中央の床面に密着して出土する。

遺物 東壁際中央の床面直上より皿(須恵器)、甕の覆土内より羽釜、高台付碗(須恵器)が出土する。



C - 14号住居

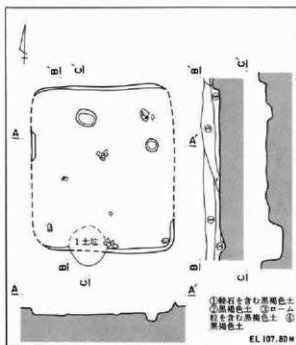
形状 小形準横長長方形、長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.5mを測る。西壁の立ち上がり不明瞭であるが、確認した壁の間を推定線と結ぶと整った長方形を示し、北壁と南壁は直線的である。近接するC-71号住居と、住居の形状、規模が極めて近似する。台地中央の頂上部分付近に、単独で占地している。

面積 10.5㎡ **方位** -5°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。南壁の西側で重複する1土坑の上部にのみ貼床を施し、他はロームの地山を平坦に整えて生活面としている。1土坑内からは縄文式土器の破片が出土する。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に焼土、灰などの竈の痕跡を示すものは一切ない。

遺物 南壁際中央の覆土内より甕の破片、住居北東部の覆土内より甕の破片が出土する。



C - 15号住居

形状 小形半縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.1m、長軸3.7mを測る。隅が大きな丸味をもち、西壁に対して東壁が長い不整形長方形を示す。住居の隅を斜めに切って竈を構築する例は、中尾遺跡に6例と少ない。遺跡南端のC-54号住居と住居の形状が相似形を示し、竈の構造も似ている。

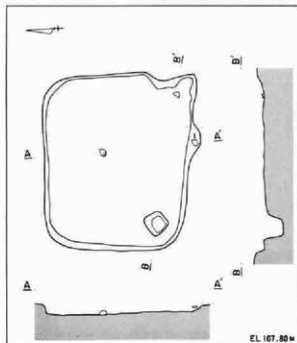
面積 11.2㎡ **方位** +91°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。住居北東部に小さな窪みがあるが、全体に平坦で良く整っている。

竈跡 住居南東の隅を切って構築する。壁を幅60cm、奥行き40cmの三角形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。強く焼けた痕跡はなく石材の使用もない。煙道の状況は不明である。

貯蔵穴 住居南西隅に一辺40cm、深さ40cmの正方形プランで設置する。

遺物 南壁際中央より高台付皿(須恵器)が出土する。



C - 76号住居

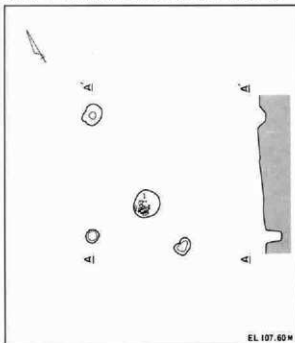
形状 分類できない。掘り込みが浅いため住居の外形は確認できないが、3個の柱穴と炉跡から竈住居と判定する。柱穴間の寸法はD-4号住居に近い規模を示し、住居軸線の傾きも似ているため、近似した住居規模をもつと考えられる。 **方位** +31°

床面 生活面は削平されて確認できない。炉は粘質黒褐色土上に認められた。

柱穴 3個を確認した。柱穴の配置は長軸と短軸が直交せず、心々を結ぶ四角形は不整形長方形を示すと考えられる。柱穴間の寸法は南辺1.9m、西辺2.5m。床面から深さ20~30cmの円形掘り方を示す。

炉跡 柱穴を結ぶ四角形の中心から南東に偏して焼土を抽出した。生活面が削平されて詳細は不明であるが、床面に直径50cmの浅い窪みを掘って炉床とする。焼土が多く、強く焼けた痕跡を残す。

遺物 炉の焼土上面に密着して製の破片が出土する。



C-8号住居

形状 超大型正方形。ローム層への掘り込みが浅いため、東壁と北壁の一部を除いて壁の立ち上がりは確認できず、壁溝によって住居の外形を確定した。一辺7.3mを測る。直線的な壁で構成される整った方形を示し、竈付の住居では中尾遺跡内で最大の規模をもつ。南側に点在する大型正方形住居と相似形を示すが、同形状、同規模の類例は中尾遺跡にない。北壁に竈を設置するのは正方形住居が圧倒的に多く、なかでも大型以上の正方形住居に限定され、これらは柱穴と壁溝を備えている。C-24号住居と重複して、同形状の中形正方形住居との時間差を示している。遺跡南半で、台地東側の僅かな空間地に占地する。

面積 53.9㎡(推定) **方位** -7°

床面 ローム層を5cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床して生活面を作った可能性があるが、生活面は住居の平面精査で削平して確認できない。住居の中央西側を南北に、後世の溝が床面を深く掘り込む。

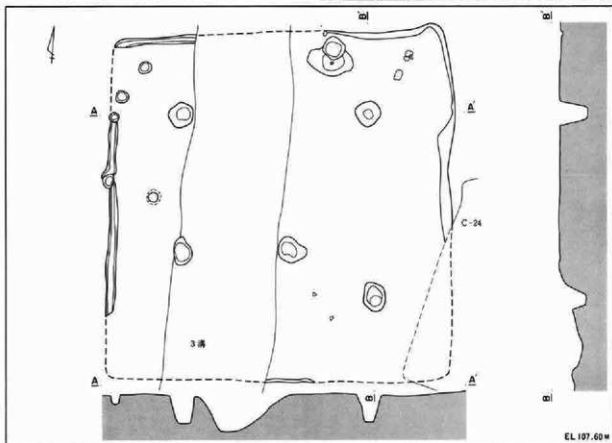
柱穴 住居の対角線上に3個を確認した。南西に位置する柱穴は後世の溝に切られて確認できない。心々を結ぶ四角形は住居外形と相似形で、一辺4.0mの

整った正方形を示すと推定する。床面からの深さ50~60cmの円形掘方である。

竈跡 北壁の中央東側に設置する。残存状態が悪く、壁に沿って僅かな焼土を検出したのみで、主体部は原形を留めていない。主体部は白色粘土で構築した痕跡を残す。住居北東部の構築面直上より出土した凝灰岩の切石は、焚口部を構成していたものの可能性が高い。

壁溝 西壁と北壁の一部に幅15cm、深さ10cmで巡る。

重複 C-24号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C-7号住居

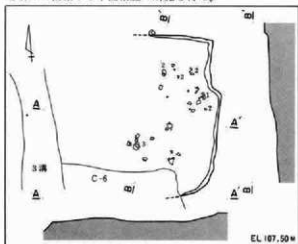
形状 分類できない。西壁の掘り込みが浅いため、住居の外形は確定できない。

床面 ロームを10cm掘り込み、平坦に整えて床面とする。

炉、竈 確認できない。出土した遺物からは、炉と竈の判定ができない。焼土・灰の痕跡は一切ない。

遺物 東壁際中央の床面に密着して坏、住居北東部の覆土内より甕、住居中央南側の覆土内より壺が出土する。

重複 C-6号住居と重複する。C-6住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-24号住居

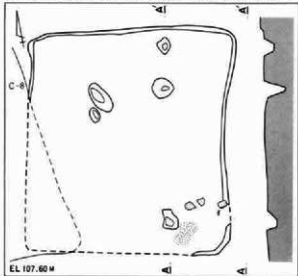
形状 中形正方形。長軸4.7m。D-46号住居と住居の形状、規模が近似。面積 20.2㎡(推定) 方位 +9°

柱穴 床面からの深さ20~30cmで3個を確認した。

炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できるが、炉の痕跡を示す焼土、灰は検出できない。

遺物 住居の覆土内より甕の破片が出土する。

重複 C-8号住居との新旧関係を判別する資料はない。



C-6号住居

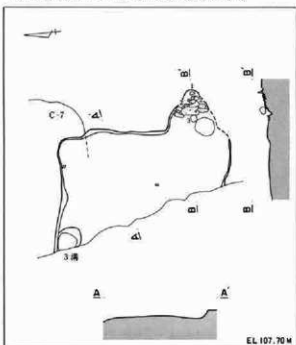
形状 分類できない。住居の西側は後世の溝に切られて確認できない。長軸は3.5mで確認した壁は整った形状を示す。方位 +97°

床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床して生活面を作った可能性があるが、生活面は軟弱で確認できない。構築面は住居北側が南側よりやや深く掘り込まれている。竈手前のビッドは後世のもの。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅100cm、奥行50cm掘り込んで熱焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に河原石を据え、その上に凝灰岩の切石を横架して焚口部を構成する。この凝灰岩の切石は強く火を受けた痕跡を残す。火床の中央部に砲弾状の石を埋め込んで支脚とする。煙道の状況は不明である。

遺物 竈の火床に密着して羽釜、高台付埴(須恵器)。

重複 住居北側でC-7号住居と重複する。この住居がC-7住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。



C - 10 号 住 居

形 状 大形正方形。一辺5.7mを測る。直線のな壁で構成されるが、南壁に対して北壁が長い不整形を示す。台地東側の縁辺部に、ひとまわり大きい大形正方形住居と重複して占地し、C-17号住居、C-31号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

面 積 30.7㎡ **方 位** -12°

床 面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。

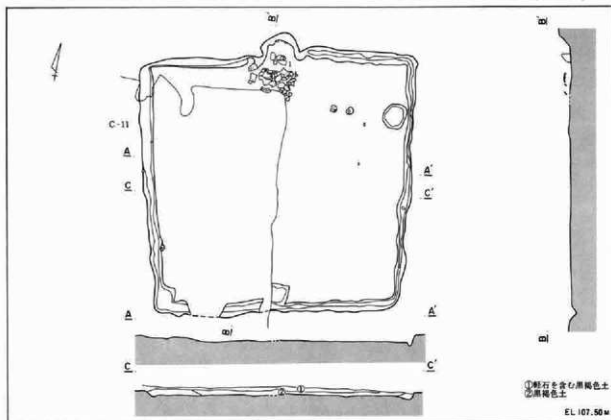
柱 穴 確認できない。同規模の大形正方形住居で柱穴を確認できないのは、この住居のみである。

竈 跡 北壁の中央に設置する。残存状態が悪く主体部は原形を留めていないが、壁内に造り付けた短い袖部を検出した。燃焼部は幅70cm、奥行き50cmで壁内に造り付け、白色粘土で構築する。焚口部に横架していたと考えられる妻が、焚口部の床面直上より出土する。火床の中央から左側に土製支脚を埋込む。煙道は火床から水平に30cm伸びて、45°の傾きで立ち上がる。

壁 溝 幅15cm、深さ10cmで竈下を除いて全周する。

遺 物 竈の火床に密着して妻が出土する。

重 複 C-11号住居と重複する。C-11住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-11号住居

形状 大形正方形。一辺6.0mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される整った方形を示す。C-23号住居と、住居の形状、規模が近似している。外形が相似形のC-10号住居と重複し、同形との時間差を示している。

面積 38.0㎡ **方位** -5°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。住居東半のC-10号住居との重複部に厚さ5cmの貼床を施し、西半は地山を平坦に整えて生活面とする。柱穴を結ぶ四角形の内側が、周壁部より5cm低い。

柱穴 住居の対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形で、一辺3.3mの整った

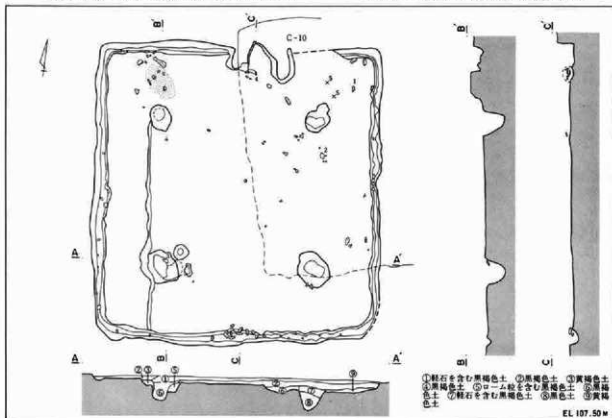
方形を示す。床面からの深さ40~50cmの円形掘方である。

竈跡 北壁の中央から僅か東側に設置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmで壁内に造り付け、白色粘土で構築する。袖部の芯に凝灰岩の切石を用いる。煙道は壁を切り込んでいない。

壁溝 幅15~20cm、深さ10cmで竈下を除いて全周する。

遺物 竈の覆土内より炭、住居北東部の覆土内より環、南壁際中央の壁溝内より棒状の河原石が出土する。

重複 C-10号住居と重複する。この住居がC-10住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-17号住居

形状 大形正方形。一辺5.8mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される整った方形を示す。C-10号住居、C-31号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似する。周辺に点在する同形状の正方形住居は、北壁に竈を設置して壁溝と柱穴をもつ共通性があり、住居の形状、柱穴の配置が規格性に富んでいる。中尾遺跡で壁溝と柱穴をもつものは、大形正方形住居が多い。

面積 30.9㎡ **方位** -16°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。住居

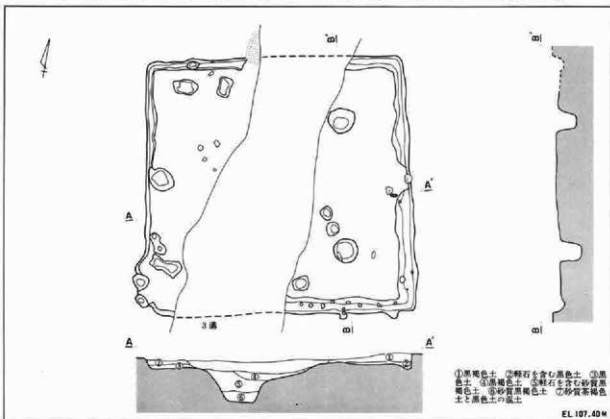
の中央を南北に後世の溝が切る。

柱穴 住居の対角線に2個を確認した。北西と南西に位置する柱穴は確認できないが、2個のビット列が住居の外形に対して整然とした配置を示すので、柱穴と判定した。床面からの深さ40～50cmの円形掘方である。

竈跡 北壁の中央付近に設置する。後世の溝に切られて主体部は原形を留めていないが、北壁の中央付近に焼土を検出した。この部分を除いて、竈の痕跡を示すものは一切ない。

壁溝 幅10～20cm、深さ10cmで西壁の南側を除いて巡る。

遺物 住居の覆土内より環の破片が出土する。



C-19号住居

形状 大形正方形。長軸を南北にもち、短軸5.0m、長軸5.5mを測る。住居東側の掘り込みが浅いため、壁の立ち上がりは確認できないが、壁溝によって外形を確定した。柱穴と壁溝をもつ大形正方形で、C-17号住居、C-31号住居に、住居の南北軸が一致している。北壁に竈を設置する大形正方形住居で、南北と東西の軸長が大きく異なるのはこの住居のみである。C-17号住居と同時存在し得ない距離に近接して占地する。

面積 28.2㎡ 方位 -13°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に粘床して生活面を作った痕跡があるが、生活面

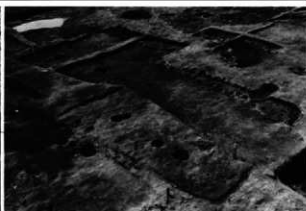
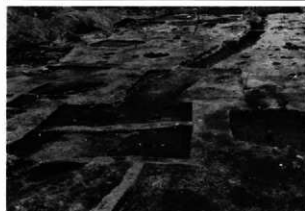
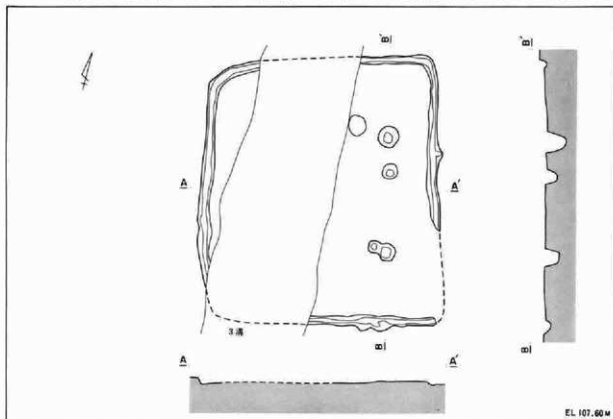
は住居の平面精査の際に削平したと考えられる。

構築面は小さな起伏が多く、平坦な面は少ない。住居西側の床面を、後世の溝が深く掘り込む。

柱穴 住居の対角線上から僅かにずれて2個を確認した。北西と南西に位置する柱穴は確認できないが、確認した2個のピット列が、住居の外形に対して整然とした配置を示すので、柱穴と判定した。床面からの深さ30-40cmの円形掘方である。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡は検出できない。

壁溝 幅20cm、深さ10cmで東壁の南側を除いて確認した。
遺物 住居の覆土内より環(須恵器)の破片が出土する。



C - 20 号 住 居

形 状 大形正方形。一辺5.8mと推定する。住居の西半部は確認できず、柱穴列から外形を推定した。柱穴と壁溝をもつ大形正方形住居で、竈をもつC-31号住居と、住居の形状、規模が近似しているが、軸線の傾きが西へ大きく傾いている。軸線の傾きは竈をもつ中形正方形住居に近い。

面 積 33.6㎡(推定) **方 位** -36°

床 面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居の掘り込みが浅いため、北東部を除いて床面は確認できない。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。

柱 穴 住居の対角線上付近に4個を配置する。心々を結

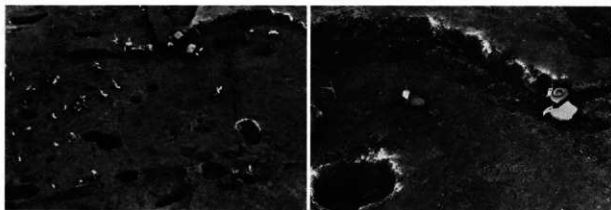
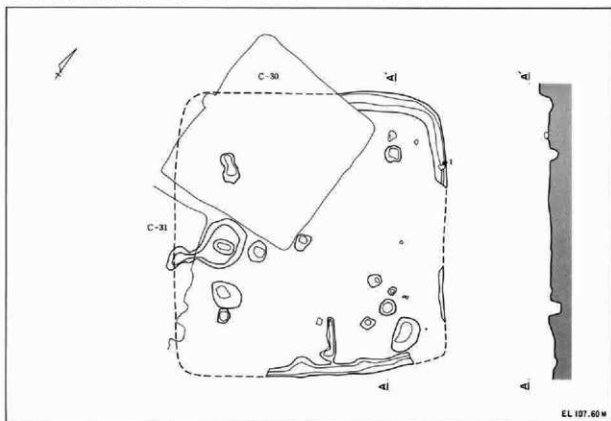
ぶ四角形は、短軸3.3m、長軸3.5mの整った方形を示す。床面からの深さ20～30cmの円形痕方である。

炉、竈 確認できない。出土した遺物からは炉付住居か竈付住居かの判定がつかない。ともに、痕跡を示すものは一切検出できない。

壁 溝 幅30cm、深さ10cmで北東隅と南壁の一部に確認。
貯蔵穴 住居南東隅に深さ30cmの不整形円形プランで設ける。

遺 物 住居南東部の床面に密着して台付饗の破片、東壁際北側の床面直上より瓦が出土する。

重 複 C-30号住居、C-31号住居と重複する。C-30住、C-31住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-30号住居

形状 小形正方形。短軸3.2m、長軸3.5mで西壁に対して東壁が短い不整形を示す。

面積 11.4㎡ **方位** +4°

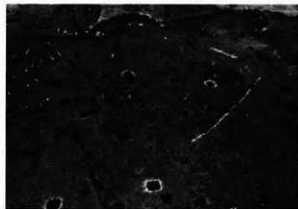
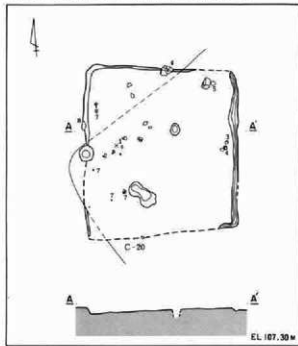
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で整っている。住居中央と西壁中央に性格不明の柱穴様ビットを検出した。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。掘り込みが浅いため明確な位置は確認できないが、壁に沿って多量の焼土を検出した。壁外に石製支脚を検出したことから、焼土部は壁を切って外に造り出す構造と考えられる。

壁溝 東壁の内側に幅5～15cm、深さ5～10cmで巡る。

遺物 東壁際中央と西壁際中央の床面に密着して高台付埴(須恵器)、西壁際の覆土内より緑釉の破片、甕を転用した甕が出土する。

重複 C-20号住居と重複する。この住居がC-20住の覆土を切って構築している平面精査の所見を得た。



C-31号住居

形状 大形正方形。一辺5.3mを測る。住居の掘り込みが浅いため南壁は確認できないが、柱穴列から住居の外形を想定することが可能である。台地中央の頂上部付近に占地し、C-10号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 27.1㎡(推定) **方位** -10°

床面 ローム層を5cm掘り込んで構築面とする。構築面は平坦で整っている。この面に貼床して生活面を作った痕跡があるが、生活面は住居平面精査の際に削平したと考えられる。住居の南半部に深さ10cmのビットが集中している。

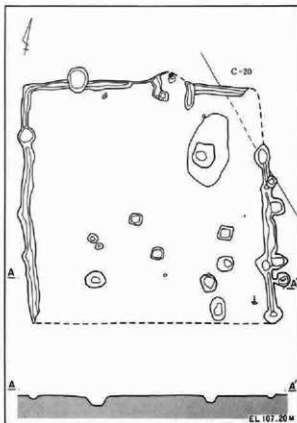
柱穴 住居の対角線上に3個を確認した。北西に位置する柱穴は確認できない。心々を結ぶ四角形は一辺2.5mの正方形で、住居の外形と相似形を示す。構築面からの深さ20～30cmの円形掘方である。

竈跡 北壁の中央から僅か東側に設置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。焼土部は幅50cm、奥行き50cmで壁内に設ける。煙道は壁を三角形に掘り込み、火床から水平に20cm伸びて垂直に立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡がある。

壁溝 南壁を除いて幅15cm、深さ10cmで確認した。東壁の壁溝内に深さ10cmのビット3個を確認した。

遺物 東壁際南側の構築面直上より環が出土する。

重複 C-20号住居と重複する。この住居がC-20住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-38号住居

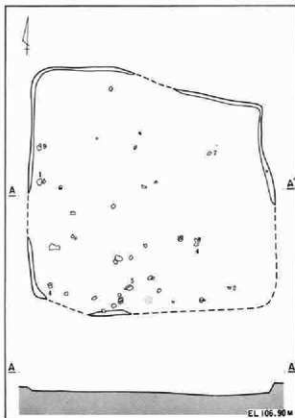
形状 分類できない。一辺5.2m。北壁が中央部で大きく屈折するため、西壁に対して東壁が著しく短い不整形を示す。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。住居の南東部は掘り込みが浅いために確認できない。

面積 24.7㎡ **方位** -3°

床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に焼土、灰などの竈の痕跡を示すものは一切ない。

遺物 住居南東部の床面に密着して環(須恵器)、住居南西隅の床面に密着して甕、西壁際北側の覆土内より羽釜。



C-44号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.2mで西壁に対して東壁が長く、隅の丸味が大きい不整形長方形を示す。特に住居北東隅は大きな丸味をもって壁を掘り込む。この類例はC-56号住居を除いて中尾遺跡にはない。

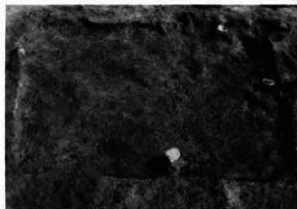
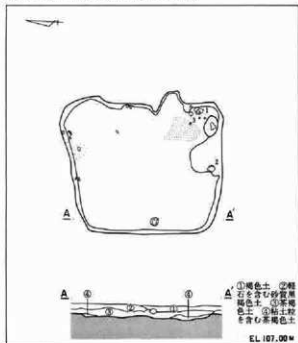
面積 8.8㎡ **方位** +86°

床面 粘質黒褐色土を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。南壁際中央東側に幅60cm、長さ70cmで壁に向かってしだいに高くなる、舌状の地山掘り残し部分がある。

竈跡 東壁際中央南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの台形に掘り込んで燃焼部は壁外に造り出す。焼土は少ないが燃焼部の手前に多量の灰を輸出した。

貯蔵穴 住居南東隅に長軸40cmの楕円形プランで設置する。

遺物 住居南東部と南壁際中央の覆土内より高台付埴(須恵器)、高台付皿(須恵器)が出土する。



C-83号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸4.3mで隅が小さな丸味をもつ整った長方形を示す。

面積 13.9㎡ **方位** +91°

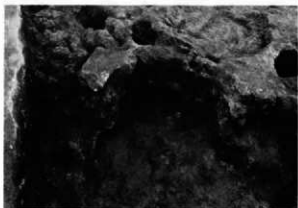
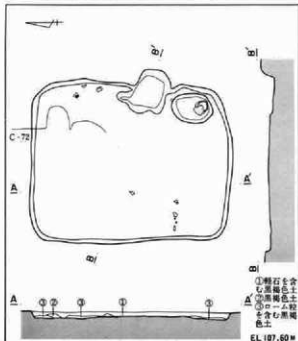
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。南壁中央に幅60cm、長さ60cmで壁に向ってしだいに高くなる、舌状の地山掘り残り部分がある。この類例はC-44号住居。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで燃焼部は壁外に遣り出す。構築材料は不明で石材は使用していない。火床は幅70cm、奥行き90cm、深さ10cmの方形に掘り窪めた後、埋め戻して使用する。

貯蔵穴 住居南東隅に長軸90cm、深さ30cmの楕円形プラン。

遺物 住居の覆土内より鉄器が出土する。

重複 住居北側でC-72号住居と重複する。C-72住の竈がこの住居の覆土を切って構築している。



C-29号住居

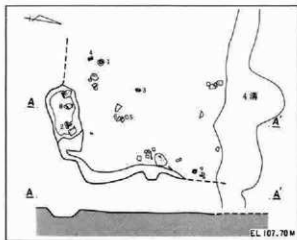
形状 分類できない。南東部を除いて壁の確認ができないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもつ小形準横長長方形の可能性はある。

床面 ローム層を5cm掘り込み平坦に整えて床面とする。

竈跡 東壁の南側に設置する。掘り込みが浅いために、全形は確認できない。

貯蔵穴 南壁東端の壁外に張り出して深さ15cmの楕円形。

遺物 南壁際の床面直上より高台付皿(須恵器)、竈西側の覆土内より羽蓋が出土する。



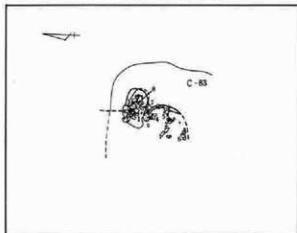
C-72号住居

形状 分類できない。南東部を除いて壁の確認ができないため、住居の外形は確定できない。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に遣り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

遺物 竈の覆土内より高台付埴(須恵器)、住居南東部の覆土内より羽蓋が出土する。

重複 C-83号住居と重複する。この住居がC-83住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-23号住居

形状 大形正方形。断片的に確認した壁の立ち上がりを直線で結ぶと、一辺6.4mの整った方形を示し、推定した住居の外形がC-11号住居と一致するため、北壁に竈を設置する大形正方形住居と判定した。住居の形状、規模、軸線の傾きがC-11号住居に近似し、確実な同形状、同規模の住居は、中尾遺跡にこの2軒しかない。中尾遺跡の正方形住居は、北壁竈と東壁竈の2例があるが、北壁に竈を設置するのは大形住居に限定され、北壁に竈を設置する大形住居は、柱穴と壁溝をもつ正方形が多い。台地中央の頂上部付近に占地し、C-18号住居と重複して相似形である正方形住居との時間差を示している。

面積 40.7㎡(推定) **方位** -13°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居の北西部と南東部は重複する住居に切られ、南西部の掘り込みが浅いため、生活面を確認できたのは北東の一部である。ロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。住居の中央北側をC-18号土壇が切る。

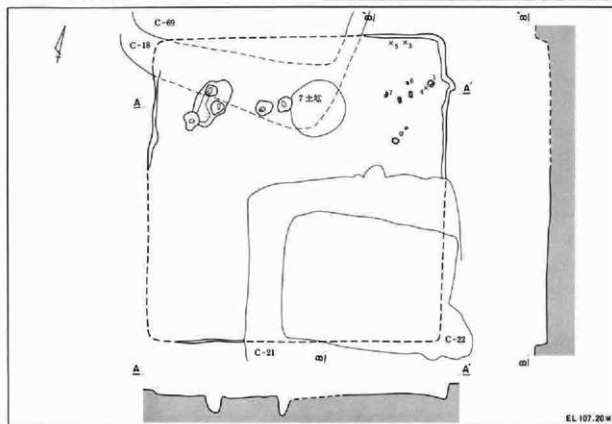
柱穴 確認できない。同形状、同規模のC-11号住居が柱穴をもつ他、北壁に竈を設置する大形正方形住居に柱穴を確認しているので、柱穴をもつ住居と推

定する。住居の北西部で対角線上に位置する深さ40cmの円形ヒットが、柱穴である可能性が高い。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡を示す焼土、灰は一切検出できない。

遺物 東壁際北側の床面に密着して環、住居北東部の床面直上より環、北壁際東側の覆土内より皿(須恵器)が出土する。

重複 C-18住、C-21住、C-22住、C-33住、C-69住と重複する。この住居がC-18住の覆土を切り、この住居がC-21住、C-22住に切られる平面精査、土層断面の所見を得た。C-69住との新旧関係は不明。



EL 107.20 m

C-21号住居

形状 中形正方形。南北軸4.8mを測る。東壁に対して西壁が僅かに短い不整形を示す。F-2号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。住居が密集している台地中央の頂上部付近に占地し、大形正方形の住居と重複している。同形状の正方形で、大形と中形には時間差があると考えられる。

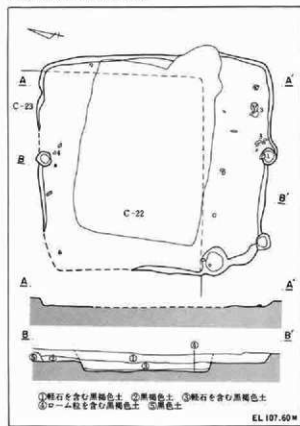
面積 21.7㎡ **方位** +81°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。北壁際中央と南壁際中央に直径30cm、深さ10cmの円形ピット2個を検出した。規則的な配置を示すので柱穴の可能性もあるが、中尾遺跡に同様なピットをもつ住居はない。

竈跡 東壁の南側に竈を検出したが、重複するC-22号住居と東壁を接しているため、設置する住居の判定がつかない。近似する形状、規模をもつD-34号住居の竈が、袖部を造り付けて燃焼部を壁内に設ける構造なので、この住居に伴う可能性も考えられる。

遺物 北壁際中央の床面に密着して環、南壁際中央の床面直上より環が出土する。

重複 C-22号住居、C-23号住居と重複する。この住居がC-23住の覆土を切り、この住居の覆土がC-22住に切られる土層断面の所見を得た。



C-22号住居

形状 小形準縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸2.8m、長軸3.6mで隅が直角に近い整った長方形を示す。中尾遺跡では縦長長方形の住居は少ない。D-36号住居と、住居の形状、規模が近似している。

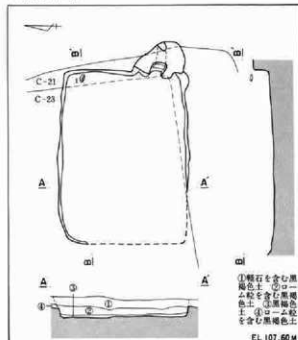
面積 9.9㎡ **方位** +87°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。住居西側に浅い窪みがある他は、平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南端に設置する。残存状態が良く、煙道の天井部及び主体部の一部は原形を留めていた。壁を幅70cm、奥行き50cmの半円形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。燃焼部の側壁に沿って白色粘土を貼って、主体部を構築する。煙道は確認できない。

遺物 住居北東隅の覆土内より須(須器)が出土する。

重複 C-21号住居、C-23号住居と重複する。この住居がC-21住、C-23住の覆土を切って構築している土層断面の所見を得た。



C-69号住居

形状 中形正方形。住居の壁は確認できず、外形は柱穴の配置から推定した。

面積 20.5㎡(推定) **方位** +87°

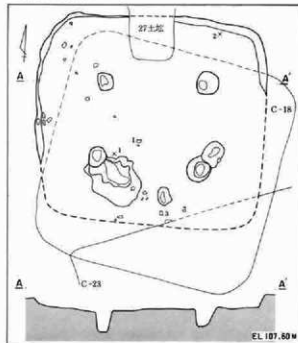
床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。全体に小さな起伏が多く、平坦な生活面は確認できない。西壁の中央部に床面から10cm高い、地山を掘り残した部分を確認した。

柱穴 住居の対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は東辺に対して西辺の短い不整長方形で、住居の外形と相似形を示すと考えられる。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈を伴う可能性が高い。

遺物 北壁際東側の床面に密着して皿、住居中央部と南壁際中央の覆土内より環が出土する。

重複 C-18号住居、C-23号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C-18号住居

形状 中形正方形。一辺4.8mと推定する。確認できたのは北東と南西の隅に限られるが、規則的な3個の柱穴列と、想定した住居の外形が整然とした配置を示すので、柱穴をもつ中形正方形と判定した。D-4号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。この住居と同形状、同規模の中形正方形住居は、周囲の住居に対して軸線の傾きが東へ大きく傾く共通点をもつ。台地中央の頂上付近に占地している。

面積 23.1㎡(推定) **方位** +11°

床面 ローム層を25cm掘り込んで床面とする。C-69号住居と床面の大半を重複しているため、生活面を認定することはできない。確認した生活面は、貼床して構築した痕跡がある。

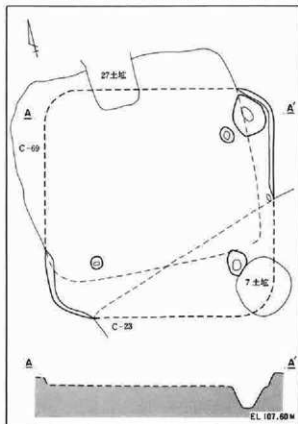
柱穴 住居の対角線上に3個を確認した。心々を結ぶ四角形は一辺2.8mの正方形で、住居の外形と相似形を示す。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡は確認できない。

貯蔵穴 住居の北東隅に直径60cm、深さ40cmの不整円形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面直上より台付鉢の破片が出土。

重複 C-23号住居、C-33号住居、C-69号住居と重複する。この住居の覆土がC-23住に切られる平面精査の所見を得た。C-33住、C-69住との新旧関係を判別する資料はない。



C-33号住居

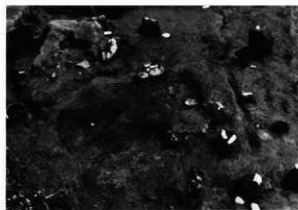
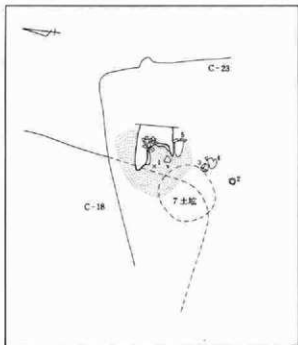
形状 分類できない。壁の立ち上がりが確認できないため、住居の外形は確定できない。竈は当初、C-18号住居に伴うと考えていたが、C-18号住居の床面と竈のレベル差が30cmあり、壁に対する方向も不自然である。周囲の重複する住居に伴う可能性はない。方位 +86°(推定)

床面 竈の周辺部のみ確認した。C-23号住居の覆土を掘り込み、貼床して生活面を平坦に整える。確認した生活面は竈周辺部のためか堅固である。

竈跡 焚口の方向から東壁に設置していたと判定する。白色粘土で主体部を構築する。確認した袖部の状況から、燃焼部は壁内に付けられていた可能性が高い。煙道は確認できない。

遺物 竈の火床に密着して環、竈南側の床面に密着して鏃、周辺の生活面と同一レベルから環、鏃が出土する。

重複 C-18号住居、及びC-23号住居の覆土を切って、この住居の竈を構築している。



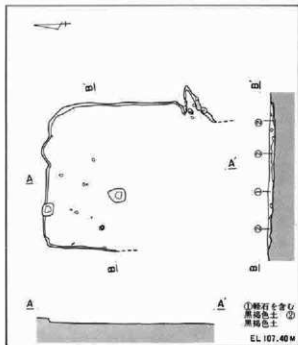
C-92号住居

形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもち、短軸3.1mを測る。面積 10.8㎡(推定) 方位 +95°

床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。住居の南東部は溝の覆土の上に貼床して生活面とし、その他は地山を整えて生活面を作る。住居中央部と北壁際西側に、床面からの深さ20cmのピット2個を検出した。

竈跡 東壁の南側に設置する。粘性土で構築した長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅30cm、奥行40cmの方形で半分を壁外に造り出す。焚口部右側に河原石を検出した。原位置は留めていないが、中央の河原石と共に焚口部を構成していたと考えられる。煙道は幅10cmで燃焼部の外側15cmまで緩やかな勾配で立ち上がる。

遺物 住居北側の覆土内より環、鏃、高台付埴(須恵器)の破片が出土する。



C-28号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸3.7mを測る。南壁に対して北壁が長い不整形を示す。C-97号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾き、貯蔵穴の位置が近似している。C-97号住居、C-75号住居、D-6号住居は、小形準横長長方形の同規模、同形状の住居に対して軸線の傾きが南へ大きく傾く傾向を示し、軸線が南へ傾く小形準横長長方形、小形準縦長長方形住居は、竈を東壁の南端付近に設置する共通点をもつ。台地の中央部に単独で占地している。

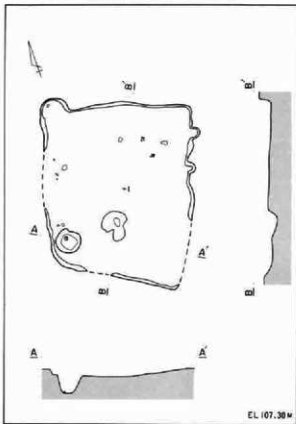
面積 11.4㎡ **方位** +27°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。生活面は平坦で良く整っている。住居の中央南側に深さ20cmの不整形ピットを検出した。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡はない。住居北西隅の円頂形をした掘り込みは、精査の結果竈ではなかった。住居の掘り込みが浅い東壁の南端に竈を設置し、相対する西壁の南端に貯蔵穴を設ける可能性が高い。

貯蔵穴 住居の南西隅に直径50cm、深さ40cmの円形プランで設ける。

遺物 住居中央の床面に密着して環(須恵器)、西壁際中央の覆土内より壺の破片が出土する。



C-27号住居

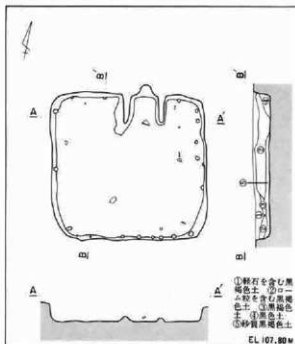
形状 小形正方形。一辺3.3mの整った平面形で、周辺の北壁に竈を設置する大形住居と相似形を示す。中尾遺跡で北壁に竈を設置するのはC-49号住居を除いて正方形住居に限られ、それ以外の住居にはない。正方形で北壁に竈を設置する住居と、東壁に竈を設置する同形状の住居には、時間差があると考えられる。

面積 9.9㎡ **方位** -11°

床面 ローム層を35cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。南壁と東壁に沿って直径5cm、深さ5cmの小さな窪みを多数検出した。

竈跡 北壁の中央から僅か東側に設置する。地山のロームを掘り残した長さ50cmの袖部を検出した。地山のロームを芯にして粘性土で主体部を構築する。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの方形で壁内に造り付ける。煙道は幅20cmで壁外20cmまで伸び、垂直に立ち上がる。

遺物 住居の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。



C-49号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.4m、長軸4.3mで、南壁に対して北壁が低い不整長方形を示す。この住居は、中尾遺跡で北壁に竈を設置する唯一の横長長方形住居である。北壁に竈を設置する正方形住居とは時間差があると考えられる。

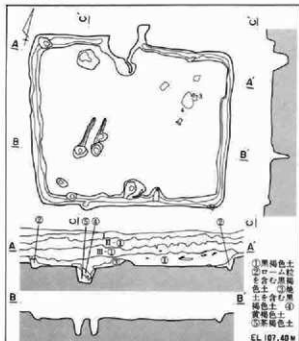
面積 14.4㎡ **方位** -13°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面を平坦に整形する。住居南西部に直径20cm、床面からの深さ30cmで上端に幅15cm、深さ5cmの溝と繋がる不整円形ピットを2個検出した。

竈跡 北壁の中央西側に設置する。残存状態が悪く構造が把握できない。燃焼部は壁を切って壁外に造り出す可能性がある。

壁溝 幅15cm、深さ10cmで竈を除いて全周する。

遺物 住居北東部の覆土内より鬘、高台付埴（須恵器）が出土する。



C-26号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸4.1mを測る。北壁に対して南壁が低い不整長方形を示す。東壁の南端に竈を設置し、竈と相対する西壁際の南端に貯蔵穴を配置する。この住居と同じ竈と貯蔵穴の配置をもつ住居は、軸線が南へ傾く傾向を示す。台地中央の頂上部付近に占地し、C-75号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

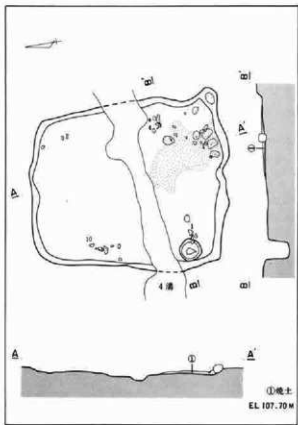
面積 13.9㎡ **方位** +100°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。生活面は住居の中央部が周壁部より僅かに低い。住居の中央を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南端に設置する。残存状態が悪く、主体部は原形を留めていない。住居の南東部の床面に多量の黒色灰が散乱していた。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの方形で壁外に造り出すと考えられ、住居の東西軸に対して南へ35°の傾きを示す。南壁際東側の床面直上より出土した河原石は、焚口部を構成していたもの可能性が高い。

貯蔵穴 西壁際の南端に直径50cm、深さ40cmの円形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面に密着して皿、住居南東部の床面に密着して皿、貯蔵穴東側の覆土内より鬘、羽釜、住居北東部の覆土内より皿が出土する。



C - 55号住居

形 状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.9mと推定する。直線的な壁で構成される整った長方形を示す。小形準横長長方形住居は遺跡の広範囲に分布するが、この住居が占地する遺跡の南端部周辺には、縦長長方形住居と分類不可能な住居が多く、同形状、同規模の住居はない。

面積 11.5㎡ (推定) 方位 +90°

床 面 ローム層を15cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ5cmの粘床を一様に施して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、全体に踏み固められている。

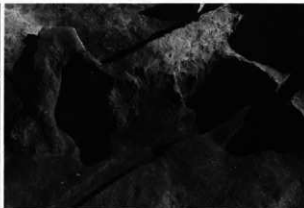
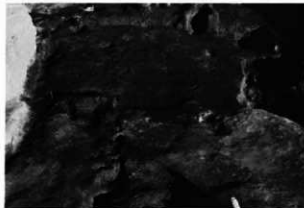
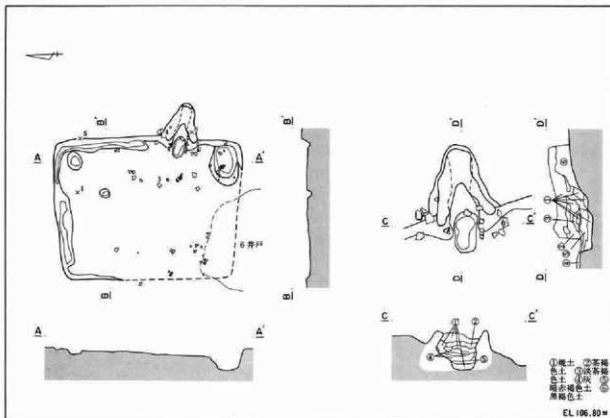
壁 跡 東壁の中央南側に設置する。残存状態が良く、煙

道の天井部は遺存していた。壁を幅40cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部から火床にかけての床面は、深さ15cmの方形に掘り溜めた後、焼土で埋戻して平坦にしている。壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に白色粘土を貼って、主体部を構築する。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

壁 溝 幅15cm、深さ5~10cmで北壁と東壁の北側に確認。

貯蔵穴 住居の南東隅に長軸80cm、深さ30cmの不整方形プランで設ける。

遺 物 北壁際と住居中央東側より環(須恵器)、甕内より刀子状の鉄器が出土する。



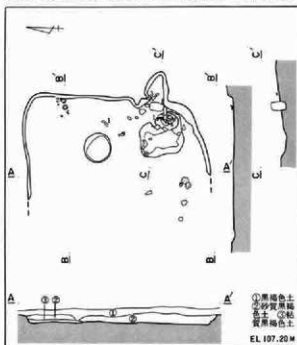
C - 34号住居

形状 分類できない。西壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもち、長軸3.9mを測る。南壁が直線性を欠き、住居外形は不整形長方形を示すと考えられる。方位 +87°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で整っている。住居中央部に直径60cmのピットを検出。

竈跡 東壁の南側に設置する。地山のロームを長さ10cm掘り残して焚口部は壁内に設け、幅40cm、奥行き40cmの燃焼部は壁外に造り出す。焚口部中央に火を強く受けた凝灰岩の切石を検出した。これは焚口部の右側の原位置を留める同質の切石と共に、焚口部の両側を補強していたものと考えられる。東壁際南側の深さ30cmの楕円形ピットは竈構築以前のもので、竈手前の方形ピットからは多量の焼土と灰が出土する。

遺物 東壁際中央の床面に密着して環、竈の覆土内より羽釜、東壁際北側の覆土内より皿（須恵器）が出土する。



C - 35号住居

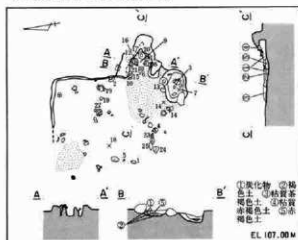
形状 分類できない。

床面 ローム層を5cm掘り込み平坦に整えて床面とする。

竈跡 東壁に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床中央の両側に2個の石製支脚を埋込む。周辺の床面に多量の黒色灰を検出した。

貯蔵穴 竈の右脇に深さ15cmの方形プランで設ける。

遺物 竈内及び周辺の床面直上より環（須恵器）、高台付埴（須恵器）が多量に出土する。



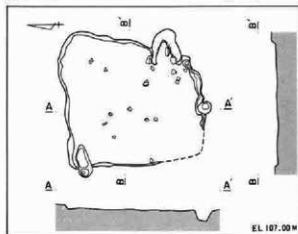
C - 56号住居

形状 超小形正方形。長軸2.9mを測る。北壁に対して南壁が著しく短い不整形方形を示す。遺跡南端の台地中央に単独で占地し、C-44号住居と相似形を示す。

面積 7.4㎡ **方位** +89° **壁溝** 南壁の一部

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。

竈跡 東壁の南壁寄りに設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmの円頂形で、約半分を壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築する。



C - 45 号 住 居

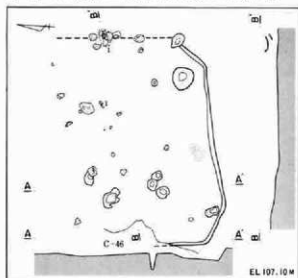
形 状 分類できない。

竈 跡 東壁に設置する。掘り込みが浅いため全形は確認できない。熱焼部は壁外に造り出し、笑口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深き10cmの円形プランで設ける。

遺 物 竈の火床直上より羽蓋の羽片が出土する。

重 複 C-46住がこの住居の覆土を切って構築する。



C - 46・47 号 住 居

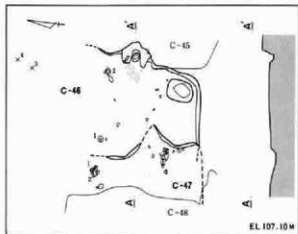
形 状 分類できない。

竈 跡 C-46住は東壁に白色粘土で構築する。壁を掘り込んで熱焼部は壁外に造り出す。C-47住は笑口部に河原石を据えていた可能性が高い。

貯蔵穴 C-46住の南東隅に深き30cmの方形プランで設ける。

遺 物 C-46住の床面直上より環(須恵器)、C-47住の覆土内より羽蓋の破片が出土する。

重 複 C-45住をC-46住が切り、C-46住をC-47住が切り、C-47住をC-48住が切る平面精査の所見を得た。



C - 48 号 住 居

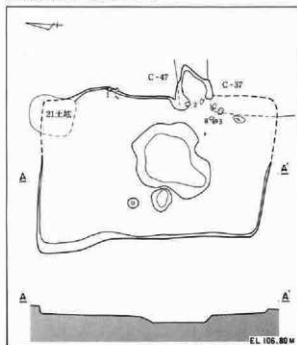
形 状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸4.9mで全体に僅か歪んだ不整長方形を示す。C-74号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。面積 15.3㎡ 方位 +89°

床 面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。起伏が多く平坦な面は少ない。住居の中央部に直径1.5m、深き15cmの不整円形ピットを掘出した。

竈 跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅50cm奥行き40cmの方形で掘り込んで熱焼部は壁外に造り出す。熱焼部の内側は強く焼けた痕跡を残す。煙道は幅20cmで、壁外30cmまで緩やかに立ち上がる。

遺 物 竈の笑口部の火床に密着して環、東壁際北側の覆土内より環、竈手前の覆土内より鬚の破片が出土。

重 複 C-37号住居、C-47号住居と重複する。C-47住の覆土を切ってこの住居の竈を構築している。C-37住との新旧関係を判別する資料はない。



C-36号住居

形状 小形正方形。一辺3.6mを測る。東壁の南側が幅2m、奥行き50cmにわたって張り出し、張り出し部の中央に竈を設置する不整形を示す。竈を設置する部分の壁を張り出す住居の類例は、E-18号住居と併せて中尾遺跡に2例である。

面積 14.6㎡（張り出し部含む） **方位** +90°

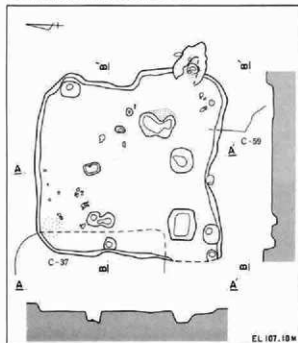
床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く煙道の天井部は原形を留めていた。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmで壁外に造り出す。

貯蔵穴 住居南西隅に一辺60cm、深さ30cmの方形プラン。

遺物 住居北西部の床面直上より黒、東壁際中央の覆土内より環がそれぞれ出土する。

重複 C-37号住居、C-59号住居と重複する。この住居がC-37住の竈を切っている平面精査の所見を得た。C-59住との新旧関係を判別する資料はない。



C-59号住居

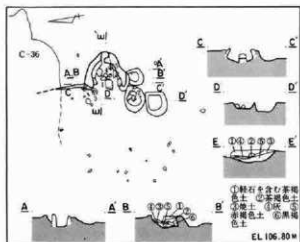
形状 分類できない。

竈跡 東壁に白色粘土で構築する。壁を幅60cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外へ掘り込んだ燃焼部の側壁に沿って、凝灰岩の切石4個を据える。焚口部に同質の石材を横架していた可能性が高い。

貯蔵穴 竈の右脇に深さ20cmの方形プランで設ける。

遺物 竈の覆土内より環（須恵器）が出土する。

重複 C-36号住居との新旧関係を判別する資料はない。



C-37号住居

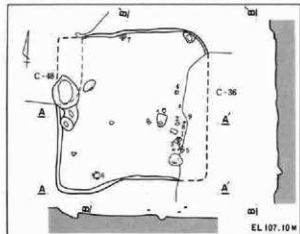
形状 小形正方形。一辺3.1m。C-30号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 10.3㎡ **方位** -5°

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定でき、住居南西部の床面に僅かな黒色灰を検出した。C-36号住居に切られた可能性が高い。

遺物 南壁際西側の床面に密着して環（須恵器）、北壁際中央の床面に密着して高台付埴（須恵器）、覆土内より石筥。

重複 C-36住、C-48住との新旧関係判別の資料はない。

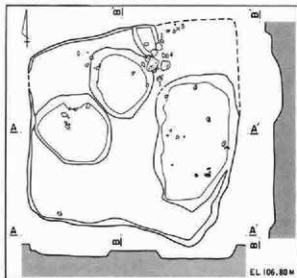


C-39号住居

形状 分類できない。長軸を東西にもち、短軸4.1m、長軸4.4mの不整形を示す。中尾遺跡には同形状、同規模の住居はない。面積18.3㎡ 方位+92°

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 北壁中央の床面直上より高台付埴(須恵器)、環(須恵器)、覆土内より環が出土する。



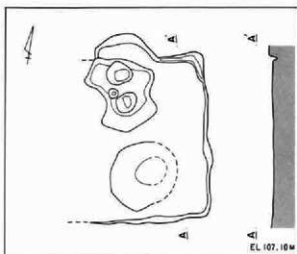
C-43号住居

形状 分類できない。一辺3.5m、西壁は確認できないが、確認した壁の形状、規模、軸線の傾き、竈の構造が、C-3号住居に近似している。中尾遺跡で北壁に竈を設置するのは、C-49住を除いて正方形住居に限定される。

竈跡 北壁に設置する。床面に掘り込んだ火床の構築面の状況から、燃焼部は壁内に造り付けると考えられる。

壁溝 住居の北東隅に幅15cm、深さ10cmで巡る。

遺物 住居の覆土内より環(須恵器)が出土する。



C-50号住居

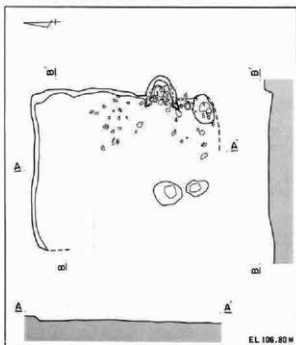
形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもち、長軸4.0mを測る。方位+87°

床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。住居の南東部に、床面からの深さ20cmの不整形ピット2個を検出した。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を確認した。白色粘土を用いて焚口部は壁内に設置する。燃焼部は壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで壁外に造り出す。主体部は原形を留めていないが、白色粘土で構築していると考えられる。燃焼部は確認できない。

貯蔵穴 南壁際東端に長軸60cm、深さ20cmの楕円形プラン。

遺物 竈の火床に密着して環、羽釜、竈の焚口部付近の床面直上より斐の破片、貯蔵穴内より皿(須恵器)、住居中央部の床面に密着して鉄器が出土する。



C-54号住居

形状 小形半縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸2.6m、長軸3.0mを測る。住居の南東隅に竈を設置し、北東隅に貯蔵穴を設ける。C-15号住居と相似形を示し、軸線の傾き、竈の位置が近似している。

面積 7.7㎡ 方位 +100°

床面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。貼床した痕跡はない。

柱穴 北壁と南壁の壁外に5個のピットを検出した。いずれも直径20cmの不整円形で、ローム層を5～10cm掘り込んでいる。壁に沿った列を示すので、壁外柱穴と判定する。

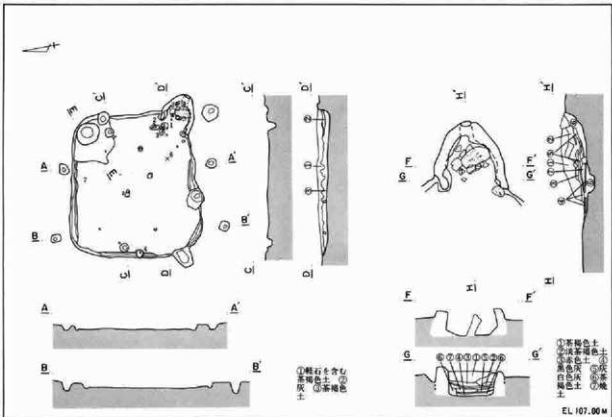
竈跡 住居の南東隅に設置する。壁を幅60cm、奥行き50

cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と燃焼部奥壁の両側に凝灰岩の切石4個を据え、燃焼部の側壁を同質の石材で補強する。主体部は、補強した基部の石材に粘土を積んで構築する。火床の中央に凝灰岩を棒状に加工した支脚を埋め込む。

壁溝 幅10cm、深さ5cmで東壁を除く壁に確認した。

貯蔵穴 住居の北東隅に直径50cm、深さ30cmの円形プランで設ける。周辺の床面には幅30cm、高さ10cmの半円形に、ロームで貼床を施す。

遺物 竈の覆土内より甕、東壁際南側の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。



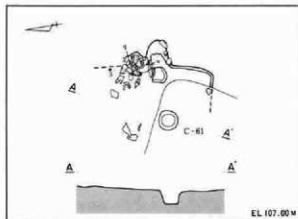
C-62号住居

形状 分類できない。

遺跡 東壁に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、燃焼部の側壁に沿って凝灰岩の切石を据える。

遺物 東北側の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 C-61住居がこの住居の覆土を切って構築する。



C-61号住居

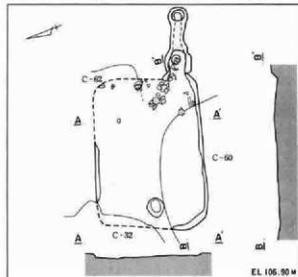
形状 小形準縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸2.3m、長軸3.1mと推定する。長軸が東西軸から18°南に傾き、近接するC-54住と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近い。

面積 7.2㎡(推定) **方位** +108°

遺跡 東壁の南端に白色粘土で構築する。壁を幅30cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は壁の中段から水平に90cm伸びる。焚口部に石材を用いた可能性が高い。

遺物 東西側の覆土内より埴が出土する。

重複 C-32住、C-60住がこの住居の覆土を切り、この住居がC-62住の覆土を切る平面精舎の所見を得た。



C-60号住居

形状 小形準縦長長方形。住居の北東隅は確認できないが、確認した壁を延長すると長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸3.4mの整った長方形を示す。E-10号住居と、住居の形状、規模が近似している。

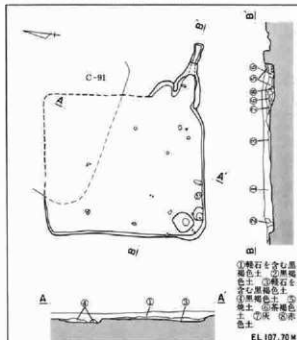
面積 9.2㎡(推定) **方位** +85°

床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。住居北側のC-61号住居との重複部には、厚さ10cmの貼床をして生活面を作る。

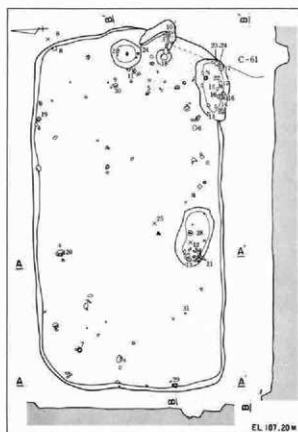
遺跡 東壁の南端に設置する。残存状態が良く、煙道の天井部は遺存していた。壁を幅40cm、奥行き50cmで先端の丸い円頂形に掘り込み、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の外側70cmまで、大床から緩やかな勾配で立ち上がる。重複するC-61号住居の竈に極めて近似した構造をもつ。

貯蔵穴 住居南西隅に直径40cm、深さ25cmの不整円形。

重複 C-61号住居と重複する。この住居がC-61住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



C-32号住居



形状 超大形縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸4.0m、長軸7.6mを測る。準縦長長方形も含めた縦長長方形住居で最大規模をもち、長軸の一端は中尾遺跡内で最長を示す。遺跡南端の台地中央部に占地し、同形状、同規模の住居はない。

面積 29.7㎡ 方位 +92°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。全体に平坦で良く整っている。東壁際中央に直径60cm、深さ30cmの円形ピットを検出した。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmで壁内に造り付け、主体部は粘土で構築する。煙道は火床から水平に壁外に30cmまで伸びる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 南壁際東端に南側3分の1を張り出して、短軸60cm、長軸130cm、深さ30cmの不整形プランで設ける。南壁際中央と同形状、同規模のピットを確認。

遺物 竈周辺部の床面に密着して高台付埴(須恵器)、南壁際中央のピット内より高台付皿(緑釉)が出土。

重複 C-61号住居と重複する。この住居がC-61住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-74号住居

形状 中形横長長方形。ローム層への掘り込みが浅いため、住居の南側を除いて壁の立ち上がりは確認できないが、僅かに確認した北東隅を推定線で結ぶと、C-48号住居に近似した形状、規模を示す。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸5.1mの長方形と推定する。

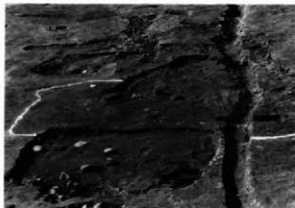
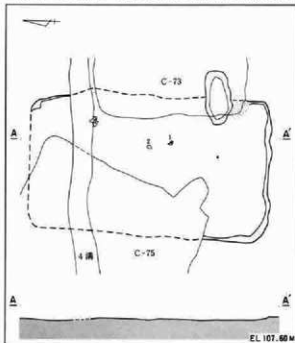
面積 14.9㎡（推定） **方位** +92°

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。確認した面は平坦で整っている。住居北側を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南側に設置する。主体部は確認できず、火床の構築面を確認した。火床は幅50cm、奥行き110cm、深さ10cmの方形に掘り込まれる。この構築状況から、燃焼部は壁外に造り出した可能性が高い。

遺物 住居中央部の床面に密着して環、同覆土内より環が出土する。

重複 C-73号住居、C-75号住居と重複する。この住居の覆土がC-73住、C-75住に切られる平面精査の所見を得た。



C-73号住居

形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.2mを測る。北壁が僅かな割れをもつが、隅の丸縁が小さい整った長方形を示す。

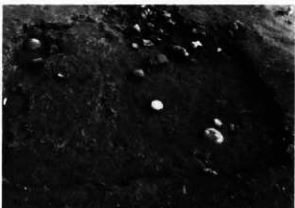
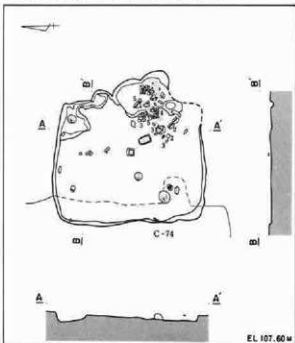
面積 7.9㎡ **方位** +88°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。北壁の周壁部が幅50cm、深さ10cmの溝状に掘り込まれている。この部分を除いて平坦である。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。燃焼部、煙道部共に確認できない。主体部を構成していたと考えられる凝灰岩の切石が住居中央部まで散乱し、灰に混って小さく割れた土器片が多量に出土した。意図的に壊された可能性がある。灰の分布状況から燃焼部は壁外に造り出した可能性が高い。

遺物 竈の火床に密着して羽釜が出土する。

重複 C-74号住居と重複する。この住居がC-74住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-75号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸3.9mの整った長方形を示す。住居の北西部は掘り込みが浅いため確認できない。

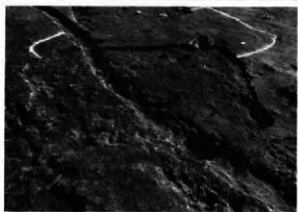
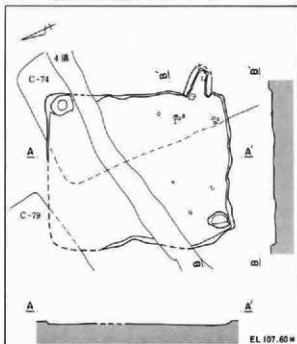
面積 12.3㎡ **方位** +116°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。全体に小さな窪みが多く平坦な面は少ない。住居の中央を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南端近くに設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの台形に掘り込んで熱煙部は壁外に送り出す。焚口部の両側に石材を据えていた可能性がある。煙道は確認できない。

遺物 住居南東部の床面に密着して羽釜の破片、竈の火床直上より羽釜の破片が出土する。

重複 C-74号住居、C-79号住居と重複する。この住居がC-74住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。C-79住との新旧関係を判別する資料はない。



C-77号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸4.0mの不整長方形を示す。当初、北壁西端壁外にある凝灰岩切石の石組を竈と考えていたが、東壁中央の掘り込みを竈とし、住居南西部のピットを貯蔵穴とすると、D-25号住居に近似した形状、規模を示すため、東壁中央の掘り込みを竈と判定した。当初竈と考えた凝灰岩切石と床面のレベル差は15cmである。

面積 11.9㎡ **方位** +87°

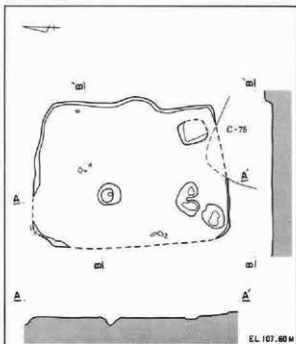
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居北西部に小さな窪みが多い他は平坦で整っている。

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅80cm、奥行き30cmの掘り込みを検出した。熱煙部の構造は確認できない。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ10cmの方形プランで設ける。

遺物 西壁際中央の床面直上より甕の破片が出土する。

重複 住居の南側でC-75号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C-70号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.5m、長軸4.3mで南壁に対して北壁が長い不整長方形を示す。確認した壁に竈の痕跡は一切ないが、C-49号住居と住居の形状、規模がぴったりと一致する合同形を示す。

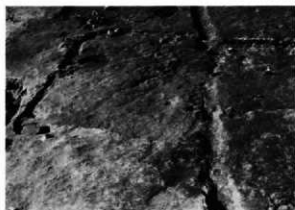
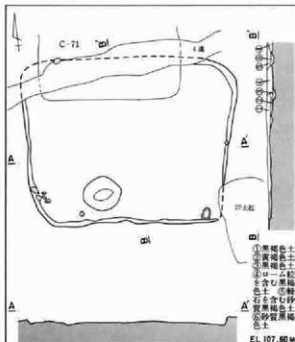
面積 14.9㎡ **方位** +6°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居の西側は小さな窪みが多く、東側は平坦で整っている。住居南西部に直径70cmのピットを検出した。住居の北側を東西に後世の溝が切る。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡はない。北壁に設置した可能性がある。

壁溝 確認した壁下に幅15cm、深さ5cmで巡る。(作図漏れのため図示せず)

重複 住居の北側でC-71号住居と重複する。C-71住居がこの住居の覆土を切っている土層断面の所見を得た。



C-71号住居

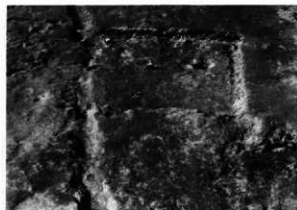
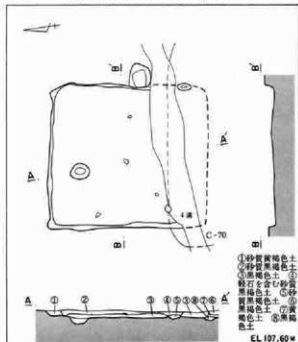
形状 小形準横長長方形。C-70号住居と重複している住居の南側は確認できないが、土層断面によって壁の立ち上がりを確認した。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.4mの整った長方形を示す。

面積 10.2㎡ (推定) **方位** +96°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。南壁際中央に浅い窪みがある他は平坦で良く整っている。住居中央北側に直径30cm、深さ10cmのピットを検出した。住居の南側を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。残存状態は悪い。壁を幅40cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に火を受けた河原石を検出した。石材を用いて主体部を構築していたであろう。煙道は確認できない。

重複 C-70号住居と重複する。この住居がC-70住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



C-81号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.8mの整った長方形を示す。台地西側の縁辺部に占地し、D-116号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

面積 8.8㎡ **方位** +84°

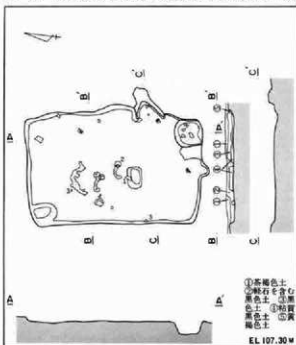
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で整っている。住居北西部の焼土は後世のもの。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。粘質土で構築した長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き40cmの円頂形で、半分を壁外に造り出す。煙道は幅20cmで燃焼部の外側40cmまで、緩やかな勾配で立ち上がる。

貯蔵穴 南壁際東端に一辺50cm、深さ25cmの方形プランで設ける。底面に多量の焼土、及び灰を検出した。

遺物 住居北側の床面に密着して壁の破片、住居中央部の床面直上と覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 この住居がC-80住の覆土を切って構築している。



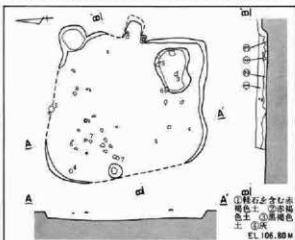
C-107号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸3.3mで、西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。
面積 9.5㎡ **方位** +93°

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を確認した。

貯蔵穴 住居の南東部に深さ15cmの不整形方形プラン。

遺物 北壁際中央の床面に密着して埴(須恵器)、貯蔵穴内より高台付埴(須恵器)、住居北西部の覆土内より炭。



C-80号住居

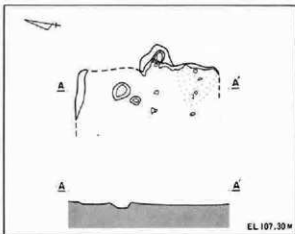
形状 分類できない。西壁と南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。推定した南壁も不明瞭で、住居の形状を類推することはできない。 **方位** +81°

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。

竈跡 東壁の中央南側に白色粘土で構築する。壁を幅40cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 住居南東部の覆土内より羽釜の破片が出土する。

重複 C-81住がこの住居の覆土を切って構築する。



C-84号住居

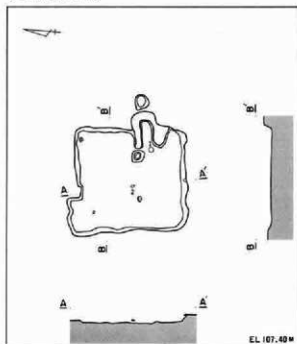
形状 超小形正方形。一辺2.3mの整った方形を示す。北壁の西端が幅70cmにわたって張り出し、張り出し部を除く外形は、近接するC-91号住居に近似している。規模は大きく異なるが北壁端の大形正方形住居と相似形を示し、竈の構造も近似している。

面積 5.2㎡ **方位** +86°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。北壁西端の張り出し部と住居中央部床面のレベル差はない。住居中央東側に直径20cm、深さ25cmの円形ビットを検出した。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。粘質土で構築した長さ40cmの袖部を検出した。熱地部は幅30cm、奥行き50cmで壁内に造り付ける。煙道は幅20cmで火床から水平に壁外70cmまで伸び、垂直に立ち上がる。

遺物 住居中央部の床面直上及び竈突口部付近の覆土内より環が出土する。



C-85号住居

形状 超小形正方形。一辺2.9mを測る。西壁に対して東壁が短い不整形方形を示す。

面積 8.1㎡ **方位** +79°

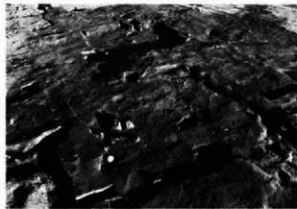
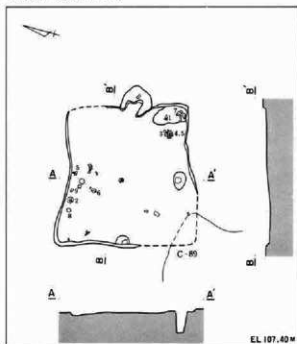
床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。全体に浅い窪みが多く平坦な部分は少ない。南壁際中央と西壁際中央に深さそれぞれ50cm、25cmの柱穴様ビットを検出した。

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、熱地部は壁外に造り出す。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居南東部の東壁に沿って長軸70cm、深さ20cmの楕円形プランで設ける。

遺物 住居南東部と北壁際西側の床面に密着して環(須恵器)、北壁際西側の覆土内より環、貯蔵穴の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 住居の南西部でC-89号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C - 89 号 住 居

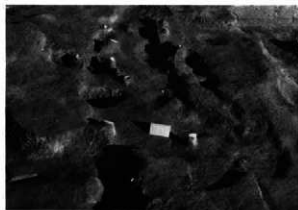
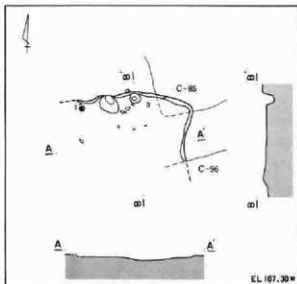
形状 分類できない。ローム層への掘り込みが浅いため住居の北東隅を除いて壁は確認できず、住居外形は不明。

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。北壁際に深さ30cmのピット2個を検出した。

竈跡 確認できない。

遺物 北壁際の覆土内より環（須恵器）が出土する。

重複 C-85号住居、C-96号住居と重複する。ともに新旧関係を判別する資料はない。



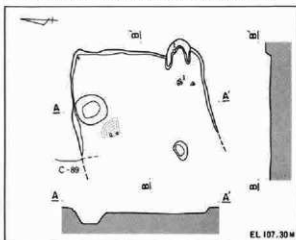
C - 96 号 住 居

形状 分類できない。西壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸3.0mを測る。この軸長から類推できる住居の外形は、D-36住と同形の小形準縦長長方形か、C-85住と同形の超小形正方形である。方位 +86°

竈跡 東壁の南端に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。熱焼部は幅40cm、奥行き40cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。

遺物 竈東側の床面直上より環が出土する。

重複 C-89住との新旧関係を判別する資料はない。



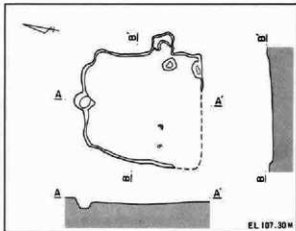
C - 91 号 住 居

形状 超小形正方形。一辺2.5mを測る。南壁に対して北壁が短い不整形を示す。近接するC-84号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 5.7㎡ **方位** +86°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。北壁の中央に、床面からの深さ15cmの円形ピットを確認した。

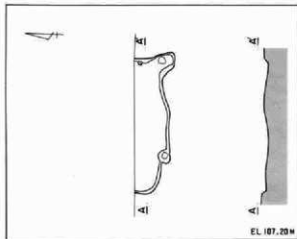
竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの方形で掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した竈跡はない。



C-86号住居

形状 分類できない。住居の北半が調査区域外のため、外形は確定できない。確認した住居の形状、規模、竈の構築はC-54住居に近似している。 **方位** +90°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。貼付した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。
竈跡 住居の南東隅に設置する。壁を幅40cm、奥行き30cmの方形に掘り込み、燃焼部は東壁に対して55°の傾きで壁外に造り出す。焚口部の左側に凝灰岩の切石が出土する。煙道は確認できない。



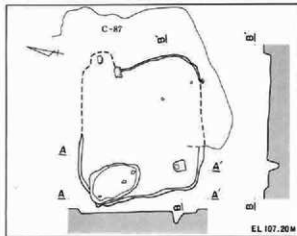
C-93号住居

形状 超小形正方形。一辺2.7mを測る。直線の壁で構成されるが、全体に歪んだ不整形を示す。

面積 7.2㎡ **方位** +81°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。
竈跡 東壁の北端に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を据え、火床の中央に同質の石を埋込んで支脚とする。

重複 C-87住との新旧関係を判別する資料はない。



C-87号住居

形状 分類できない。長軸を南北にもち、短軸3.0mを測る。住居の北側は確認漏れ。 **方位** +85°

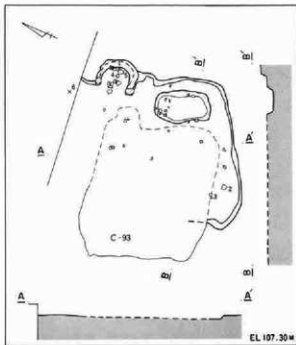
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。C-93号住居との重複部は床面が確認できない。確認した面は平坦で整っている。

竈跡 東壁に設置する。残存状態が良く粘性土で構築した長さ20cmの袖部を確認した。壁を幅60cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。焚口部の右側だけに袖部を造り付けるため、燃焼部が壁に対して直交していない。風向きを意識した調整であろうか。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの方形プランで設ける。

遺物 住居南東部の覆土内より環、甕内より炭が出土する。

重複 住居の南側でC-93号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C - 97号住居

形状 小形標準長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.0mの整った長方形を示す。住居の南東隅に竈を設置する同規模、同形状の住居は中尾遺跡にないが、東壁に竈を設置する同規模の住居は多い。

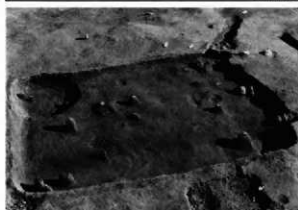
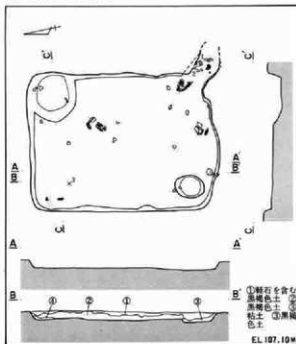
面積 11.2㎡ **方位** +100°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。住居の北東隅に深さ20cmの円形ピットを検出した。床面上10cmの覆土内より炭化材及び炭化物焼土を検出した。炭化材に規則性がなく、床面とのレベル差があるため焼失家屋とは考え難い。

竈跡 住居の南東隅に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は斜めに壁外に造り出す。煙道は燃焼部の外側に長く緩やかな勾配で立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ25cmの楕円形プランで設ける。

遺物 竈の覆土内より環、住居北西部の覆土内より刀子状の鉄器が出土する。

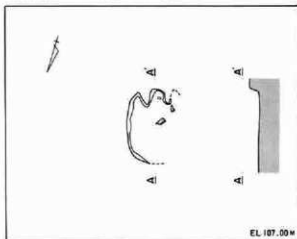


C - 102号住居

形状 分類できない。西壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸1.5mを測る。中尾遺跡で最小の軸長を示し、類似する住居はない。南壁に竈を設置する唯一の住居である。 **方位** +157°

床面 ローム層を20cm掘り込み平坦に整えて床面とする。

竈跡 南壁に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅30cm、奥行き30cmの台形で、壁内に造り付ける。東側の床面直上より出土した石は、焚口部を構成していた可能性がある。



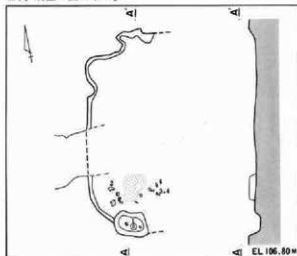
C - 103号住居

形状 分類できない。東壁の掘り込みが浅いため、住居の外形は確定できない。南北軸4.0m。この軸長から類推できる住居の外形は、C-25住と同形の小型標準長方形。

床面 ローム層を20cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡はない。

遺物 住居南西部の覆土内より環(須恵器)、高台付埴(須恵器)、羽釜が出土する。



C - 112 号 住 居

形 状 中形半縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸4.1m、長軸5.3mを測る。直線的な壁と丸味の小さい隅で構成されるが、僅かに歪んでいる。近接するC-115号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。半縦長長方形住居で最大の規模をもち、同形状、同規模の住居は中尾遺跡にこの二例のみである。

面 積 21.5㎡ **方 位** +87°

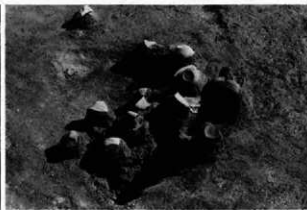
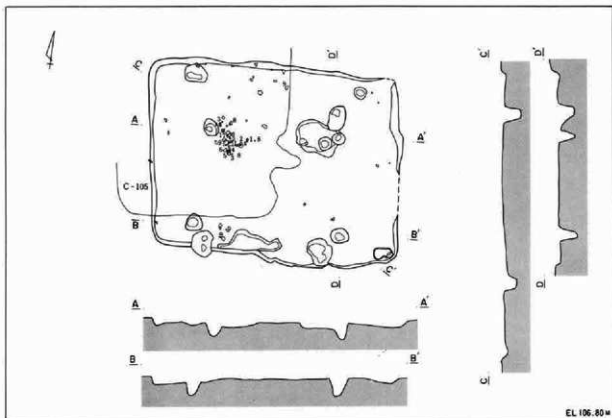
床 面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。住居の西半と周壁部が低く、全体に起伏が多い。

柱 穴 住居の対角線から南側にずれて4個を確認した。心々を結ぶ四角形は短軸2.0m、長軸2.9mの長方形で住居の外形と相似形を示すが、全体が南側に偏して、対角線の交点は住居外形のそれと一致しない。床面からの深さ30~40cmの円形掘方である。

竈 跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡を示すものは一切検出できない。

遺 物 住居中央西側の床面直上より環(須恵器)、高台付埴(須恵器)、羽釜の破片が出土する。

重 複 C-105号住居と重複する。C-105住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C - 105号住居

形状 小形正方形と推定する。北壁は確認できないが、東西軸3.6mがD-58号住居と一致し、竈の構造も近似している。 **方位** +84°

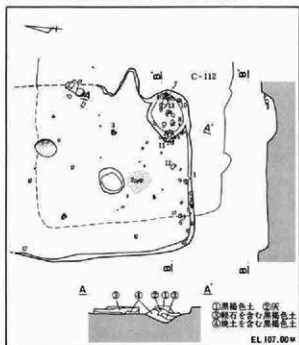
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。確認した面は平坦で良く整っている。住居の中央に直径50cm、深さ15cmの円形ピットを検出した。

竈跡 東壁の南側に設置する。地山のローム層を掘り残した長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き40cmで半分を壁外に造り出し、焚口部は壁内に設ける。煙道は幅20cmで燃焼部の外側20cmまで火床から水平に伸びて、45°の角度で立ち上がる。

貯蔵穴 住居南東隅に接して直径80cm、深さ25cmの楕円形。

遺物 南壁際中央の床面に密着して環、貯蔵穴の床面に密着して高台付埴、貯蔵穴の覆土内より甕の破片が出土。

重複 C-112号住居と重複する。この住居がC-112住の覆土を切って構築する平面積査の所見を得た。



C - 115号住居

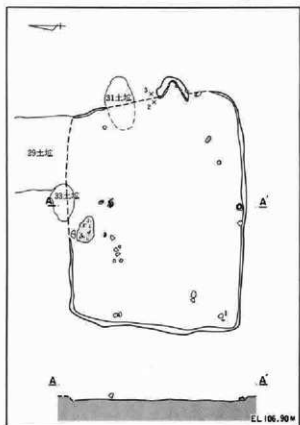
形状 中形単純長方形。長軸を東西にもち、短軸3.8m、長軸4.8mを測る。南壁に対して北壁が短い不整長方形を示す。中尾遺跡には縦長長方形住居が少なく、正方形住居が超大型から超小形まで分散して存在するのに対して、小形に集中している。台地東側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に単独で占地し、近接するC-112号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似する。同形状、同規模の住居は中尾遺跡にこの2例のみである。C-61号住居と同時存在し得ない距離に近接して占地している。

面積 17.8㎡ **方位** +91°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。全体に平坦で良く整っている。北壁の中央で33土埴、東壁の北側で31土埴と重複する。

竈跡 東壁の中央から南側に設置する。壁を幅40cm、奥行25cmの台形に掘り込んで、燃焼部はそっくり壁外に造り出す。壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に沿って粘土を積み上げ、主体部は粘土で構築したと考えられる。煙道は燃焼部の底面から幅20cmで水平に20cm伸びて、垂直に立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はなく、支脚も確認できない。

遺物 住居南西部の覆土内より環(須恵器)、東壁際中央の覆土内より環(須恵器)、甕の破片が出土する。



C-113号住居

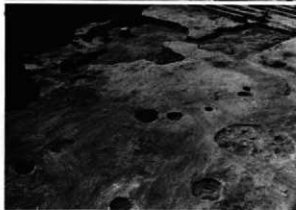
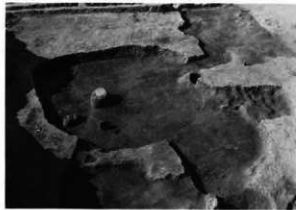
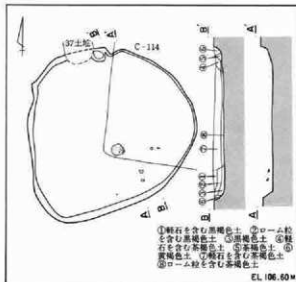
形状 分類できない。直径3.5mの不整形円形を示す。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。

面積 10.3㎡

遺跡 確認できない。出土した遺物から窺をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡を示すものは一切ない。

遺物 南壁際より環が出土する。

重複 C-114号住居と重複する。C-114住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



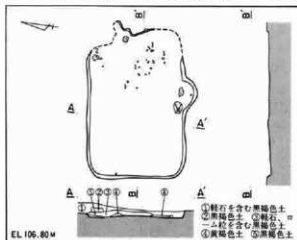
C-111号住居

形状 超小形単縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸2.1m、長軸2.9mを測る。南壁中央部の半円形の掘り込みは、精査の結果窺ではなく、東壁に竈を設置する単縦長長方形と判定した。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。

面積 6.3㎡(推定) 方位 +79°

遺跡 東壁の中央北側に設置する。燃焼部は壁外に造り出し、焚口部に凝灰岩の切石を据える。煙道は大床から水平に20cm伸びる。

遺物 住居の北東部より環、住居中央西側より環の破片。



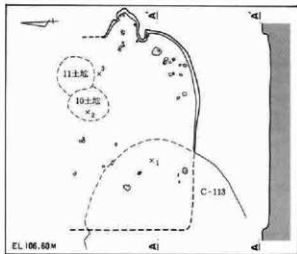
C-114号住居

形状 分類できない。西壁と北壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。

遺跡 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ15cmの袖部を検出した。燃焼部は幅60cm、奥行き40cmの台形で、大半を壁外に造り出す。

遺物 住居の中央部より高台付皿(須恵器)が出土する。

重複 C-113号住居と重複する。この住居がC-113住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



C - 119号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.8mを測る。住居の南東部は重複のため確認できないが、確認した住居の形状、規模及び軸線の傾きが、近接するD-11号住居に近似している。

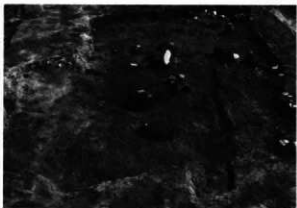
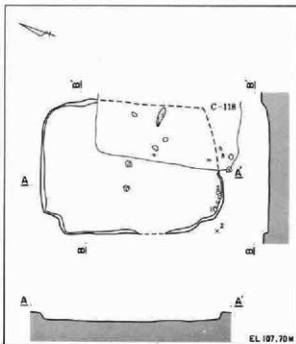
面積 9.9㎡(推定) **方位** +70°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。確認した面は平坦で良く整っている。貼束した痕跡はなく、ローム層の地山をそのまま生活面としている。

竈跡 確認できない。焼土、灰等の痕跡は一切ないが、出土した遺物から竈をもつ住居と推定できる。重複する住居に切られた可能性が高い。

遺物 南壁際西側の覆土内より環(須恵器)、環蓋(須恵器)が出土する。

重複 C-118号住居と重複する。新旧関係を判別する実証的資料はないが、竈が確認できないことから、C-118住居がこの住居を切って構築していると判定する。



C - 118号住居

形状 超小形正方形。一辺3.0mで南北の軸が僅かに長い。確認した住居外形は整った方形を示す。

面積 8.5㎡(推定) **方位** +84°

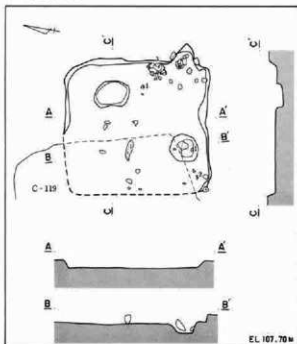
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。全体に小さな起伏が多く、平坦な面は少ない。住居の北東部に深さ15cmの不整形ピットを検出した。

竈跡 東壁の南端部に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据え、火床の中央部には石製支脚を埋め込む。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東部に深さ25cmの不整形円形プラン。

遺物 東壁際中央の床面に密着して羽釜、南壁際西端の床面に密着して環蓋(須恵器)、貯蔵穴内より環(須恵器)。

重複 C-119号住居と重複する。C-119住居の竈が確認できないことから、この住居がC-119住居を切って構築していると判定する。



C-120号住居

形状 分類できない。住居の西側は掘り込みが浅いため確認できず、外形は確定できない。近接する住居に対して東に大きくずれる軸線の傾きが、それらとの時間差を示していると考えられる。

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ローム層の地山をそのまま生活面としている。住居の東側に直径20cm、深さ20~40cmのピット2個を検出するが、対応する位置のピットが検出できず、柱穴とは認定できない。

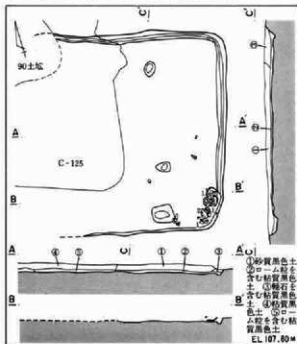
炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できるが、焼土、灰の底跡はない。

壁溝 北壁と東壁に幅10cm、深さ5~10cmで巡る。

貯蔵穴 南壁際東側に深さ50cmの方形プランで設ける。

遺物 東壁際南端の床面に密着して台付甕が出土する。

重複 C-125号住居と重複する。C-125住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



C-125号住居

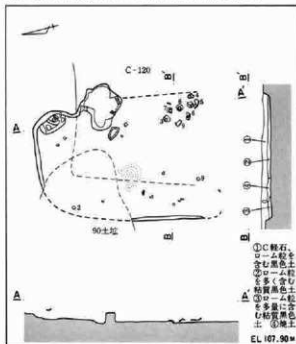
形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもち、短軸2.6mの小形横長方形の可能性ある。方位 +102°

床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ5cmの貼り床を施して生活面とするが、数箇所なため生活面は平面的に確認できない。

竈跡 東壁の北側に設置する。残存状態が悪く、火床の構築面である浅いピット以外は確認できない。熱発部は幅60cm、奥行き40cmの円頂形で、壁外に造り出すと考えられる。火床は深さ10cmの不整形凹形に掘り窪めた後、埋め戻して構築する。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

遺物 住居南東部の構築面直上より甕、高台付罐(須恵器)、北壁際南端の覆土内より環が出土する。

重複 C-120号住居と重複する。この住居がC-120住の覆土を切って構築している土層断面の所見を得た。



C-121号住居

形状 超大形半横長長方形。長軸を東西にもち、短軸6.4m、長軸7.5mを測る。胴張りをもつ壁と丸みの大きい隅で構成される、整った長方形を示す。半横長長方形住居で最大の規模をもち、中尾遺跡内でも最大級の規模を示す。中尾遺跡で炉をもつ住居は、中形正方形を中心とした正方形が圧倒的に多く、軸線が東へ大きく傾く共通点がある。炉をもつ住居で正方形以外の形状を示すのは、この住居とD-40号住居の2軒である。近似した形状、規模の住居はない。台地の中央部に単独で占地している。

面積 45.2㎡ **方位** -84°

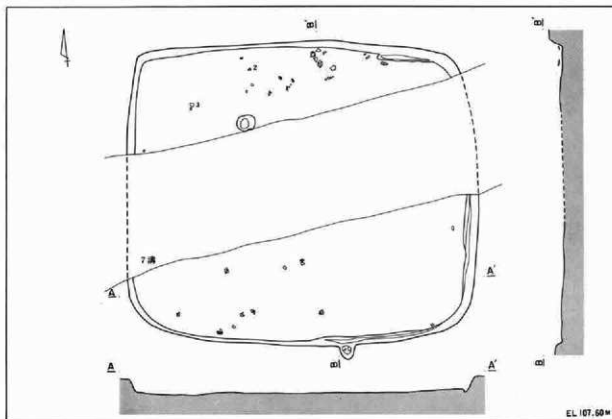
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、住居の中央部は踏み固められて硬い。住居の中央を東西に、後世の溝が深く掘り込む。

柱穴 確認できない。住居中央から北西のピットは柱穴の可能性はある。

炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できる。

壁溝 南壁と東壁の一部に幅10cm、深さ10cmで確認した。

遺物 住居北西部の床面に密着して埋、北壁際西側の覆土内より台付甕が出土する。



C - 123 号住居

形状 大形半横長方形。長軸を南北にもち、短軸4.8m、長軸5.5mを測る。直線的な壁と、直角の隅で構成される整った長方形を示す。北壁に竈を設置する大形正方形住居に共通の柱穴と壁溝をもつが、住居の形状、規模が異なる。

面積 26.6㎡ **方位** +77°

床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して、平坦な生活面を作る。

柱穴 住居の対角線上に3個を確認した。北西に位置する柱穴は確認できない。心々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形で、短軸2.3m、長軸2.6mの整っ

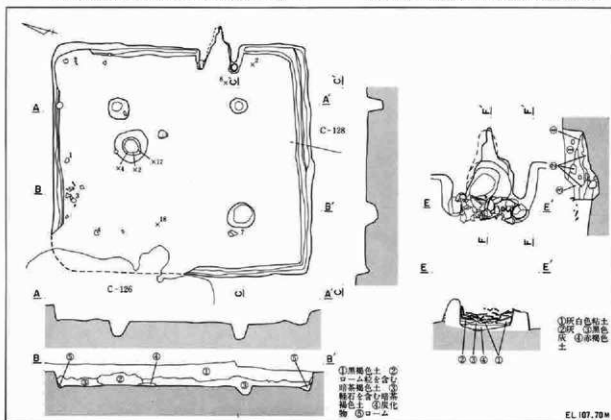
た長方形を示す。深さ30~40cmの円形掘方である。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁内に粘土で造り付けた長さ40cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmで大半を壁内に設ける。袖部左側の先端部に凝灰岩の切石、右側の先端部に炭を伏せ、その間に3個体の炭を組んで構築する。煙道は幅20cmで火床から水平に30cm伸びて垂直に立ち上がる。

壁溝 竈下と北東隅を除いて幅15cm、深さ10cmで全周。

遺物 北壁際中央の床面に密着して環、竈西側の覆土内より環蓋(須恵器)が出土する。

重複 C-126号住居と重複する。C-126住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C-126号住居

形状 小形横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸4.1mの整った長方形を示す。近接するD-42号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。小形準横長長方形が中尾遺跡で最も多い傾度を示すのに対して、同規模の面積をもつ小形横長長方形は少ない。同形状、同規模の住居は遺跡の中ほどに、近接することなく占地する傾向を示す。

面積 9.8㎡ **方位** +86°

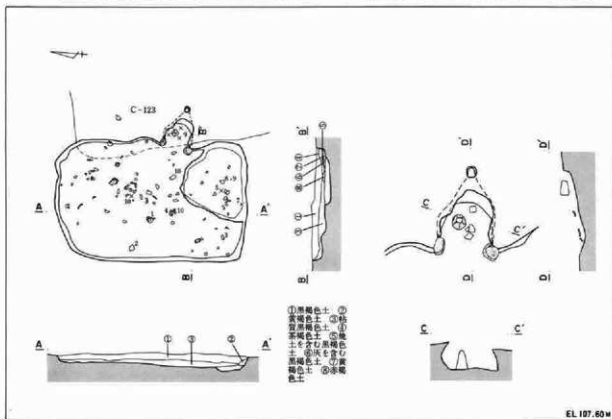
床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で厚さ5cmの貼床を施して、平坦な生活面を作る。住居の南東部は深さ5

cmの不整形に掘り窪められている。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。残存状態が良く、煙道部の天井は遺存していた。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の左側に角閃石安山岩の切石、同右側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。火床の中央から左側に、全面を加工した凝灰岩を埋込んで支脚とする。

遺物 住居中央西側の床面に密着して環(須恵器)、住居中央部の床面直上より甕、高台付埴(須恵器)。

重複 C-123号住居と重複する。この住居がC-123住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



C - 128号住居

形状 分類できない。ローム層への掘り込みが浅いため南西部の一角を除いて確認できず、住居の外形を確定できない。

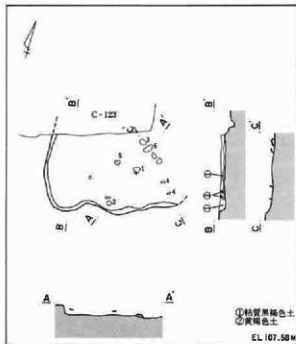
方位 +74°(推定)

床面 ローム層を5cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床して生活面を作った可能性があるが、生活面は軟弱で明確に把握できない。出土した遺物のレベルが生活面である可能性が高い。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、痕跡を示す焼土、灰は一切検出できない。重複する住居に切られた可能性があるが、全体に掘り込みが浅いために削平したことも考えられ、竈が重複する住居との新旧関係を示す資料にはならない。

遺物 構築面の直上より環、盤、環(須恵器)が出土する。

重複 C-123号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



C - 79号住居

形状 分類できない。西壁が現代の水路に切られて確認できないため、住居の外形は確定できない。東西軸3.4mを測る。竈をもつ同軸長の住居はない。

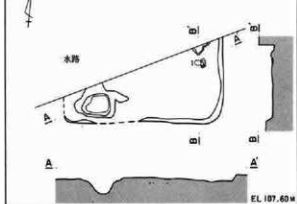
方位 +85°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡があるが、明確に確認できない。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡は確認できない。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ30cmの方形プランで設ける。

遺物 東壁際の床面に密着して器台が出土する。



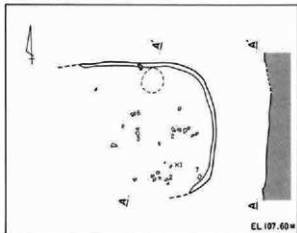
C - 122号住居

形状 分類できない。西壁と南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸2.8mと推定する。

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。北壁の周壁部が住居の中央部より低く、全体に南壁部から北壁部にかけて傾斜している。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 住居南東部の床面に密着して鉢(須恵器)、住居中央部の覆土内より環が出土する。



C-127号住居

形状 中形横長方形と推定する。南壁が後世の溝に切られて確認できないため住居の外形は確定できないが、確認した短軸がD-123号住居と一致し、竈の位置、構造も近似している。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸4.8mと推定する。台地の西側に単独で占地している。

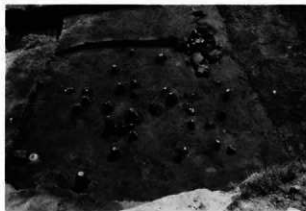
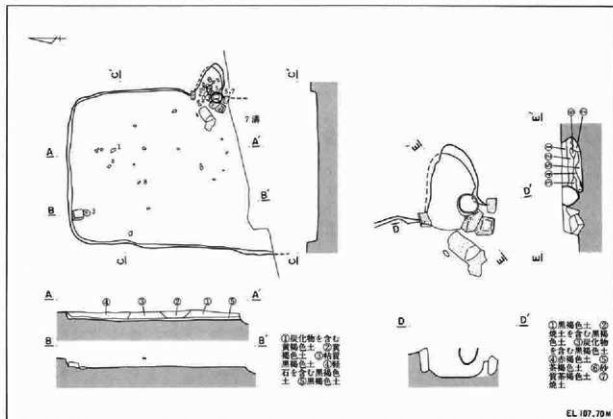
方位 +90°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整い、竈の西側は踏み固められている。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂

形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。壁外に掘り込んだ熱焼部の側壁に沿って粘土を積み、主体部を構築する。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、その間に同質の石材を横架して焚口部を構成する。火床の中央には同質の石材を棒状に加工した支脚を埋込む。火床の中央から右側に、竈に使用していたと考えられる壁が出土する。火床中央の支脚からずれているので、使用状態ではない。煙道は火床から45°の傾きで立ち上がる。

遺物 北壁際西側の床面に密着して環蓋(須恵器)、住居中央北側の床面直上より高台付埴(須恵器)が出土。



D 地区

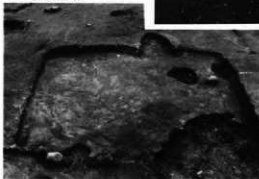


▲15 D-146号住居周辺 (西から)

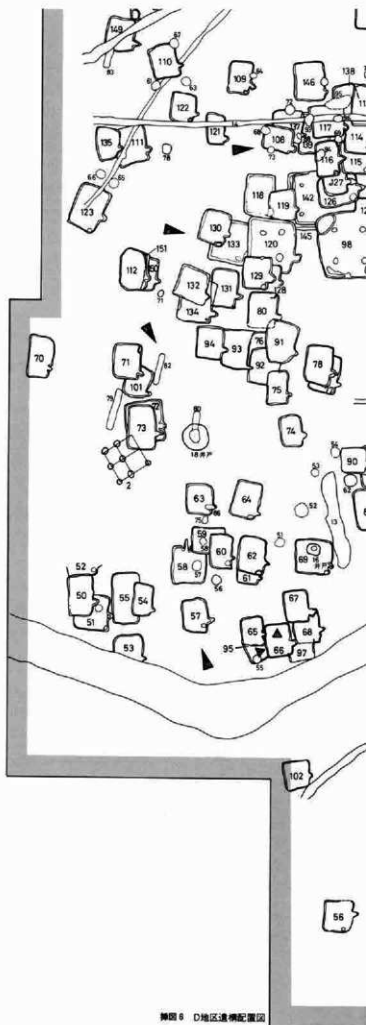
▶ 16 石帯出土状態 (D-66号住居)



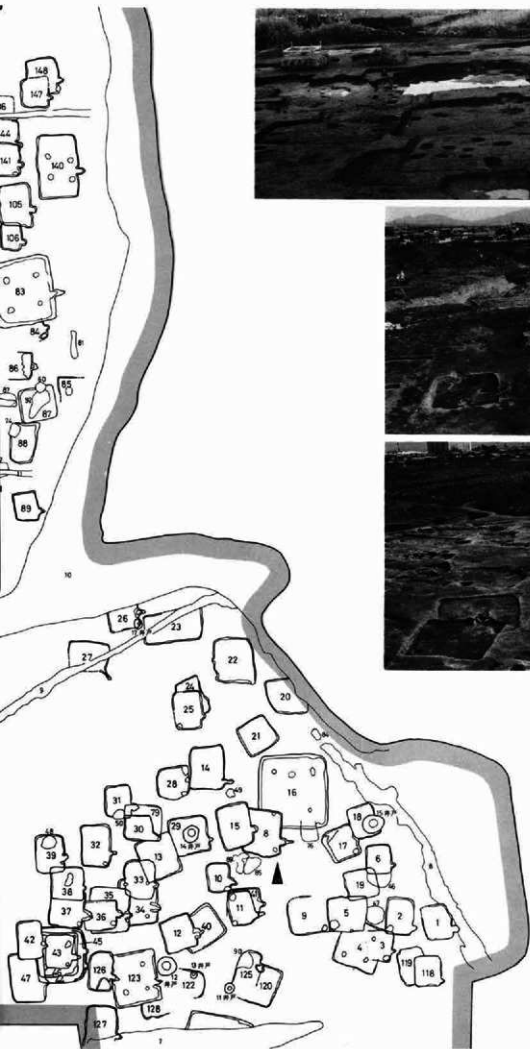
▼17 D-66号住居



▼18 18号井戸周辺 (北から)



神図 8 D地区遺構配置図



▲19 D-120号住居周辺 (西から)
 ▲20 D-57号住居周辺 (南から)
 ▲21 D-8号住居周辺 (南から)



D-1号住居

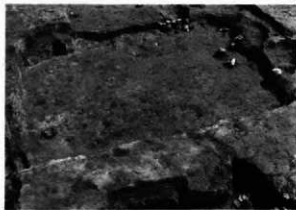
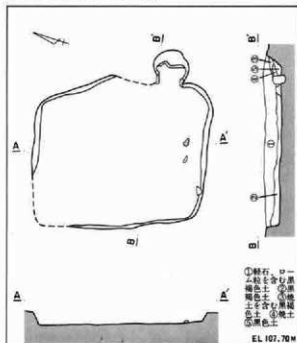
形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.7mで全体に歪んだ不整長方形を示す。D-71号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 10.7㎡ **方位** +74°

床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質土の地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っており、踏み固められて堅固である。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を埋込んで、焚口部を補強している。焚口部を除いて、強く火を受けた痕跡はない。煙道は壁の上段から緩やかに立ち上がるが、その形状、規模は確認できない。

遺物 住居北西部の床面に密着して環、竈の覆土内より高台付埴埴(須恵器)が出土する。



D-2号住居

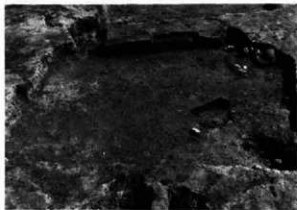
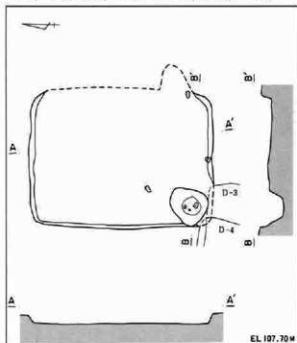
形状 小形半横長長方形。住居の東壁部は確認できないが、北東と南東の隅は確認した。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.9mの整った長方形を示す。東壁に竈を設置し、竈と相対する西壁の南側に貯蔵穴を配置する。中尾遺跡にこの類例は少なく、同じ貯蔵穴の位置で同形状、同規模の住居はD-25号住居のみである。

面積 11.2㎡ **方位** +91°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居の南半は黒色土とロームの混土で貼床する。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。東壁部は明確に確認できず、竈の全形も不明であるが、壁に沿って凝灰岩の切石が出土し、焚口部手前の床面に灰を検出した。この部分を除いて竈の痕跡は一切ない。凝灰岩の切石の状況から、燃焼部は壁外に造り出していると考えられる。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ30cmの不整形円形プラン。



D-6号住居

形状 小形厚横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.1mの整った長方形を示す。

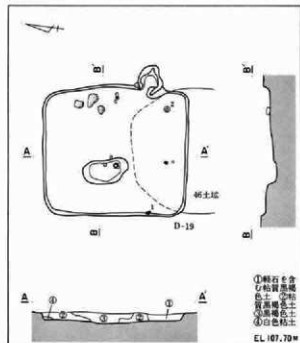
面積 8.2㎡ **方位** +84°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。住居南半部の、46土壇との重複部にのみ貼床し、他は地山のロームをそのまま生活面とする。全体に平坦で良く整っている。住居中央西側に、深さ10cmの不整形ピットを検出した。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床は深さ10cmの円形に掘り窪めた後、ロームと黒色土の混土で埋戻し、焚口部の左側に凝灰岩の切石を据える。全体に強く焼けた痕跡を残している。

遺物 住居南東部の床面に密着して環(須恵器)、西壁際南側の床面直上より羽蓋が出土する。

重複 D-19号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-19号住居

形状 小形正方形。一辺3.2mを測る。住居の北東と南西の隅は確認できないが、東西に僅かに長い整った方形プランを示す。

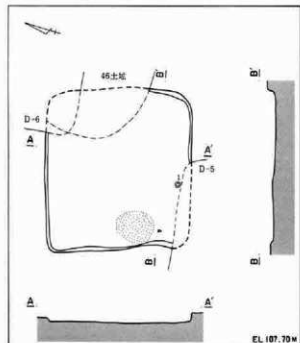
面積 10.3㎡(推定) **方位** +75°

床面 ローム層を10cm掘り込んで、ローム層の地山をそのまま生活面とする。全体に平坦で良く整っている。掘り込みが浅いために46土壇との新旧関係は不明である。重複部に貼床した痕跡はない。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡はない。46土壇に切られた可能性が高い。

遺物 南壁際中央の床面に密着して環が出土する。

重複 D-5号住居、D-6号住居と重複する。ともに新旧関係を判別する実証的資料はない。しかし、竈が46土壇に切られているとすると、D-6住は46土壇より新しいので、D-6住はこの住居より新しいことになる。



D-4号住居

形状 中形正方形。住居の北西部は確認できないが、一辺4.7mの整った方形プランを示す。C-18号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似する。中尾遺跡には炉をもつ同形状の住居がこれを含めて4例ある。

面積 22.9㎡(推定) **方位** +15°

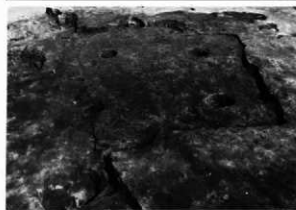
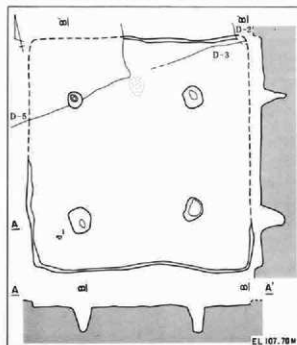
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ローム層の地山をそのまま生活面としている。確認した面は平坦で整っている。

柱穴 住居の対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居外形と相似形で、一辺2.5mの整った正方形を示す。床面からの深さ50cmの円形掘方である。

炉 住居中央北側の、北西と北東に位置する柱穴の間に僅かな焼土を検出した。

遺物 住居南西部の床面直上より台付罫の上部が出土。

重複 D-3号住居、D-5号住居と重複する。両住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-3号住居

形状 分類できない。住居の西側は掘り込みが浅いため確認できず、住居の外形は確定できない。

方位 +95°

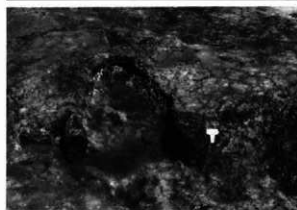
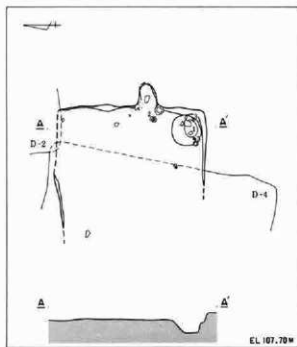
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。確認した面はローム層の地山をそのまま生活面としている。D-4号住居との重複部は、生活面を把握できない。

竈 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に、割った自然石を据えて補強材としている。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ30cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の手前と貯蔵穴西側の床面に密着して高台付罫(須恵器)、貯蔵穴内より羽蓋が出土する。

重複 D-2号住居、D-4号住居と重複する。この住居がD-4住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。D-2住との新旧関係を判別する資料はない。



D-9号住居

形状 分類できない。住居東側の掘り込みが浅いため、外形は確定できない。長軸を東西にもち、東壁に竈を設置する縦長形の住居と推定する。方位 -98°

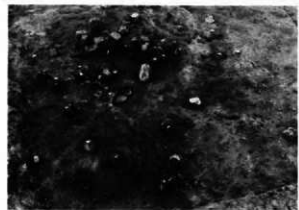
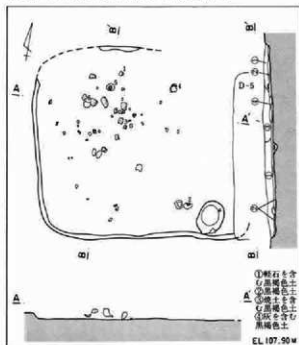
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ローム層の地山をそのまま生活面としている。全体に小さな起伏が多く、平坦な面はない。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。住居中央部の床面上10cmから、火を受けた凝灰岩が多量に出土した。重複するD-5号住居を構築する際に、壊されて投げ込まれた可能性が高い。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺物 住居北西部の床面に密着して環、環蓋(須恵器)、貯蔵穴西側の床面に密着して高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 D-5号住居と重複する。D-5住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-5号住居

形状 小形単純縦長方形。長軸を東西にもち、短軸3.7m、長軸4.3mを測る。北壁に対して南壁が短い不整形を呈し、中尾遺跡に近似した形状、規模の住居はない。

面積 15.1㎡ 方位 $+82^\circ$

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ローム層の地山をそのまま生活面としている。

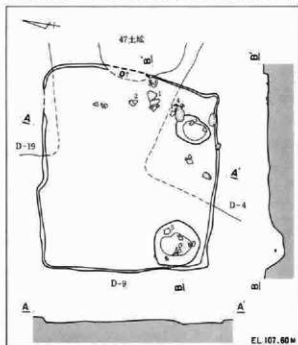
住居の南東部が周囲より10cm低い他は平坦で整っている。

竈跡 東壁の中央に設置する。住居の掘り込みが浅いため全形は確認できないが、周辺に多量の炭化物、灰を検出した。この部分を除いて竈の痕跡は一切ない。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ30cmの円形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面に密着して羽釜、環、皿、貯蔵穴内より糜の破片が出土する。

重複 D-4号住居、D-9号住居、D-19号住居と重複する。この住居がD-4住、D-9住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。D-19住との新旧関係を判別する資料はない。



D-7・17号住居

形状 小形正方形(D-7号住居)。一辺3.3mで北西隅の丸味が著しく大きい不整形を示す。D-7住の床面より確認したD-17住については、外形、住居施設の一切が不明である。

面積 11.0㎡ **方位** +60°

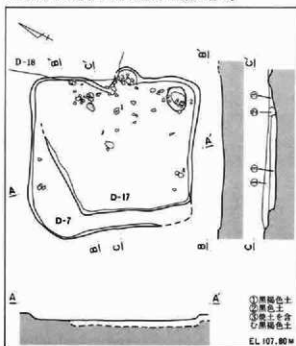
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。D-17号住居と重複する床面の大半には、ロームと黒色土の混土で貼床して、生活面を平坦に整える。全体に平坦で、踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅50cm奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ30cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の火床直上より環(須恵器)、住居南西部の床面直上より皿(須恵器)が出土する。

重複 D-18号住居と重複する。D-18号住居がこの住居の竈を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-18号住居

形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.5mの整った長方形を示す。竈は確認できないが、東壁に竈を設置していたと推定する。中尾遺跡には竈をもつ小形半横長長方形住居が最も多く、貯蔵穴を竈の右脇に配置する住居もこの形に多い。

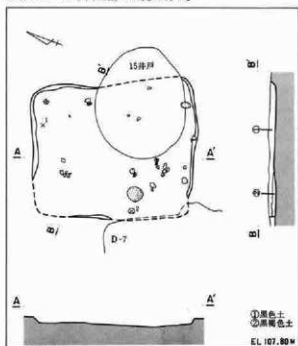
面積 9.6㎡ **方位** +69°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する井戸に切られた可能性が高い。

遺物 西壁際中央の床面直上より高台付埴(須恵器)、住居北東部の床面に着着して刀子状の鉄器が出土する。

重複 D-7号住居と重複する。この住居がD-7住の竈を切っている平面精査の所見を得た。



D - 40号住居

形状 中形準横長方形。長軸を東西にもち、短軸3.8m、長軸4.6mの整った長方形を示す。中尾遺跡で伊をもつ中形住居は、D-4号住居に代表される正方形が多く、この住居とは形状、軸線の傾き等、異なった様相を示している。

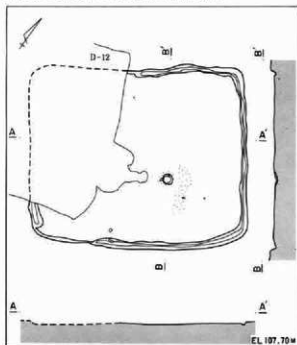
面積 17.2㎡ (推定) **方位** +50°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で、踏み固められている。

炉跡 住居の中央から南東に偏して設置する。床面を直径30cm、深さ10cmの円形に掘り窪めて炉床とする。全体に焼土が多く、特に炉の中心部は強く焼けた痕跡を残している。焼土の上には放射状に置かれた燃料の炭化物を多量に検出した。

壁溝 幅10cm、深さ5cmで重複部を除いて確認した。

重複 D-12号住居と重複する。D-12住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 12号住居

形状 小形正方形。一辺3.5mを測る。東壁に竈を設置し竈の右脇に貯蔵穴を配置する。整った方形を示す。E-15号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 12.0㎡ **方位** +69°

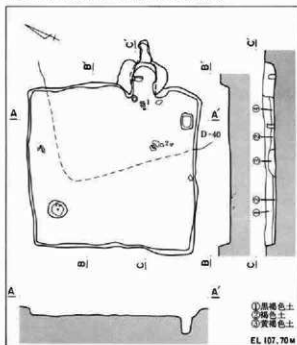
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居東半の床面直上より多量の炭化物を検出した。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。残存状態が良く、粘性土で構築した長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。煙道は奥壁の中段から壁外50cmまで確認した。火床の中央から僅か北側に偏して、角閃石安山岩の支脚を埋込む。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ35cmの方形プランで設ける。

遺物 竈焚口部手前の床面に密着して鉢、住居中央南側の床面に密着して環(須臾器)がそれぞれ出土する。

重複 D-40号住居と重複する。この住居がD-40住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-16号住居

形状 超大形正方形。一辺7.8mで東西軸が南北軸に対して僅かに短い。直線的な壁と丸味の大い隅で構成される整った方形を示し、遺跡内で最大の規模をもつ。炉をもつ住居は中形正方形が多く、軸線の傾きが東へ大きくずれる共通点をもつが、この住居の長軸はほぼ南北軸を示す。台地東側の縁辺部に占地し、近似する形状、規模の住居は中尾遺跡にない。

面積 56.2㎡ **方位** +22°

床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して、平坦な生活面を作る。住居の南東部は踏み固められて硬い。

柱穴 住居の対角線上に整然と4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形で、南北に僅かに長い方形を示す。床面からの深さが40~50cmの円形掘方である。

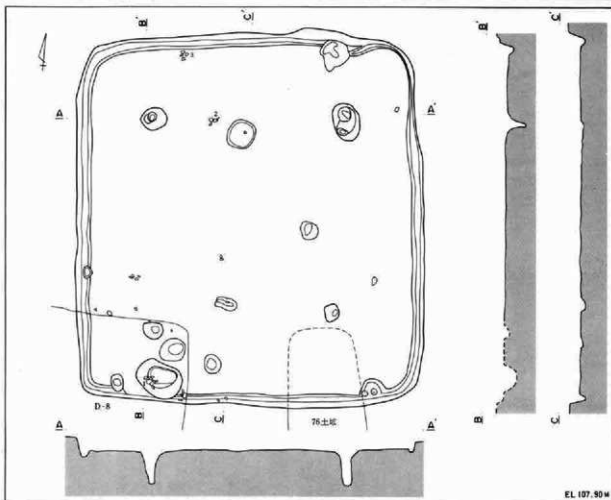
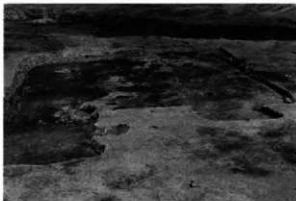
炉跡 住居の中央北側に設置する。床面を直径50cm、深さ5cmの円形に掘り窪めて炉床とする。炉床に僅かな焼土を検出した。

壁溝 幅10~20cm、深さ10~15cmで、南壁西側の一部を除いて全周する。

貯蔵穴 南壁際の西側に短軸40cm、長軸60cm、深さ30cmの不整方形プランで設ける。

遺物 炉の西側の床面に密着して器台、貯蔵穴西側の床面直上より台付甕の破片が出土する。

重複 D-8号住居と重複する。D-8住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



EL. 107.90 M

D - 8号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸4.1m、長軸4.8mの整った長方形を示す。

面積 19.7㎡ **方位** +89°

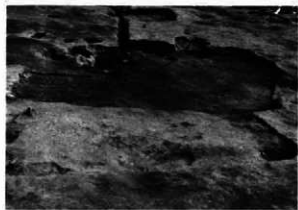
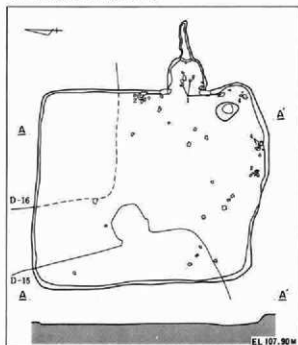
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10cmの貼床をして平坦な生活面を作る。住居北東部のD-16号住居との重複部には、厚い貼床を施している。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き70cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は幅20cmで壁の中段から壁外80cmまで、緩やかに立ち上る。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、火床の中央部に同質の石を埋込んで支脚とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの不整円形プランで設置。

遺物 竈と南壁際東面の床面に密着して環、環が出土。

重複 D-15号住居、D-16号住居と重複する。この住居がD-16住の覆土を切り、この住居の覆土をD-15住が切っている土層断面の所見を得た。



D - 15号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸4.7mを測る。北壁に対して南壁が長い不整長方形を示す。東壁に竈を設置して、相対する西壁際に貯蔵穴を配置し、D-105号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 15.3㎡ **方位** +72°

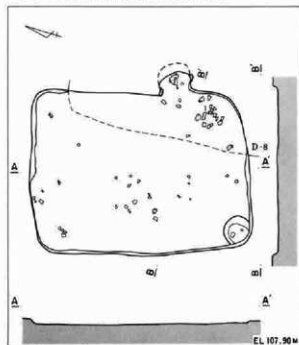
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。D-8号住居との重複部にのみ貼床し、他はロームの地山をそのまま床面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き60cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部には凝灰岩の切石を据えて補強材としている。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 住居南東部の床面に密着して羽蓋の破片が出土。

重複 D-8号住居と重複する。この住居がD-8住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-28号住居

形状 小形正方形。一辺3.5mを測る。南壁が中央部で大きく屈曲し、四隅が丸味をもつ不整形方形を示す。

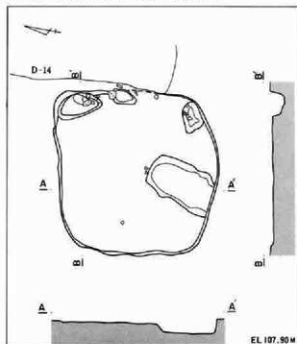
面積 10.7㎡ **方位** +78°

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。住居南側が深さ20cmの方形に掘り込まれている他は、平坦で良く整っている。東壁際に深さ30cmの不整形ピット2個を検出した。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定でき、東壁際中央南側の床面に多量の炭化物を検出した。重複する住居に切られた可能性が高い。住居内に主体部の痕跡がないことから、熱煙部は壁外に造り出していたことが推察できる。

遺物 住居中央部の床面に密着して焼の破片が出土する。

重複 D-14号住居と重複する。D-14住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-14号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもら、短軸3.6m、長軸4.4mの整った長方形を示す。東壁の南端付近に竈を設置して、竈と相對する西壁の南端に貯蔵穴を配す。中尾遺跡で貯蔵穴を竈と対応する壁の際に配置するのは、竈を東壁の南端か、南端付近に設置する住居に限定される。

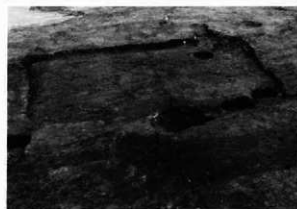
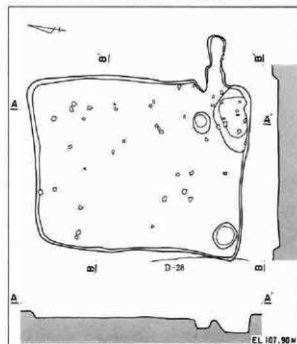
面積 16.2㎡ **方位** +86°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。

竈跡 東壁の南端に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、熱煙部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の中段から水平に60cm伸びて、緩やかに立ち上がる。焚口部の左側に、補強材とした自然石を検出した。

貯蔵穴 住居の南東隅と南西隅にそれぞれ深さ20cmの楕円形、深さ40cmの円形プランで2個を確認した。

重複 D-28号住居と重複する。この住居がD-28住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-10号住居

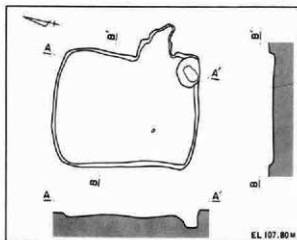
形状 小形半横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.4m、長軸3.1mを測る。

面積 7.2㎡ **方位** +83°

床面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。貼床した痕跡はない。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅70cm、奥行き40cmの方形に掘り込み、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ25cmの円形プランで設ける。



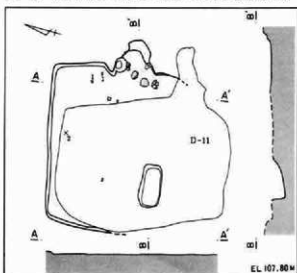
D-41号住居

形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。 **方位** +83°

床面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの台形に掘り込み、燃焼部は壁外に造り出す。西側より出土した礎灰岩は、焚口部に使用していたものと考えられる。

遺物 東壁際北側の床面に密着して高台付城(須恵器)。



D-11号住居

形状 小形半横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.7mの不整長方形を示す。東壁に竈を設置し、相対する西壁の北端と南端の二ヶ所に貯蔵穴を配置する。竈と対応する壁の際に2個の貯蔵穴を設けるのは、中尾遺跡に同一。

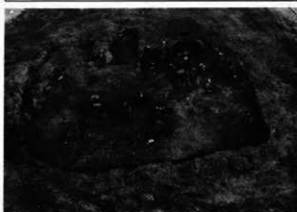
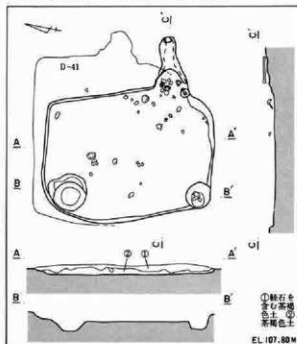
面積 9.1㎡ **方位** +74°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。現存状態が良く煙道部の天井は遺存していた。壁を幅70cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の中段から、壁外70cmまで緩やかに立ち上がる。焚口部の両側に補強材を埋込んだ深さ10cmのビットを検出した。

貯蔵穴 西壁際の北端と南端に深さ20cmの円形プラン。

重複 D-41号住居と重複する。この住居がD-41住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-29号住居

形状 小形正方形。一边4.0mの整った方形を示す。中尾遺跡に小形正方形住居は多いが、竈の燃焼部を壁内に造り付ける小形正方形住居は少ない。D-58号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 16.1㎡ **方位** +78°

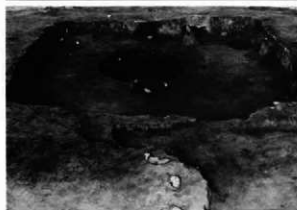
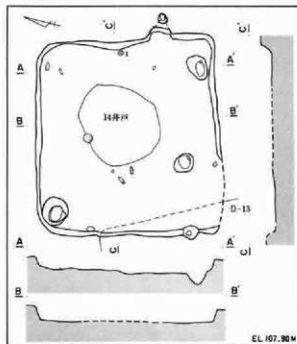
床面 ローム層を30cm掘り込んで平坦な生活面を作る。住居の中央部は14井戸に切られる。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く煙道部の天井は遺存していた。壁に幅40cm、奥行き15cmの掘り込みを確認した。袖部は確認できないが掘り込みの状況から燃焼部は壁内に造り付けていた可能性が高い。煙道は壁の中段から壁外30cmまで伸びて、垂直に立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ25cmの不整形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面に密着して坏が出土する。

重複 D-13号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-79号住居

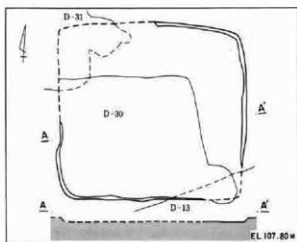
形状 小形正方形。長軸4.0mを測る。住居の北西隅は確認できない。近接するD-69号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 14.5㎡ **方位** +87°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。

竈、竈跡 確認できない。遺物の出土がないので、炉付住居か竈付住居かの判定がつかない。

重複 D-30住がこの住居の覆土を切って構築する。D-13住、D-31住との新旧関係を判別する資料はない。



D-13号住居

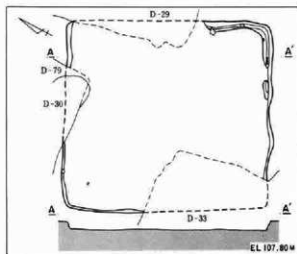
形状 中形正方形。長軸4.3m。同形状、同規模の中形正方形住居に対して、軸線が西に大きく傾いている。

面積 12.1㎡ **方位** -26°

炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できるが、焼土、灰の痕跡はない。

壁溝 住居の南東隅に幅10cm、深さ10cmで巡る。

重複 D-30住がこの住居の覆土を切って構築する。D-29、33、34、79住との新旧関係を判別する資料はない。



D - 31号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.4mで、四隅が丸味をもつ整った長方形を示す。

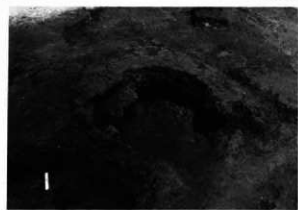
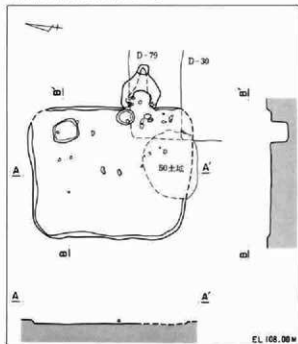
面積 9.0㎡(推定) **方位** +85°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。住居の北東部に深さ40cmの方形ピットを検出した。南壁の中央部で50土壇と重複する。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く、煙道部の天井は遺存していた。壁を幅60cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。煙道は熱焼部の底面から、壁外50cmまで緩やかに立ち上がる。焚口部左側の床面に、焼土及び灰が多量に入った深さ10cmの円形ピットを検出した。

遺物 竈の覆土内より環の破片が出土する。

重複 D-30号住居、D-79号住居と重複する。ともに新旧関係を判別する資料はない。



D - 30号住居

形状 小形準縦長方形。短軸2.6m、長軸3.0mの長方形を示す。東壁の南端に竈を設置し、長軸を東西にもつ。中尾遺跡には北壁に竈を設置する縦長方形住居はなく、小形の縦長形住居は、東壁の南端に竈を設置する例が多い。

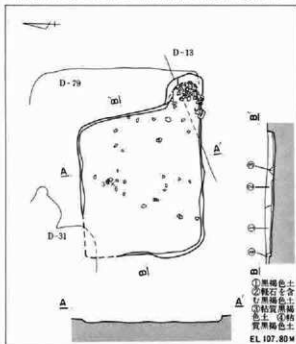
面積 7.8㎡ **方位** +85°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南端に設置する。壁を幅60cm、奥行き50cmの台形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。煙道は熱焼部の底面から壁外に伸びるが、形状は確認できない。焚口部に石材を用いた痕跡はない。

遺物 住居中央北側の床面に密着して高台付壇(須恵器)、竈の覆土内より羽釜、環(須恵器)が出土する。

重複 D-13号住居、D-31号住居、D-79号住居と重複する。この住居がD-13住、D-79住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。D-31住との新旧関係を判別する資料はない。



D-34号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもら、短軸4.1m、長軸4.9mの整った長方形を示す。重複するD-35号住居と、住居の形状、規模、竈の構造が極めて近似している。

面積 19.5㎡ **方位** +82°

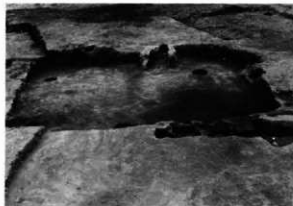
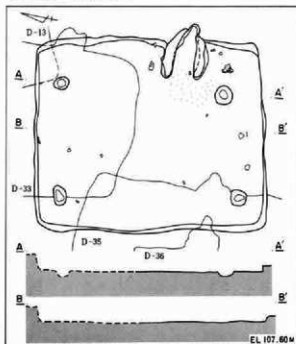
床面 ローム層を30cm掘り込んで、ロームの地山をそのまま生活面とする。平坦で良く整っている。

柱穴 住居の対角線から長軸方向にすれて4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居外形と相似形ではなく、長軸を南北にもつ不整長方形を示す。深さ20cmの円形掘方。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁の内側に粘土で構築した長さ70cmの袖部を確認した。燃焼部は壁内に造り付け、煙道は壁外30cmまで伸びる。

遺物 南壁際中央の覆土内より環が出土する。

重複 D-33号住居、D-35号住居、D-36号住居と重複する。この住居の覆土がD-33住、D-35住、D-36住に切られる平面精査の所見を得た。



D-33号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもら、短軸3.2m、長軸4.1mの整った長方形を示す。

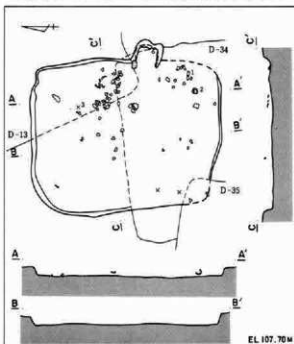
面積 12.2㎡ **方位** +88°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼土した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。北壁の周壁部が住居の中央より僅かに低い他は、平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き30cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は確認できない。焚口部の左側に凝灰岩の切石が出土し、同右側に石材の痕跡を検出した。

遺物 西壁際南側の床面に密着して鉄器、東壁際南側の床面直上より環が出土する。

重複 D-13号住居、D-34号住居、D-35号住居と重複する。この住居がD-13住、D-34住の覆土を切っている平面精査の所見を得た。D-35住との新旧関係を判別する資料はない。



D - 35号住居

形状 中形準縦長長方形。長軸を南北にもち、短軸4.1m、長軸4.8mで、西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。東壁に設置した竈の燃焼部は、壁内に造り付ける。中尾遺跡では、竈の燃焼部を壁内に造り付けるのは正方形住居に多い。

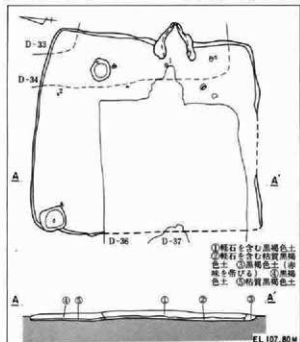
面積 19.2㎡(推定) **方位** +86°

床面 ローム層を15cm掘り込み、この面を平坦に整えて生活面とする。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁の内側に粘土で構築した長さ30cmの袖部を確認した。燃焼部は幅50cm、奥行40cmの方形で壁内に造り付け、煙道は燃焼部の底面から緩やかに立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈手前の床面に密着して炭の破片が出土する。

重複 D-34号住居、D-36号住居と重複。この住居がD-34住の覆土を切り、D-36住に切られる平面精査の所見を得た。



D - 36号住居

形状 小形準縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.1m、長軸3.5mの整った長方形を示す。

面積 10.5㎡(推定) **方位** +82°

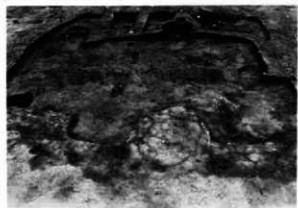
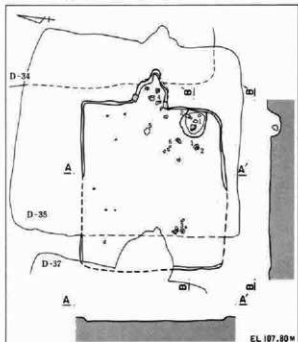
床面 ローム層を10cm掘り込んで平坦な生活面を作る。

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅60cm、奥行40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁内に造り出す。主体部は黒褐色土で構築する。煙道は燃焼部の底面から緩やかに立ち上がる。焚口部の左側に凝灰岩の切石、右側に自然石を用いて補強材とする。火床の奥壁寄りに、加工した凝灰岩を2個並列して支脚とする。

貯蔵穴 東壁際の南側に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 住居の南東部と南西部の床面に密着して環、鏃、竈の覆土内より皿(灰輪陶器)が出土する。

重複 D-34号住居、D-35号住居、D-37号住居と重複する。この住居がD-34住、D-35住の覆土を切り、D-37住に切られる平面精査の所見を得た。



D-37号住居

形状 小形正方形。一辺3.7mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される整った方形を示す。

面積 14.0㎡ **方位** +94°

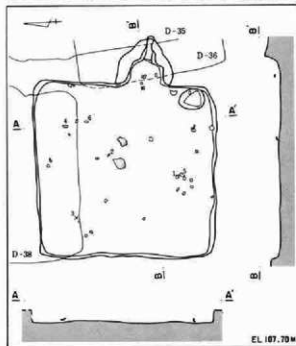
床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒褐色土の混土で貼床して、平坦な生活面を作る。全体に踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の中段から壁外50cmまで、緩やかに立ち上がる。石材を使用した痕跡はない。火床は深さ10cmの円形に掘り窪めた後、平坦に埋戻している。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ20cmの不整円形プランで設ける。

遺物 住居北東部の床面に密着して環（須恵器）、住居中央南側の覆土内より環、皿（須恵器）が出土する。

重複 D-36号住居、D-38号住居と重複。この住居がD-36住の覆土を切り、D-38住に切られる平面精査の所見を得た。



D-38号住居

形状 小形正方形。一辺3.5mを測る。東壁に竈を設置する整った方形を示す。中尾遺跡の正方形住居は、北壁に竈を設置する例と東壁に竈を設置する二例があり、東壁竈は小形の住居が圧倒的に多い。古地西側の住居密集地に占地し、D-51号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。周辺部は遺跡の南半で、最も住居が密集する部分である。

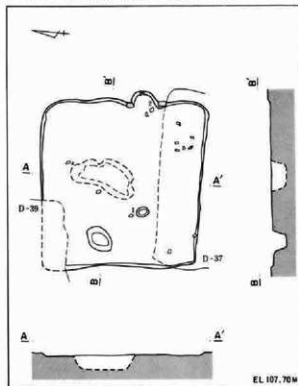
面積 11.9㎡ **方位** +85°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居中央のピット上部を除いて貼床した痕跡はなく、地山を整えて生活面としている。住居中央のピットは直径120cm、深さ30cmの不整楕円形で、周囲の床面と同一レベルまで粘粘土で貼床している。全体に平坦で良く整っている。西壁際の北側に深さ30cmの不整円形ピットを検出した。住居の北西部は確認できない。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。残存状態が悪く主体部は原形を留めていないが、白色粘土で構築した痕跡がある。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

遺物 竈の覆土内より環の破片、住居中央西側の覆土内より環（須恵器）が出土する。

重複 D-37号住居、D-39号住居と重複する。この住居がD-37住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。D-39住との新旧関係を判別する資料はない。



D-39号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸3.9mを測る。直線的な壁で構成される整った長方形を示す。周辺には小形準横長長方形と、小形正方形住居が密集している。D-38号住居と重複しているので、小形正方形住居とは時間差があると考えられる。台地の西側に占地し近接するD-33号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

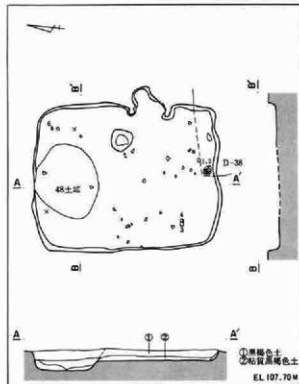
面積 11.8㎡ **方位** +83°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。南壁の周壁部が住居の中央部より僅かに低い他は、平坦で良く整っている。住居の中央東側に直径40cm、深さ20cmの不整形凹ピットを確認した。住居の中央北側に48土壇が床面下まで切る。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を突出した。燃焼部は幅60cm、奥行き40cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。残存状態が悪く主体部の構築材は確認できない。煙道は燃焼部の底面から水平に30cm伸びて、70°の傾きで立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 南壁際中央の床面に密着して重なる2個体の環、西壁際南側の床面直上より環、北壁際西側の床面直上より鉄塊が出土する。

重複 D-38号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-22号住居

形状 中形正方形。一辺4.5m。西壁に対して東壁が長く、全体に歪んだ不整形を示す。中尾遺跡では、竈を確認した中形正方形住居は4軒で、竈は壁の中央南側に設置されている。この住居の竈の位置は明確ではないが、正方形住居で竈を壁の末端か住居の隅を切って設ける例はない。

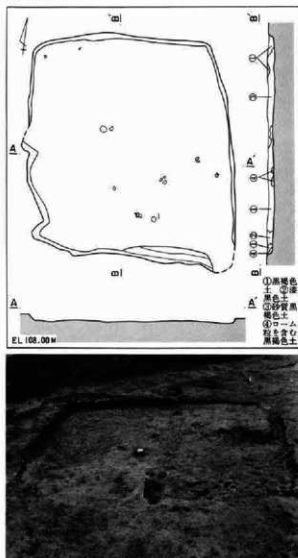
面積 19.6㎡ **方位** +6°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は、住居の北東部が中央部より10cm深く掘り込まれている。この面に貼床して生活面を作っているが、生活面は軟弱で一部を除いて確認できない。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に粘土、灰等、竈の痕跡を示すものは一切ない。

壁溝 南壁の一部に幅25cm、深さ10cmで巡る。

遺物 南壁際中央の床面に密着して高台付塊（須志器）が出土する。



D-20号住居

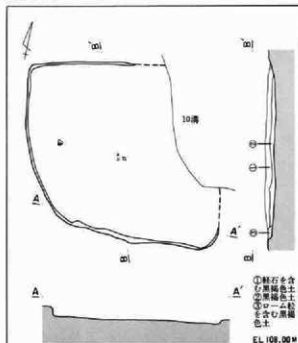
形状 分類できない。住居の北東部が後世の溝に切られて確認できないため、外形は確定できない。住居南西隅の丸味が大きい不整形を示す。中尾遺跡には、北壁に竈を設置する縦長方形住居はない。この住居は、確認した壁から長軸を東西にもつと考えられ、北壁に竈の痕跡もないので、東壁に竈を設置する縦長方形住居と推定できる。

方位 +77°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。住居の北半が中央部より高い他、全体に小さな起伏が多く、平坦な面は少ない。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡を示すものは一切ない。重複する溝に切られた可能性が高い。

遺物 西壁際中央の床面直上より高台付埴（須恵器）が出土する。



D-21号住居

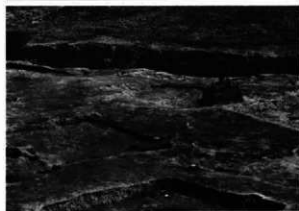
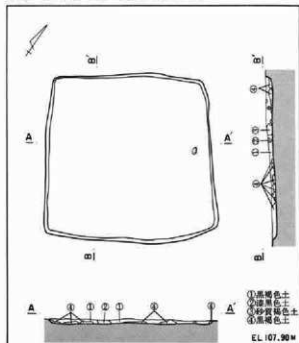
形状 小形正方形。一辺3.5mを測る。北壁に対して南壁が長い不整形を示す。近接するD-13号住居に、住居の形状、軸線の傾きが近似しているが、中尾遺跡で炉をもつ小形住居は、この住居を除いて他にない。炉をもつ住居は中形正方形が多く、これらは軸線の傾きが、北東方向へ大きくずれる共通点をもつ。

面積 12.1㎡ **方位** -35°

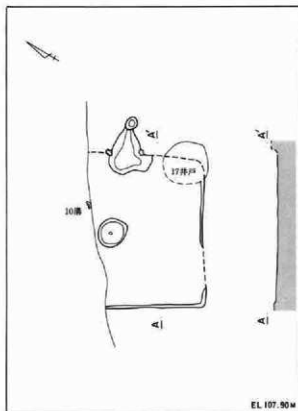
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。住居の中央部が周壁部より僅かに高いが、全体に平坦で良く整っている。

炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できるが、焼土、灰等、炉の痕跡を示すものは一切認められない。

遺物 東壁際中央の床面に密着して用途不明の河原石、住居の覆土内より裏の破片が出土する。



D-26号住居



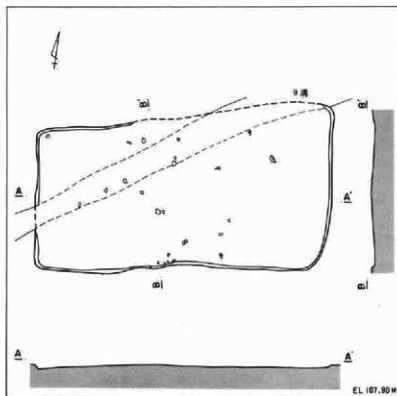
形状 分類できない。住居の北側を後世の溝に切られるため、住居の外形は確定できない。東西軸3.3mを測る。この軸長から類推できる住居の外形は、D-123号住居と同形の中形横長長方形と、D-32号住居と同形の中形単横長長方形の二つである。方位 +75°

床面 ローム層を10cm掘り込み、厚さ10cmの貼床を施す。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅90cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。狭口部の両側に凝灰岩の切石を据えて、補強材とする。



D-23号住居



形状 分類できない。長軸を東西にもち、短軸3.1m、長軸6.3mを測る。東壁に対して西壁が著しく短い不整長方形を示す。超大形縦長長方形のC-32号住居より小さく、中形縦長長方形のC-112号住居より大きい。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。

面積 20.4㎡ **方位** -81°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居の北側で9溝と重複し、この重複部に貼床を施す。重複部以外の床面は、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に焼土、灰などの竈の痕跡を示すものは一切ない。

遺物 住居中央部の床面直上より環、住居中央南側の床面直上より環(須恵器)が出土する。

D-24号住居

形状 小形縦長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸4.0m。D-42住と、住居の形状、規模が近似している。

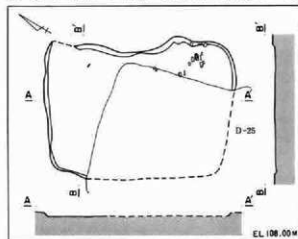
面積 10.8㎡(推定) **方位** +63°

床面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 東壁の南側に設置する。住居の掘り込みが浅いため、全形は確認できない。燃焼部は壁外に造り出したと考えられる。焚口部に石材の使用はない。

遺物 竈西側の床面に密着して高台付塊が出土する。

重複 D-25住がこの住居の覆土を切って構築している。



D-25号住居

形状 小形縦長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸4.0m。D-78住と、住居の形状、規模が近似している。

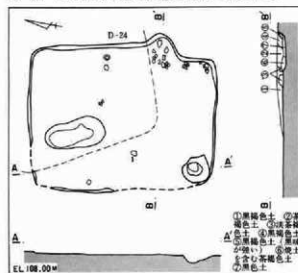
面積 11.7㎡ **方位** +81°

竈跡 東壁の南側に設置し、燃焼部は壁外に造り出す。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の火床に密着して高台付塊(須器器)が出土する。

重複 この住居がD-24住の覆土を切って構築する。



D-27号住居

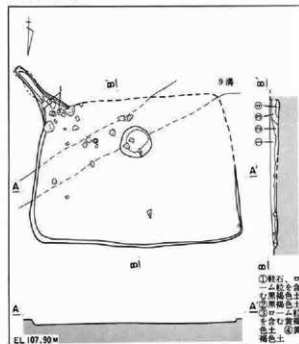
形状 小形縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.1m、長軸4.3mを測る。住居の南西部は確認できないが、北壁に対して南壁が短い不整形長方形と推定する。

面積 12.7㎡(推定) **方位** +87°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。溝との重複部以外は、ロームの地山をそのまま生活面とし、重複部にはロームと黒色土の混土で貼床する。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 住居の南東隅に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの台形に掘り込み、燃焼部は住居の長軸に対して55°の傾きで壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から、緩やかな勾配で1m伸びる。焚口部の両側と燃焼部奥壁の両側に4個の自然石を据えて補強材とし、火床の中央部に棒状の自然石を埋込んで支脚とする。

遺物 竈の火床に密着して羽釜、竈の覆土内より焚口の破片が出土する。



D-46号住居

形状 中形正方形。一辺4.4m。北壁に対して南壁が短い不整形を示す。中尾遺跡で炉をもつ中形正方形住居は、軸線の傾きが北東へ大きくずれる共通点をもつが、この住居の長軸は南北軸に近い。

面積 19.6㎡ **方位** -5°

床面 ローム層を30cm掘り込み、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。

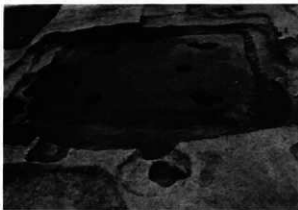
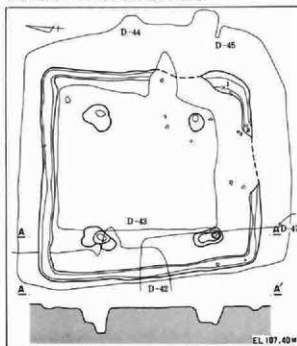
柱穴 住居の対角線から東西軸にすれて4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居外形と異なり、長軸を東西にもつ長方形を示す。

炉跡 確認できない。出土した遺物から炉をもつ住居と推定できるが、炉の痕跡を示すものは検出できない。

壁溝 幅10~20cm、深さ10cmで全周する。

遺物 住居南東隅の壁溝底面より甕の破片が出土する。

重複 D-42、43、44、45、47号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-47号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.7m、長軸5.2mを測る。住居の北東部は確認できない。C-1号住居と、住居の形状、規模が近似している。

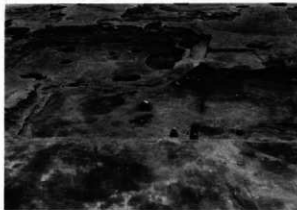
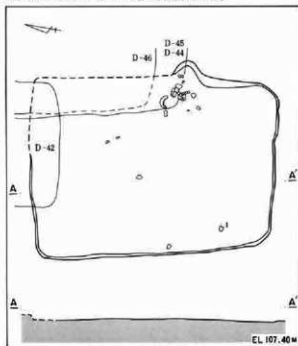
面積 19.2㎡(推定) **方位** +80°

床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に粘土と黒褐色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南面に設置する。重複する住居に切られて全形は確認できない。残存部から類推すると、壁を奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出し、煙道は燃焼部の底面から垂直に近い角度で立ち上がる。

遺物 西壁際南側の床面直上より環、甕西側の覆土内より甕が出土する。

重複 D-42、44、45、46号住居と重複する。この住居がD-46住居の覆土を切り、D-42、44、45号住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 44・45号住居

形状 大形準横長方形(D-45号住居)。D-44住はD-45住の貼床下に東壁の一部と竈の痕跡を確認したのみで、住居の外形は確定できない。確認したD-44住の東壁がD-45住の東壁に沿っているので、この二軒は建て替への可能性もあるが、ここでは重複として扱う。D-45住は長軸を南北にもち、短軸5.1m、長軸5.7mを測る。D-120住と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 29.4㎡ **方位** +84°

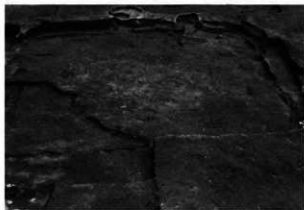
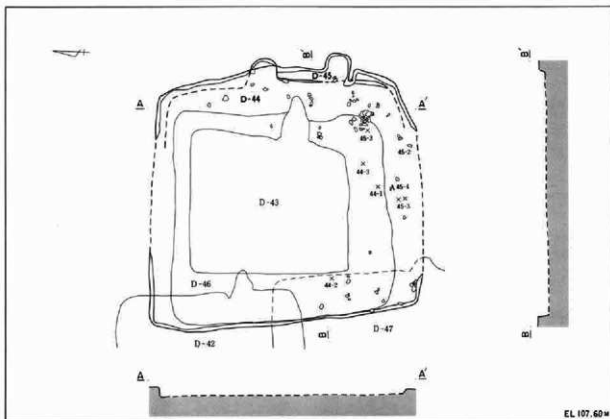
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと粘質黒色土の混土で厚さ10cmの貼床を施して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、

全体に踏み固められている。D-44住の床面は、この面より10cm低い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き60cmの方形で、大半を壁外に造り出す。D-44住の竈は掘方の痕跡を残すのみで、全形は確認できない。

遺物 南壁際東側の床面に密着して甃、南壁際中央の床面に密着して甃(D-45住)。住居中央南側の床面直上より環(D-44住)が出土する。

重複 D-45住がD-44住、D-46住、D-47住の覆土を切り、D-45住の覆土をD-42住、D-43住が切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 42 号 住 居

形 状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸4.0mを測る。直線のな壁で四隅が小さな丸味をもつ、整った長方形を示す。

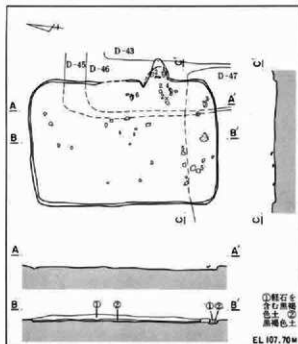
面 積 10.3㎡ **方 位** +83°

床 面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に軽石混りの黒色土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。

竈 跡 東壁の南側に設置する。住居の内側に造り付けた長さ10cmの袖部を確認した。燃焼部は幅50cm、奥行き40cmで、その大半を壁外に造り出す。火床は深さ10cmの円形に掘り窪めた後、粘質の黒褐色土で埋戻す。

遺 物 住居南東部の床面に密着して皿(須恵器)、竈手前の床面直上より環、羽釜が出土する。

重 複 D-45号住居、D-46号住居、D-47号住居と重複する。この住居がD-45住、D-46住、D-47住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 43 号 住 居

形 状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.4mで、南壁に対して北壁が長い不整形を示す。

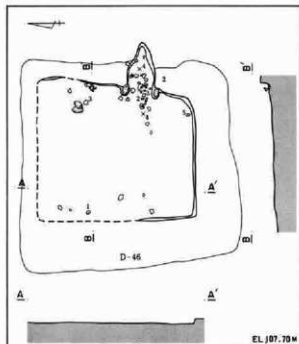
面 積 9.6㎡(推定) **方 位** +86°

床 面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に黒褐色土で貼床して生活面を作る。生活面は南壁の周壁部が住居中央部より低い他は、平坦で良く整っている。

竈 跡 東壁の南側に設置する。住居の内側に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き70cmの方形で、20cmの袖部を除いて壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から水平に40cm伸びて、垂直に立ち上がる。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

遺 物 西壁際北側の床面直上より環、竈の覆土内より炭が出土する。

重 複 D-44号住居、D-45号住居、D-46号住居と重複する。この住居がD-44住、D-45住、D-46住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-48号住居

形状 分類できない。住居の北壁部に溝状の擾乱を受けるため外形は確定できないが、擾乱の北側に住居の掘り込みがなく、南北の軸長は3.8mを越えることはない。

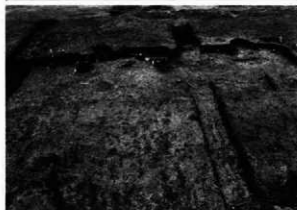
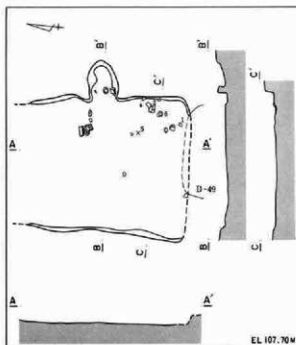
方位 +86°

床面 粘質褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質褐色土の地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の中央部に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部と同じ幅で、燃焼部の底面から緩やかに40cm立ち上がる。火床の中央から僅か右側に、凝灰岩の切石を埋込んで支脚とする。竈西側の床面直上より凝灰岩の切石を確認した。焚口部を補強していたものと考えられる。

遺物 住居南東部の床面直上より環、夾が出土する。

重複 D-49号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-49号住居

形状 超小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.1m、長軸3.0mを測る。西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。D-106号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

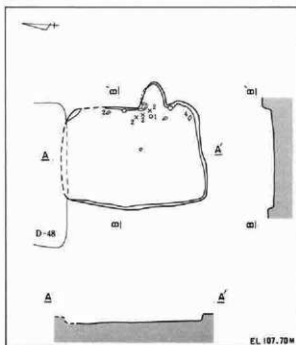
面積 6.1㎡(推定) **方位** +83°

床面 粘質黒褐色土層を25cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ5cmの貼床を一様に施して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部はそっくり壁外に造り出す。焚口部の両側には凝灰岩を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

遺物 竈西側の床面に密着して環、南壁際東側の床面直上より環(須恵器)が出土する。

重複 D-48号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D - 56 号 住 居

形状 小形正方形。一辺3.0m。北壁が中央部から大きく屈曲し、住居南東隅の丸味が大きい不整形を示す。竈を東壁の中央から北側に設置する。中尾遺跡では、東壁の中央より北側に竈を設置する住居は、C-93号住居とこの住居の二例のみである。

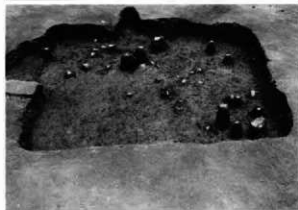
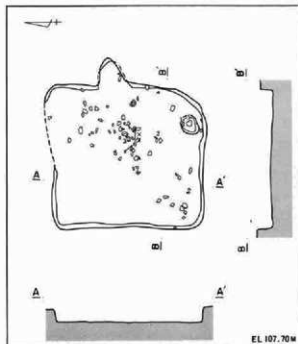
面積 9.8㎡ **方位** +92°

床面 粘質黒褐色土を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質黒褐色土の地山をそのまま生活面としている。住居の北東部を中心にして、床面直上に多量の黒色灰を検出した。

竈跡 東壁の中央から僅か北側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居南東隅に直径30cmの不整形円形プランで設ける。

遺物 住居中央部の床面に密着して環、炭、東壁際中央の覆土内より環が出土する。



D - 99 号 住 居

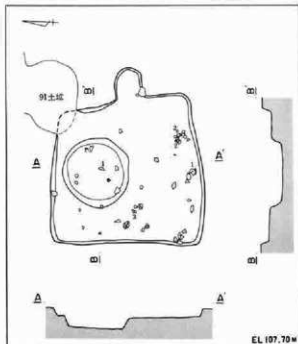
形状 小形正方形。一辺3.0mを測る。西壁に対して東壁が短い不整形を示す。近接するD-56号住居に、住居の形状、規模が近似している。

面積 9.3㎡ **方位** +88°

床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面を平坦に整え、住居の北側に直径140cm、深さ25cmの円形ピットを設ける。このピットには、住居の中央部より厚く貼床して平坦な生活面を作る。生活面は軟弱で面的に把握することができない。

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。焚口部の左側にも石材の痕跡を確認したので、両側に据えていたと考えられる。

遺物 南壁際中央部と住居中央西側の床面直上より環が出土する。



D - 102号住居

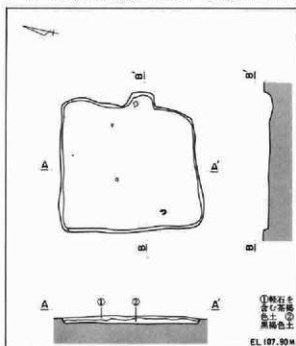
形状 小形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.0mを測る。南壁に対して北壁が長い不整長方形を示し、D-10号住居と、住居の形状、規模が近似する。

面積 7.8㎡ **方位** +80°

床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は平坦で良く整っている。この面に貼床して生活面を作るが、生活面は軟弱で平面的に把握できない。遺物の出土している面が生活面である可能性が高く、この高さは構築面から約5cmである。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁に幅50cm、奥行き30cmの掘り込みを確認した。この掘り込みの手前に深さ10cmで円形の掘り込みがあるため、燃焼部は約半分を壁外に造り出すと考えられる。火床は深さ10cmの円形に掘り窪めた後、埋戻して構築するが、軟弱なため明確に確認することはできない。

遺物 西壁際南側の構築面直上より環(須恵器)が出土。



D - 32号住居

形状 中形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸4.4mの整った長方形を示す。重複した住居の間に単独で占地し、周囲の住居とは、住居の形状、規模を異にしている。

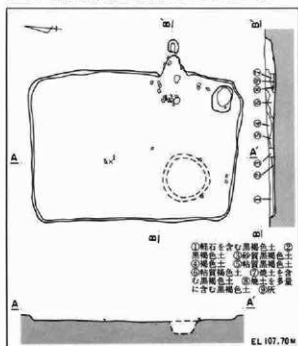
面積 13.5㎡ **方位** +85°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。住居南西部のピット上を除いて貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。住居南西部のピットは、直径100cm、深さ25cmで、内部に貼床した可能性が高い。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く、煙道の天井部は遺存していた。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から水平に30cm伸びて、垂直に近い角度で立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ30cmの不整形プランで設ける。

遺物 住居中央北側の床面直上より環が出土する。



D - 51号住居

形状 小形正方形。住居の北西部は確認できないが、一辺3.5mの整った方形を示すと考えられる。

面積 13.1㎡ **方位** +90°

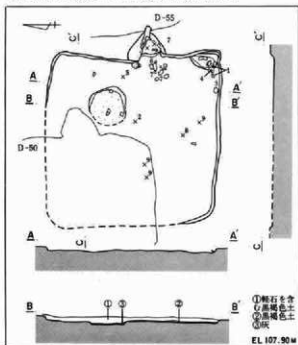
床面 粘質黒褐色土層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。住居の北東部が直径80cm、深さ5cmの円形に掘り窪められ、この底面に多量の黒色灰を検出した。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込み、熱焼部は壁外に造り出す。火床は深さ10cmの円形に掘り窪めた後、貼床して構築する。焚口部の左側に自然石を確認した。煙道は熱焼部の上段から緩やかに20cm伸びる。

貯蔵穴 東壁際南側に深さ10cmの不整形プランで設ける。

遺物 住居南東部の床面に密着して環、竈西側の床面に密着して環が出土する。

重複 D-50号住居と重複する。D-50号住がこの住居の覆土を切って構築する平面積査の所見を得た。



D - 50号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸4.4mの整った長方形を示す。

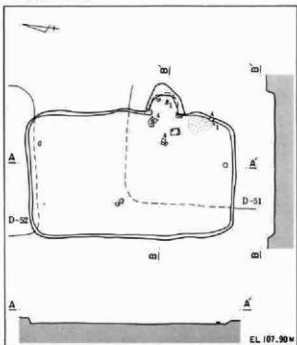
面積 11.4㎡ **方位** +85°

床面 粘質褐色土を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質黒褐色土層の地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、火床の中央から左側に同質の石材を埋込んで支脚とする。支脚は2個を並列していた可能性が高い。

遺物 竈西側の床面に密着して鉢、竈の火床直上より環(須恵器)が出土する。

重複 この住居がD-51号住居の覆土を切って構築する平面積査の所見を得た。D-52号住居との新旧関係を判別する資料はない。



D - 55 号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸5.4mの整った長方形を示す。

面積 16.0㎡ **方位** +85°

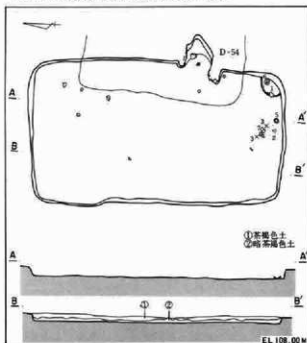
床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。全体に踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。住居内に造り付けた長さ30cmの袖部を確認した。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmで、約半分を壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から30°の角度で立ち上がる。火床の中央部に棒状の河原石を埋込んで支脚とする。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ20cmの不整形プランで設ける。

遺物 南壁部中央で、床面に密着して高台付埴(須恵器)、床面直上より坪が出土する。

重複 D-54号住居と重複する。D-54住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 54 号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.1m、長軸3.4mで、西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。D-121号住居と、住居の形状、規模が近似し、横長長方形住居で最小の規模を示す。

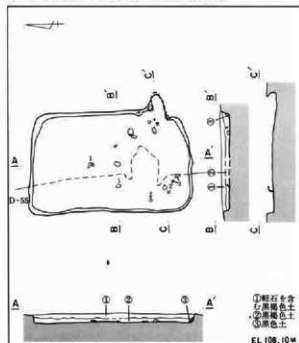
面積 7.0㎡ **方位** +90°

床面 粘質黒褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。D-55住との重複部以外は、地山を平坦に整えて生活面とし、重複部には厚さ10cmの貼床を施す。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅25cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の左側に河原石、右側に凝灰岩を据え、粘土で主体部を構築する。煙道は確認できない。

遺物 住居中央の床面に密着して環蓋(須恵器)、住居南西部の床面直上より鉢が出土する。

重複 D-55号住居と重複する。この住居がD-55住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



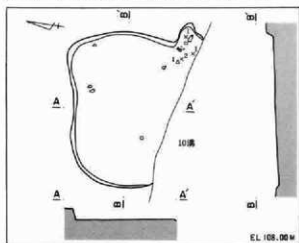
D - 53号住居

形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。近接するD-57号住居に近似した規模をもつ小形単横長方形の可能性が高い。方位 +86°

床面 粘質茶褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈の火床直上より環、甕の破片が出土する。



D - 52号住居

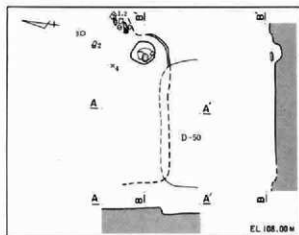
形状 分類できない。北壁が確認できないため、住居外形は確定できない。D-57号住居に近似した規模をもつ小形単横長方形を示す可能性が高い。方位 +80°

竈跡 東壁に白色粘土で構築する。住居の掘り込みが浅いため全形は確認できないが、燃焼部は壁外に造り出すと考えられる。火床に2個の河原石を並列して支脚とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の覆土内より羽釜、皿、環(須恵器)が出土する。

重複 D-50住との新旧関係を判別する資料はない。



D - 57号住居

形状 小形単横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.5mで、北東隅が大きな丸味をもつ不整形長方形を示す。台地の中央部に単軸で占地するが、周囲には同形状の住居が重複して占地している。

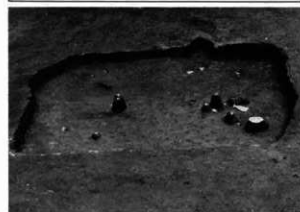
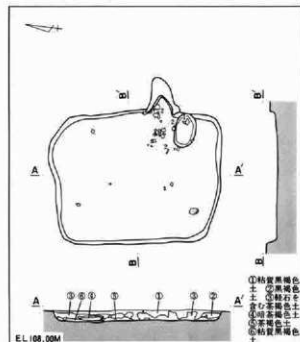
面積 9.4㎡ 方位 +85°

床面 粘質黒褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。粘質黒褐色土の地山を平坦に整えて生活面としている。硬く踏み固められた跡はない。

竈跡 東壁の南側に設置する。残存状態が良く、燃焼部の天井は遺存していた。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から、30°の角度で立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 東壁際南側に深さ50cmの楕円形プランで設ける。

遺物 竈西側の床面に密着して甕の破片、貯蔵穴の覆土内より環が出土する。



D-58号住居

形状 小形正方形。住居の北壁に竈を設置する、一辺3.7mの整った方形を示す。中尾遺跡で北壁に竈を設置するのは、C-49号住居を除いて正方形の住居に限定されている。

面積 14.3㎡ **方位** -3°

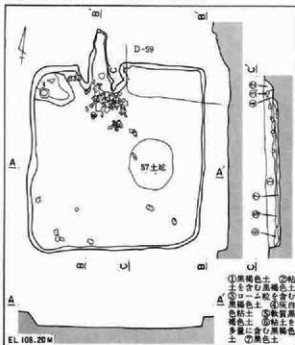
床面 粘質黒褐色土層を30cm掘り込んで構築面とする。この面に黒色土とロームの混土で貼床して生活面を作る。

竈跡 北壁の西側に設置する。住居の内部に進り付けた長さ40cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き40cmで壁内に設け、主体部は白色粘土で構築する。煙道は燃焼部の底面から、壁外70cmまで25°の角度で立ち上がる。焚口部の床面直上より出土した竈は、焚口部に横架したものと考えられる。

貯蔵穴 住居の北西隅に深さ10cmの不整形プランで設ける。

遺物 竈南側の床面直上より、環が出土する。

重複 D-59号住居と重複する。D-59住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-59号住居

形状 小形半縦長方形と推定する。長軸を東西にもち、短軸2.8m、長軸3.6mで、東壁に対して西壁が短い不整長方形を示す。東壁に竈を設置し、D-36号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。中尾遺跡には、北壁に竈を設置する縦長方形の住居はない。

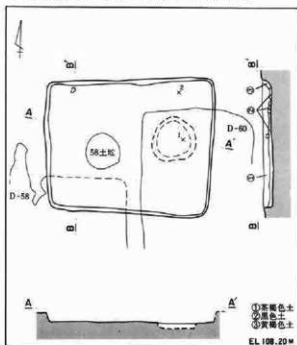
面積 9.9㎡ **方位** +8°

床面 粘質黒褐色土層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の東側に直径90cm、深さ10cmの円形ピットを設ける。このピットとD-58号住居との重複部に貼床して、平坦な生活面を作る。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡を示す焼土、灰は検出できない。重複するD-60号住居に切られた可能性が高い。

遺物 住居東側の覆土内より環が出土する。

重複 D-60号住居がこの住居の覆土を切り、この住居がD-58号住居の覆土を切る平面精査の所見を得た。



D - 60号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.3m、長軸3.7mの整った長方形を示す。

面積 8.3㎡ **方位** +92°

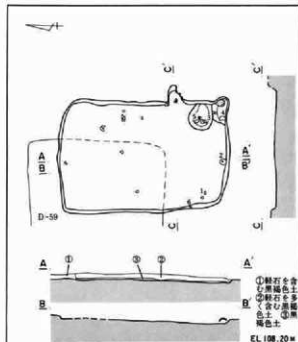
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。D-59号住居との重複部以外はロームの地山を整えて生活面とし、重複部には厚さ10cmの貼床を施す。全体に平坦で、良く整っている。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅30cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の上段から掘り込むが、全形は確認できない。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 東壁際南側に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 住居南西隅の床面に密着して環、南壁際中央の床面直上より環、貯蔵穴の覆土内より皿(須恵器)が出土する。

重複 D-59号住居と重複する。この住居がD-59住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 64号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.8mの整った長方形を示す。東壁の南側に竈を設置し、南壁の東端に貯蔵穴を設ける。近接するD-62号住居と、住居の形状、規模、貯蔵穴の位置、軸線の傾き等、極めて近似した要素が多い。

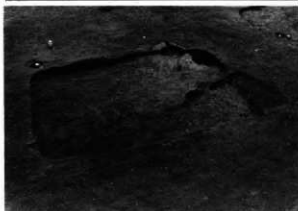
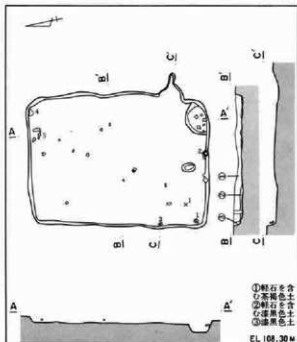
面積 10.5㎡ **方位** +101°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。生活面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南壁際に白色粘土で構築する。壁を幅40cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から25°の角度で立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 南壁際の東端に深さ15cmの楕円形プランで設ける。

遺物 住居南西隅の床面に密着して環、西壁際南側の床面に密着して環、南壁際中央の床面直上より皿(須恵器)。



D-61号住居

形状 分類できない。住居の北半部が重複する住居に切られるため、外形は確定できない。東壁に竈を設置し、東西軸2.3mを測る。中尾遺跡でこの東西軸長から類推できる住居の外形は、D-60号住居と同形の小形単横長方形と、D-74号住居と同形の小形単横長方形の二つである。

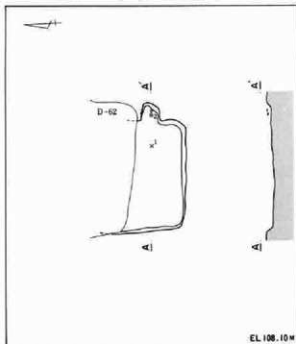
方位 +93°

床面 黒色土層を15cm掘り込んで構築面とする。この面に黒色土とロームの混土で貼床して生活面を作る。生活面は住居の西側が僅かに低い。

竈跡 東壁に設置する。壁を幅40cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出し、主体部は白色粘土で構築する。

遺物 竈の火床直上より石製紡錘車、住居中央部の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 D-62号住居と重複する。D-62住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-62号住居

形状 小形単横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸3.9mで、全体に僅か歪んだ不整長方形を示す。近接するD-64号住居に、住居の形状、規模が極めて近似している。

面積 11.0㎡ **方位** +93°

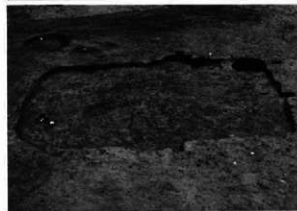
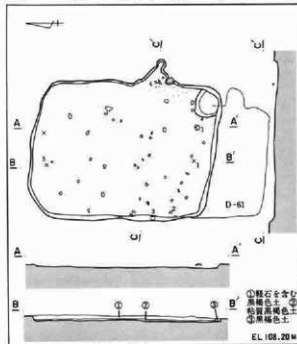
床面 黒色土を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅40cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は燃焼部の底面から水平に30cm伸びて、50°の角度で立ち上がる。

貯蔵穴 南壁際の東端に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴西側の床面に密着して環(須恵器)、西壁際南側の床面に密着して甕が出土する。

重複 D-61号住居と重複する。この住居がD-61住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 69号住居

形状 小形正方形。一辺3.7mの整った方形を示す。D-58号住居と、住居の形状、規模、竈の構造が近似しているが、竈を設置する壁の方向が異なる。

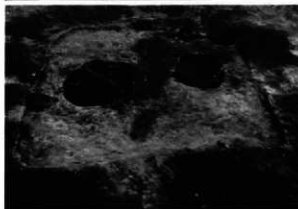
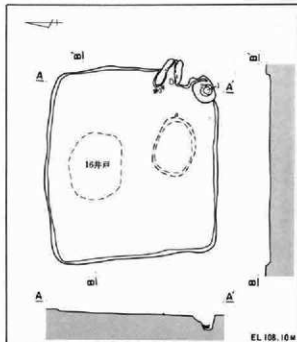
面積 13.9㎡ **方位** +91°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居南側の不整形凹ピットを除いて貼床はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。不整形凹ピットの深さは20cmで、周囲の床面と同一レベルまで貼床している。住居の北側で16井戸と重複する。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。住居の壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmで、大半を壁内に設ける。煙道は無煙部の底面から緩やかに立ち上がる。

貯蔵穴 南壁際の東端に深さ30cmの円形プランで設ける。

遺物 竈西側の床面に密着して茅、貯蔵穴の底面直上より茅(須恵器)が出土する。



D - 95号住居

形状 分類できない。住居の北側を重複する住居に切られるため、外形は確定できない。東壁に竈を設置し、南北の軸長は3.6mと推定する。中尾遺跡でこの軸長から類推できる住居の外形は、D-54号住居と同形の、長軸を南北にもつ小形横長長方形である。

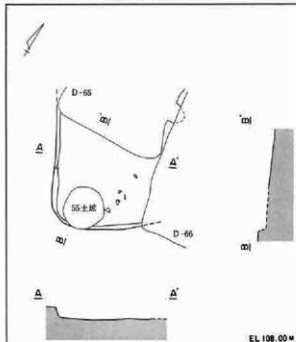
方位 +60°

床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面を作る。生活面は平坦で整っている。住居の南西部で55土壇と重複する。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する住居に切られた可能性が高い。

遺物 南壁際中央の床面直上より環、住居南側の覆土内より河原石が出土する。

重複 D-65号住居、D-66号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 65 号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.4m、長軸2.9mを測る。北壁が中央部で屈曲し、東壁に対して西壁が短い不整長方形を示す。

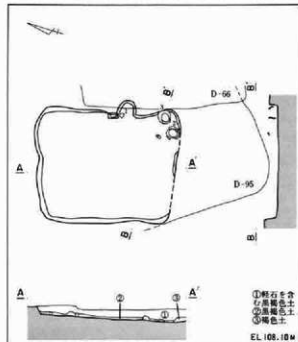
面積 6.9㎡ **方位** +80°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居南半のD-95住との重複部に、黒色土とロームの混土で貼床し、住居北半は地山を生活面としている。全体に平坦で整っているが、住居南半は軟弱である。

竈跡 東壁の中央から南側に設置する。壁を幅30cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。笑口部の左側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

遺物 住居南東部の床面に密着して竈、竈の火床直上より環が出土する。

重複 D-66号住居がこの住居の覆土を切り、この住居がD-95号住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を見た。



D - 66 号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.5mの整った長方形を示す。D-67、68号住居と重複するが、重複するこの三軒の住居は、住居の形状、規模、軸線の傾きがほとんど一致している。

面積 9.6㎡ **方位** +77°

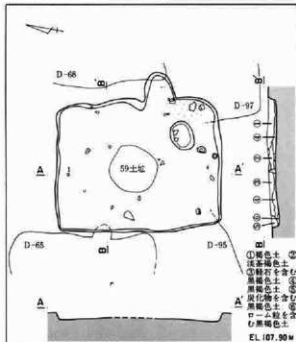
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。住居の中央部は59土壇に切られる。

竈跡 東壁の中央から南側に白色粘土で構築する。壁を幅60cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。笑口部に石材を使用した痕跡はない。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居南東部に深さ15cmの楕円形プランで設ける。

遺物 北壁際中央の覆土内より石帯が出土する。

重複 この住居がD-65、95、97住の覆土を切り、この住居の覆土がD-68住に切られる土層断面の所見を得た。



D - 68 号住居

形状 小形準横長方形。住居の北西部は重複する住居に切られて確認できない。確認した壁を推定線で結ぶと、長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸3.4mの長方形を示す。

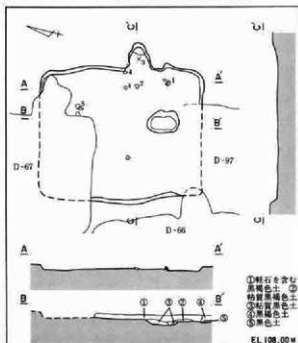
面積 9.6㎡ **方位** +82°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居中央南側のピットを除いて貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。ピットは深さ10cmで、粘質黒褐色土で貼床する。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの台形状に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出し、主体部は白色粘土で構築する。煙道は燃焼部の底面から15°の角度で立ち上がる。

遺物 東壁際南側と竈西側の床面に密着して環、竈の大床直上より環(須恵器)が出土する。

重複 この住居がD-66、97住の覆土を切り、この住居の覆土がD-67住に切られる土層断面の所見を得た。



D - 67 号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.3mの整った長方形を示す。D-31号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

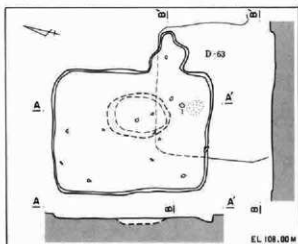
面積 8.5㎡ **方位** +80°

床面 住居中央部の深さ10cmのピットにのみ貼床を施す。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。

遺物 竈西側の覆土内より皿が出土する。

重複 この住居がD-68住の覆土を切って構築している。



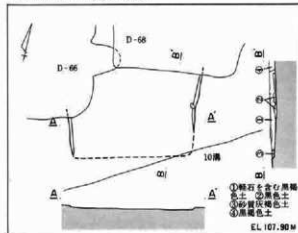
D - 97 号住居

形状 分類できない。東壁と西壁の一部を除いて確認できないため、住居の外形は確定できない。D-65号住居に近似した規模をもつ可能性がある。

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ可能性があるが、確認した壁に竈の痕跡はない。

重複 D-66住、D-68住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



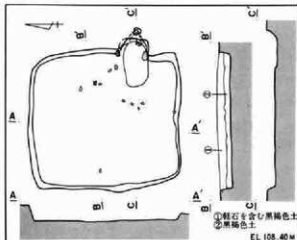
D-63号住居

形状 小形正方形。長軸3.2mの整った方形を示す。D-147号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 9.0㎡ **方位** +90°

床面 ローム層を30cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は壁の中段から水平に20cm伸びて、垂直に立ち上がる。主体部は白色粘土で構築し、焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。



D-101号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.4mを測る。D-141号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

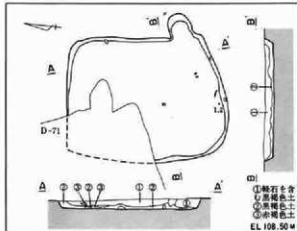
面積 8.4㎡(推定) **方位** +107°

床面 ローム層を20cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。

遺物 南壁際東側の覆土内より刀子状の鉄器が出土する。

重複 この住居の覆土をD-71住居が切って構築している。



D-71号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.6mの整った長方形を示す。

面積 10.7㎡ **方位** +87°

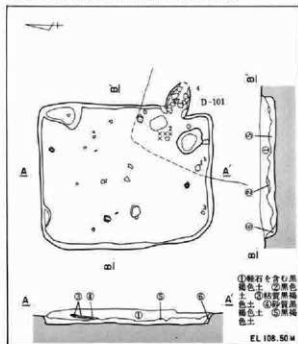
床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。粘土した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。天井部は崩れ落ちているが、白色粘土で構築したと考えられる。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とする。竈西側より出土した石は焚口部に横架していた可能性が高い。火床の中央部に方形の河原石を据えて支脚とする。

貯蔵穴 住居東南隅に深さ10cmの不整円形プランで設ける。

遺物 南壁際中央の床面に密着して高台付罐(須恵器)、竈の覆土内より羽釜が出土する。

重複 D-101号住居と重複する。この住居がD-101住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-72号住居

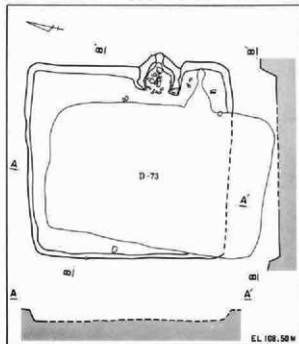
形状 中形正方形。一辺4.2mを測る。直線的な壁と、直角の隅で構成される整った方形を示す。中尾遺跡で、竈を確認した中形正方形住居は4軒である。このうちD-81号住居を除く3軒は東壁に竈を設置する。E-24号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 17.4㎡ **方位** +79°

床面 ローム層を25cm掘り込んで床面とする。床面の大半を重複する住居に切られるが、確認した面に貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。確認した面は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の中央南側に白色粘土で構築する。住居の壁内に造り付けた長さ40cmの袖部を突出した。燃焼部は幅50cm、奥行き40cmの方形で、壁内に造り付ける。煙道は壁外20cmまで、60°の角度で立ち上がる。

重複 D-73号住居と重複する。D-73住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-73号住居

形状 中形横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸4.7mで、南壁に対して北壁が短い不整長方形を示す。D-123号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 13.5㎡ **方位** +86°

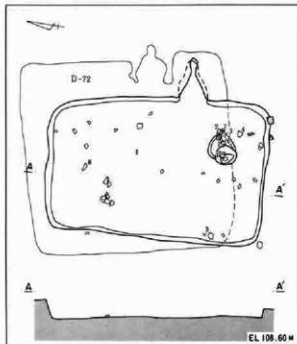
床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。住居の北半には、ロームと黒色土の混土で貼床し、南半は地山をそのまま生活面としている。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から水平に40cm伸びて、垂直に近い角度で立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居南東部に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴周辺部の床面に密着して環(須恵器)、坏蓋(須恵器)が出土する。

重複 D-72号住居と重複する。この住居がD-72住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-70号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸4.4mで、北壁に対して南壁が短く、北東隅が大きな丸味をもつ不整形長方形を示す。中尾遺跡の中形横長長方形住居は、古地の西側に占地する傾向を示す。

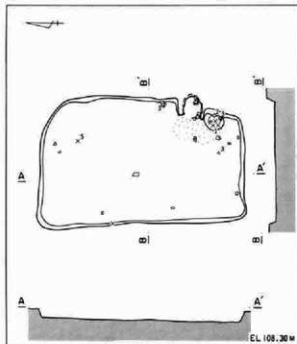
面積 11.1㎡ **方位** +92°

床面 粘質黒褐色土を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質黒褐色土の地山をそのまま生活面としている。南壁の周壁部が住居中央部より10cm低い他は、平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き40cmで壁内に造り付ける。袖部の先端には凝灰岩の切石を据えて、焚口部を補強している。

貯蔵穴 東壁際南側に深さ10cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴の覆土内より裳、高台付埴(須恵器)の覆土内より羽釜が出土する。



D-112・150・151住居

形状 小形準横長長方形(D-112住),長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.2mの不整形長方形を示す。D-151号住居は東壁際中央の床面下より竈の痕跡を確認したが、住居外形は確定できない。

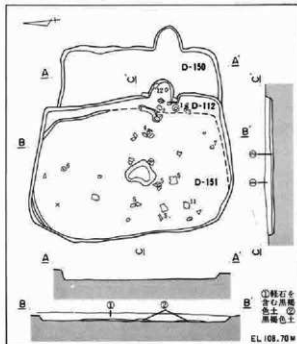
面積 11.7㎡ **方位** +87°

床面 粘質黒褐色土層を30cm掘り込んで構築面とし、この面に厚さ10cmの貼床を一樣に施す。

竈跡 東壁の中央南側に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込み、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

遺物 竈西側の床面に密着して環、裳、高台付埴(須恵器)が、出土する。

重複 D-112号住居は、D-151号住居から拡張した可能性が高く、この住居がD-150号住居の覆土を切る土層断面の所見を得た。D-150号住居の外形は確定できず、分類することができない。



D-89号住居

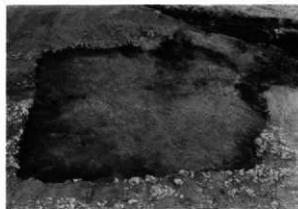
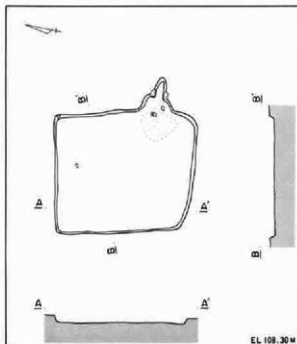
形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.0mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成されるが、東壁に対して西壁が短い不整長方形を示す。台地東端の、沖積地へ移行する水際に単独で占地し、D-102号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 7.5㎡ 方位 +76°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。北壁の周壁部を除いて平坦で良く整い、住居の中央部は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。燃焼部奥壁の両側に凝灰岩の切石2個を据える。焚口部の両側にも同質の石を据えていた可能性が高い。煙道は燃焼部の外側40cmまで、緩やかな角度で立ち上がる。

遺物 覆土より炭の破片が出土する。



D-82号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸4.2mを測り、東壁に対して西壁が長い不整長方形を示す。中尾遺跡には、北壁に竈を設置する縦長長方形住居はなく、北壁に竈を設置する横長長方形住居もC-49号住居の一例のみである。竈は確認できないが、東壁に竈を設置する準横長長方形の可能性が高い。

面積 13.8㎡ 方位 -14°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。生活面は平出で整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 北壁際西側の床面に密着して環、住居南西部の覆土内より土鏝が出土する。

重複 3号獨立と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D - 109 号 住 居

形 状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.4m、長軸3.3mの整った長方形を示す。台地中央の微高地頂上部付近に単独で占拠する。

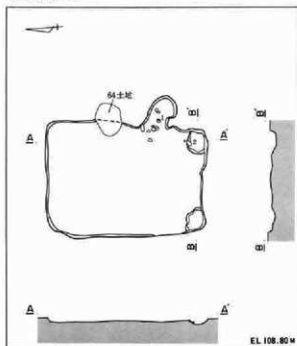
面 積 7.9㎡ **方 位** +94°

床 面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に貼床して生活面を作った可能性があるが、生活面は軟弱で確認できない。構築面は小さな起伏が多く、住居の北東部を除いて平坦な面はない。東壁の中央北側を64土壇に切られる。

竈 跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き60cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ15cmの不整形円形プランで設ける。

遺 物 住居南東部の床面直上より埴、竈の火床直上より坏が出土する。

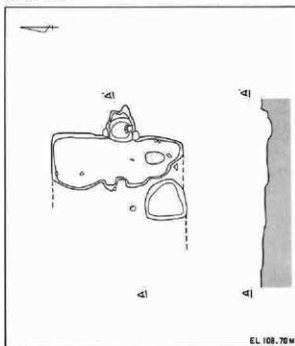


D - 86 号 住 居

形 状 分類できない。住居西側の掘り込みが浅く、西壁部が確認できないため、住居の外形は確定できない。東壁に竈を設置し、南北軸2.8mを測る。この軸長から類推できる住居の外形は、D-89号住居と同形のの小形正方形と、D-126号住居と同形のの小形準横長長方形である。 **方 位** +86°

床 面 東壁の固壁部1mはローム層を15cm掘り込み、住居の西側はローム層を5cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の東と西で10cmの段差をもつ。この面のうち、東壁の周壁部に、ロームと褐色土の混土で厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は住居の東側が明確に確認できない。

竈 跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床は深さ10cmの方形に掘り窪めた後、ロームと褐色土の混土で埋戻す。焚口部の西側に凝灰岩の切石を据えて、補強材とする。



D-88号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸4.2mで、北壁に対して南壁が短く、住居の北東隅が張り出す不整長方形を示す。D-42号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。中尾遺跡には北壁に竈を設置する縦長長方形住居はなく、東壁に竈を設置する横長長方形住居の可能性が高い。

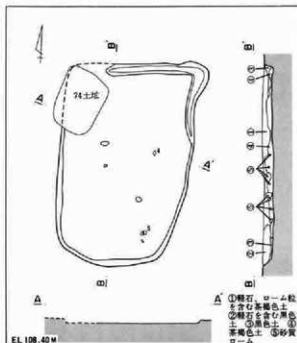
面積 11.4㎡ **方位** +1°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。生活面は踏み固められて硬い。住居北西隅を74土壇に切られる。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

壁溝 住居の北東隅に幅15cm、深さ10cmで巡る。

遺物 住居南東部の床面に密着して坏、住居中央東側の床面直上より甕の破片が出土する。

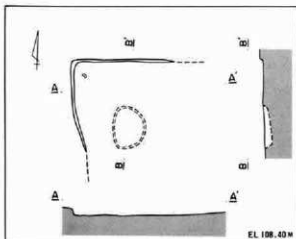


D-85号住居

形状 分類できない。北西隅を除いて壁の確認ができないため、住居の外形は確定できず、類推できる住居もない。台地東端の、沖積地へ移行する緩傾斜地に占地する。

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。確認したピットの上部を除いて貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。ピットは深さ15cmの不整形で、周囲の床面と同一レベルまで貼床を施す。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡はない。



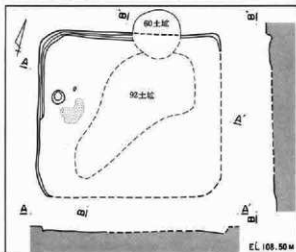
D-87号住居

形状 分類できない。長軸を東西にもち、短軸3.5m、長軸3.9mの整った長方形を示す。住居の外形はE-30号住居に極めて近似している。

面積 13.3㎡(推定) **方位** +74°

炉、竈 確認できない。遺物の出土がないため、炉付住居か竈付住居かの判定ができない。住居西側に検出した焼土のレベルは床面より10cm高い。

壁溝 住居の北西隅に幅10cm、深さ5cmで巡る。



D - 81 号 住 居

形 状 中形正方形。一辺4.4mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される整った方形を示す。D-72号住居と、住居の形状、規模が近似しているが、竈を設置する壁が異なる。中尾遺跡で北壁に竈を設置するのは、大形正方形住居に多い。

面積 19.2㎡ **方位** -12°

床 面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して、平坦な生活面を作る。

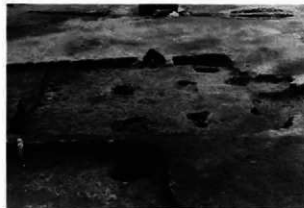
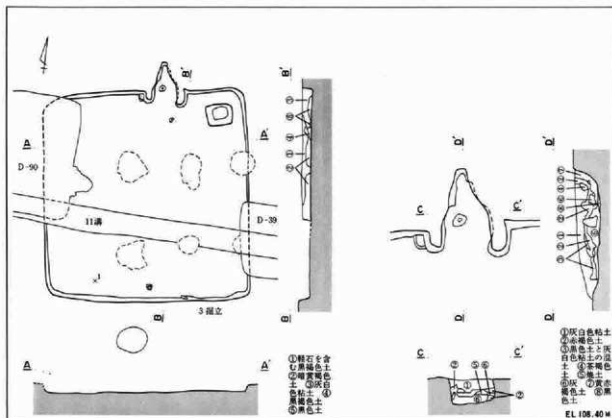
竈 跡 北壁の中央から僅か東側に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。袖部と壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に粘土を積み上げて、主

体部を構築する。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。煙道は幅20cmで、火床から水平に30cm伸びて、70°の傾きで立ち上がる。火床の中央部に、上半部を細く加工した凝灰岩の切石を埋込んで支脚とする。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の北東隅に短軸45cm、長軸55cm、深さ25cmの長方形プランで設ける。

遺 物 南壁際西側の覆土内より環が出土する。

重 複 D-90号住居、3号竪立と重複する。D-90住居がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。3号竪立との新旧関係を判別する資料はない。



D-90号住居

形状 超小形正方形。一辺2.6mを測る。直線の壁と、丸味の小さい隅で構成される整った方形を示す。C-93号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。超小形正方形住居は遺跡の全域に分布し、同形状の住居同志で重複することはない。特に遺跡の北半では近接せずに、離れた分布を示す。住居の外形が、北壁に竈を設置する大形正方形住居と相似形であるが住居の規模、竈の位置及び構造の違いが時間差を示していると考えられる。

面積 6.5㎡ **方位** +89°

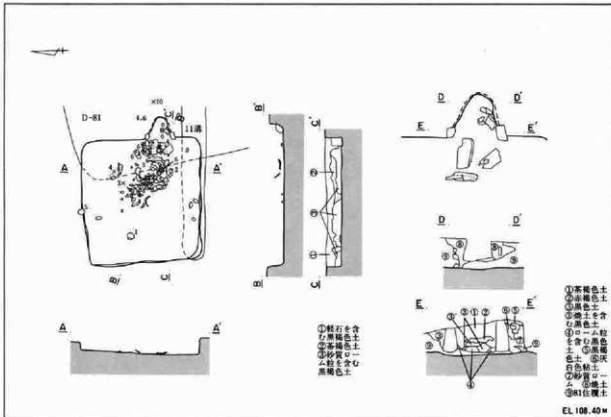
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して、平坦な生活

面を作る。住居南側の11溝との重複部には、住居中央部より厚い貼床を施す。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。西側の床面に密着して出土した同質の石材は、焚口部に横架していたものと考えられる。煙道は確認できない。

遺物 東西側の床面に密着して坏、坏蓋(須恵器)、甕の破片が集中して出土する。

重複 D-81号住居と重複する。この住居がD-81住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-77号住居

形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.1mを測る。住居の東半は確認できないが、直線的な壁と、丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示すと推定する。重複するD-78号住居の他、D-113号住居、D-131号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きがほぼ一致している。台地中央部の僅かな空閑地に占地し、北側は遺跡の北半で、最も住居が密集する部分である。小形半横長長方形は中尾遺跡に最も多い住居の形で、遺跡の全域に広範な分布を示す。

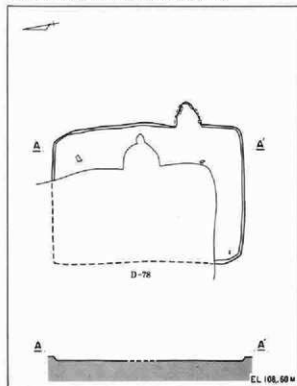
面積 11.7㎡(推定) **方位** +100°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。踏み固められた跡はなく、全体に柔らかい。床面の大半がD-78号住居と重複している。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。残存状態が悪く天井部は確認できないが、壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に白色粘土を積み上げて、主体部を構築したと考えられる。煙道は燃焼部の底面から水平に20cm伸びて、垂直に立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈の覆土内より裏の破片が出土する。

重複 D-78号住居と重複する。D-78住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-78号住居

形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.1mで、東壁に対して西壁が短い不整長方形を示す。重複するD-77号住居と、住居の形状、規模が近似する。

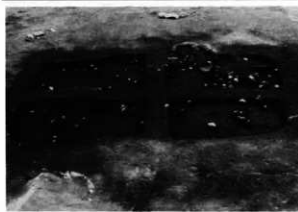
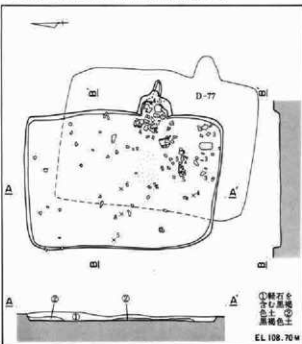
面積 11.5㎡ **方位** +95°

床面 黒色土層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、黒色土の地山を平坦に整えて生活面としている。竈の周辺部は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外へ掘り込んだ燃焼部の壁に沿って、凝灰岩の切石を据えた痕跡を確認した。煙道は燃焼部の底面から緩やかに40cm伸びる。

遺物 竈の西側と住居南東部の床面に密着して築、住居の覆土内より環が出土する。

重複 D-77号住居と重複する。この住居がD-77住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-74号住居

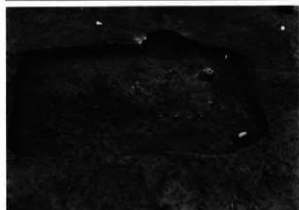
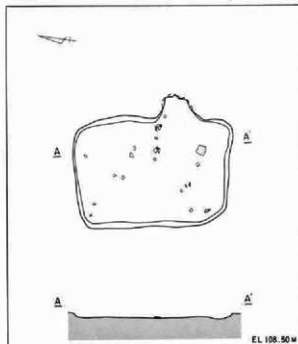
形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.3m、長軸3.3mで、四隅が小さな丸味をもつ整った長方形を示す。台地中央の微高地頂上部に単独で占地する。周辺に重複して占地する住居は、この住居よりもひと回り大きい小形準横長長方形住居が多い。

面積 7.2㎡ **方位** +80°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。竈の西側一帯は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。燃焼部の内側は強く焼けた痕跡を残している。竈西側の床面直上より出土した凝灰岩は焚口部に使用していた可能性がある。

遺物 住居中央北側の床面直上より埴の破片(須恵器)、住居南西部の覆土内より雲の破片が出土する。



D-75号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.2m、長軸3.5mを測る。D-60号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

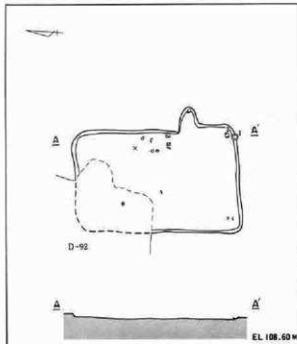
面積 7.6㎡(推定) **方位** +87°

床面 黒色土層を10cm掘り込んで床面とする。D-92号住居との重複部以外は地山の黒色土を平坦に整えて生活面とし、重複部には黒色土と粘質黒褐色土の混土で貼床を施す。生活面は平坦で良く整い、全体に踏み固められている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築する。煙道は確認できず、焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 住居南東隅の床面に密着して環、東壁際中央の床面直上より刀子が出土する。

重複 D-92号住居と重複する。この住居がD-92住の覆土を切って構築する平面積査の所見を得た。

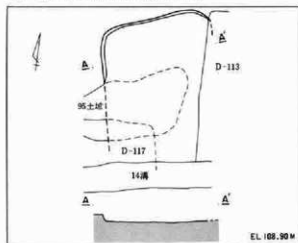


D-138号住居

形状 分類できない。北壁の周壁部以外は確認できないため、住居の外形は確定できない。D-109住かD-116住と同形状、同規模を示す可能性がある。

竈跡 確認できない。確認した住居の形状、規模から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡はない。中尾遺跡には、伊をもつ小形横長方形、小形準横長方形住居はない。

重複 D-113号住居、D-117号住居がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



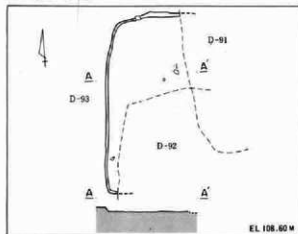
D-76号住居

形状 分類できない。住居の東側は確認できないが、南北軸4.0mと推定する。D-78号住居に近似した形状、規模を示す可能性が高い。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、竈の痕跡はない。

遺物 住居中央部の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土。

重複 この住居がD-93住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。D-91住、D-92住との新旧関係を判別する資料はない。



D-128・129号住居

形状 小形準横長方形(D-129号住居)。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.4mを測る。東側で重複するD-128号住居は西壁部が確認できず、住居の外形は確定できない。

面積 9.8㎡ **方位** +91°

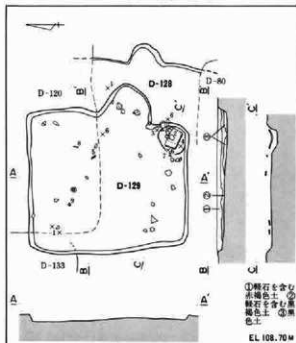
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居の北半には黒色土で貼床を施し、住居の南半は地山のロームを平坦に整えて生活面とする。竈の周辺部は踏み固められて非常に硬い。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅100cm、奥行き80cmの円頂形に掘り込んで、熱気部は壁外に造り出す。焼けた痕跡が少なく、煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺物 住居北西部の床面に密着して環、住居中央部の覆土内より甕が出土する。

重複 D-129住がD-120住、D-128住、D-133住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-80号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.8mを測る。E-2号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

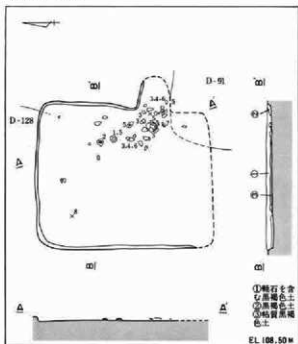
面積 11.2㎡ **方位** +90°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面に黒色土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き70cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。燃焼部の基部には、凝灰岩の切石を掘り込みに沿って円頂形に並べて主体部の基礎とし、焚口部の両側にも同質の石材で補強する。煙道は確認できない。

遺物 住居中央西側の床面に密着して環(須恵器)、竈西側の床面直上より袋が出土する。

重複 D-91、128号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-91号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸4.3mで、北壁に対して南壁が短い不整形を示す。

面積 13.1㎡ **方位** +101°

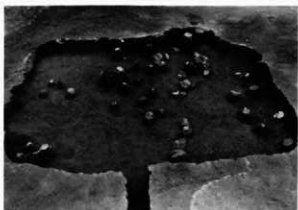
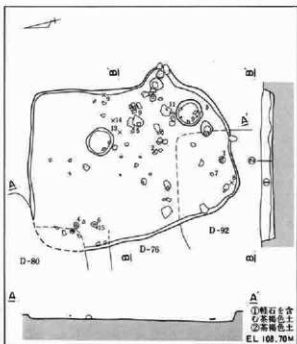
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した底跡はなく、地山を整えて生活面としている。南壁の周壁部が住居中央よりも僅かに低く、全体に小さな起伏が多い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。竈西側の床面直上より多量の凝灰岩が出土する。量的に焚口部の両側と、その間に構築していたことが推察できる。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 住居中央部の床面に密着して環(須恵器)、竈西側の床面に密着して甕が出土する。

重複 この住居がD-92住の覆土を切る平面精査の所見を得た。D-76、80住との新旧関係を判別する資料はない。



D-93号住居

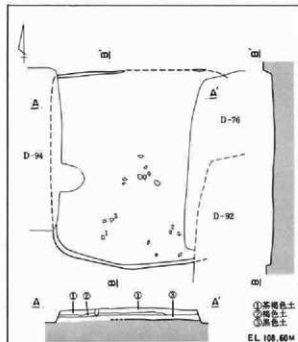
形状 分類できない。東壁部が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸4.0mを測る。中尾遺跡で、この軸長から類推できる住居の外形は、D-69号住居と同形の小形正方形か、C-112号住居と同形の中形準縦長方形の二つである。

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。住居中央部は踏み固められて硬い。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡を示すものは一切ない。重複する住居に切られた可能性が高い。

遺物 住居南西部の床面直上より環、住居中央南側の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 D-76、92、94号住居と重複する。この住居の覆土をD-76、92、94住が切って構築する土層断面の所見を得た。



D-94号住居

形状 小形準縦長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸3.4mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される整った長方形を示す。近接するD-129号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

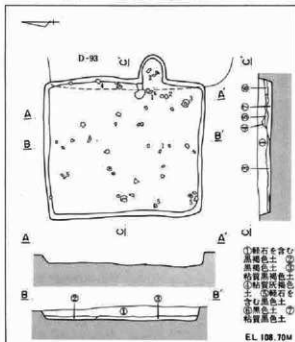
面積 9.8㎡ **方位** +89°

床面 ローム層を30cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、熱効率は壁外に造り出す。突口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、この上に白色粘土を用いて主体部を構築する。煙道は火床から60°の傾きで立ち上がる。

遺物 住居南東部の床面に密着して環蓋(須恵器)、竈西側の床面直上より環が出土する。

重複 D-93号住居と重複する。この住居がD-93住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-98号住居

形状 超大形正方形。一辺7.0mを測る。北壁に対して南壁が短く、僅かな膨張りをもつ壁と丸味の大い隅で構成される不整形を示す。近接するD-83号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似。

面積 45.2㎡ **方位** +85°

床面 ローム層を40cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。貼床した痕跡はない。

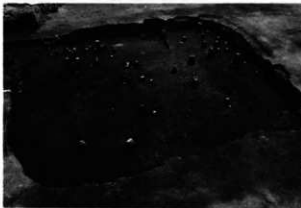
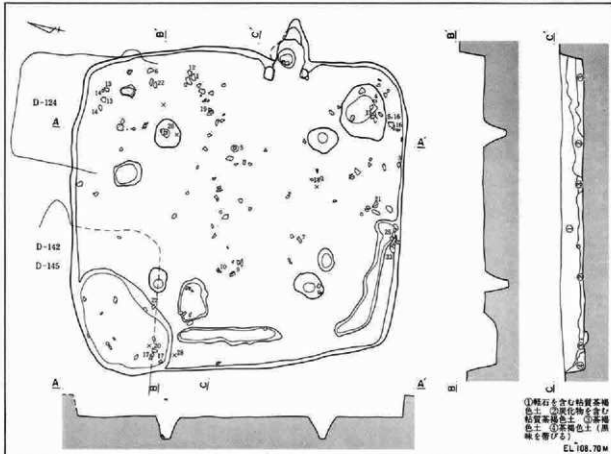
柱穴 住居の対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形で、一辺3.2mの正方形を示す。床面からの深さ50cmの円形掘方である。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁内に凝灰岩の切石で構築した袖部を挿出した。焼焦部は幅50cm、奥行き80cmの方形で、袖部の凝灰岩切石を除いて壁外に造り出す。煙道は火床から45°の傾きで立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南東隅に直径90cm、深さ30cmの不整形円形。

遺物 住居の覆土内に環、高台付埴(須恵器)、環蓋(須恵器)、盤の完形品が多数出土する。

重複 この住居がD-145住の覆土を切り、この住居の覆土をD-124住が切る平面精査の所見を得た。



D-130号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.5mで、東壁に対して西壁が短い不整長方形を示す。

面積 10.2㎡ **方位** +105°

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。北壁の周壁部には小さな起伏が多い。

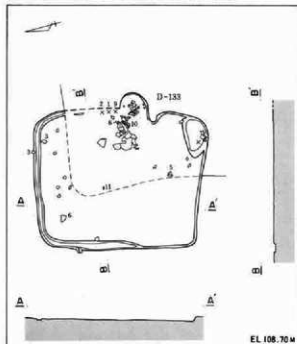
竈跡 東壁の中央付近に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅60cm、奥行き60cmで大半を壁外に造り出す。竈西側の床面に密着して出土した凝灰岩は、焚口部に使用していたものと考えられる。

壁溝 北壁と西壁の一部に幅10cm、深さ5cmで巡る。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ20cmの不整円形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面直上より環、竈西側の床面直上より鏃が出土する。

重複 D-133号住居と重複する。この住居がD-133住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-133号住居

形状 中形正方形。東壁の北側が確認できないため住居の外形は確定できないが、東壁に竈を設置する一辺4.4mの方形住居と推定する。D-72号住居と、住居の形状、規模が近似している。 **方位** +96°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して平坦な生活面を作る。

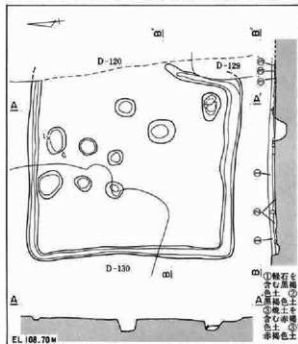
竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定でき、東壁南側の床面上からD-120号住居の覆土内にかけて、多量の焼土を検出した。この部分を除いて、竈の痕跡を示すものは確認できない。

壁溝 幅10cm、深さ5cmで東壁の一部を除いて確認した。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ20cmの不整円形プランで設ける。

遺物 住居の覆土内より鏃の破片、北壁際中央の覆土内より刀子状の鉄器が出土する。

重複 この住居がD-120住の覆土を切り、この住居の覆土がD-129、130住に切られる平面精査の所見を得た。



D - 120 号 住 居

形 状 大形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸4.9m、長軸5.6mを測る。東壁に対して西壁が長く、東壁のみが僅かな膨張を示す。C-123号住居と、住居の形状、規模が近似し、竈をもつ大形正方形住居に共通した特徴である。柱穴と壁溝を備える。台地中央の住居密集地に占地している。

面 積 27.5㎡ 方位 +90°

床 面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。全体に踏み固められて硬い。

柱 穴 住居の対角線上に整然と4個を配置する。心々を結ぶと短軸2.0m、長軸2.7mで、住居の外形と相似

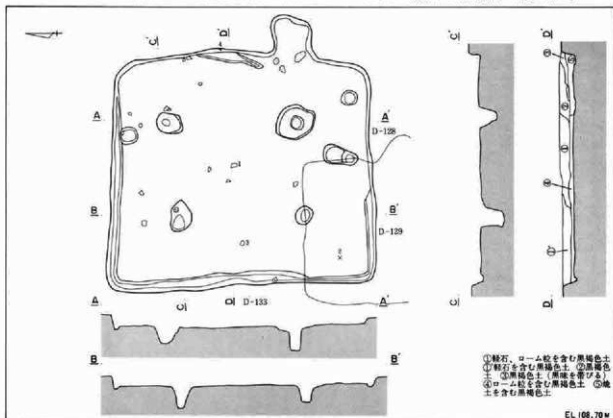
形の長方形を示す。床面からの深さ30~50cmの円形掘方である。

竈 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き70cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。竈西側の床面直上より出土した凝灰岩は、焚口部を構成していたものと考えられる。煙道は確認できない。

壁 溝 北壁、西壁と南壁の一部に幅15cm、深さ10cm。

遺 物 住居中央西側の床面直上より環(須恵器)、住居中央部の覆土内より環が出土する。

重 複 D-128住、D-129住、D-133住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-137号住居

形状 小形正方形。一辺3.3mを測る。住居の南西部は確認できないが、確認した壁を推定線で結ぶと、D-132号住居に近似した形状、規模を示す。

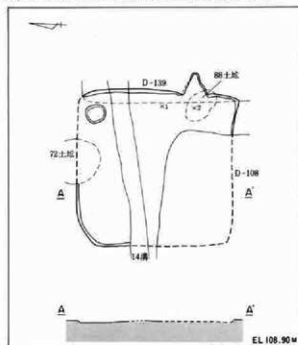
面積 10.8㎡ **方位** +88°

床面 ローム層を10cm掘り込んで構築面とする。構築面は小さな起伏が多く、平坦な面は少ない。この面に貼床して生活面を作るが、生活面は面的に確認できない。住居の北側を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は燃焼部の底面から幅15cmで短く立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 東壁際中央の床面直上より環(須恵器)、竈西側の覆土内より甕の破片が出土する。

重複 この住居がD-139住の覆土を切り、この住居の覆土がD-108号住居に切られる平面精査の所見を得た。



D-108号住居

形状 小形単縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸2.6m、長軸3.2mの整った長方形を示す。周辺には、長軸を南北にもつ単横長長方形住居が圧倒的に多い。

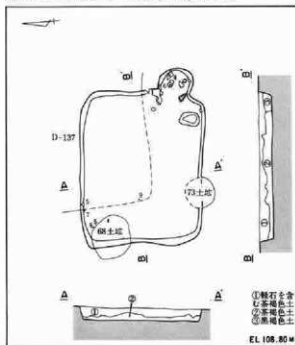
面積 8.3㎡ **方位** +95°

床面 ローム層を25cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っている。住居の北西部と南壁の西側で土壇と重複する。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。内部に散乱した凝灰岩が、燃焼部の基部を構成していたものと考えられる。煙道は確認できない。

遺物 竈の火床直上より羽釜、甕の破片、東壁際中央の覆土内より環が出土する。

重複 D-137号住居と重複する。この住居がD-137住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 115 号住居

形状 小型準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸3.6mを測る。D-148号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 10.8㎡ **方位** +80°

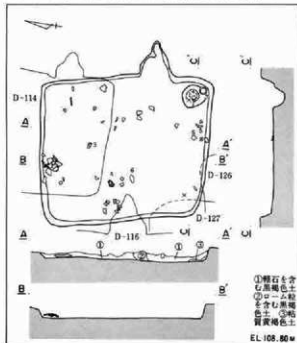
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は住居の北半が南半より僅かに低く、竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、熱煙部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の上段から20cm伸びる。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴の底面に密着して環、住居南東隅の床面に密着して環蓋(須石器)が出土する。

重複 この住居がD-126住の覆土を切り、この住居の覆土がD-114、116住に切られる平面精査の所見を得た。



D - 114 号住居

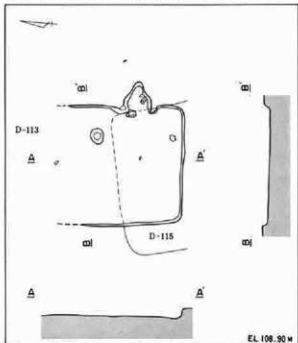
形状 小形準横長長方形と推定する。北壁部の掘り込みが浅いため住居の外形は確定できないが、確認した東西軸長がD-122号住居と一致する。長軸を南北にもち、短軸2.5mを測る。

方位 +87°

床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居南半のD-115号住居との重複部が、住居北半より5cm低い。この住居南半部に厚さ5cm貼床を施して、平坦な生活面を作る。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き35cmの方形で掘り込んで、熱煙部は壁外に造り出す。火床は中心部の深さ10cmの楕円状に掘り込み、ロームと黒色土の混土で埋戻す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。

重複 この住居がD-115住の覆土を切る平面精査の所見を得た。D-113住との新旧関係を判別する資料はない。



D-139号住居

形状 中形準横長長方形。短軸3.3m、長軸4.3mで、南壁に対して北壁が短い不整長方形を示す。中尾遺跡には北壁に竈を設置する縦長長方形住居はなく、東壁に竈を設置する可能性が高い。近接するD-118号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

面積 13.6㎡ **方位** +3°

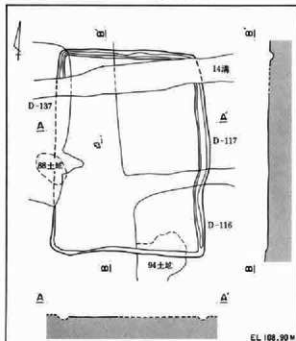
床面 ローム層を5cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。住居の北側を東西に後世の溝が切り、住居南東部で94土壇と重複する。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する住居に切られた可能性が高い。

壁溝 北壁と東壁に幅15cm、深さ10cmで巡る。

遺物 住居中央西側の床面に密着して甕の破片が出土。

重複 D-116住、D-117住、D-137住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-116号住居

形状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.8mの整った長方形を示す。中尾遺跡には小形横長長方形住居が10例あり、これらは同形間で重複がなく、遺跡の全体に散在している。

面積 9.0㎡ **方位** +80°

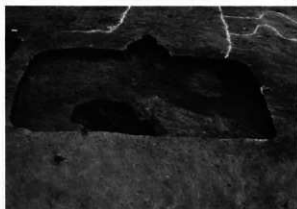
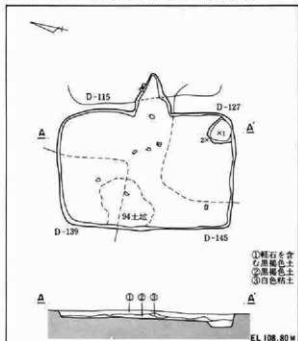
床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で整っている。

竈跡 東壁の中央付近に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ15cmの不整円形アランで設ける。

遺物 貯蔵穴の底面に密着して石製模造品、住居南東部の覆土内より環が出土する。

重複 この住居がD-115住、D-127住、D-139住、D-145住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 118 号 住 居

形 状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸4.4mを測る。西壁に対して東壁が長い不整形長方形を示す。東壁に竈を設置し、壁溝をもつ長方形住居で、近接するD-139号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

面積 13.9㎡ **方位** +91°

床 面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。

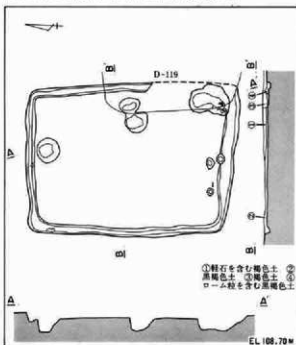
竈 跡 東壁の南側に設置する。主体部は確認できないが、東壁際南側の床面に多量の焼土、灰を検出した。この部分を除いて竈の痕跡を示すものは一切ない。

壁 溝 東壁の一部を除いて幅10cm、深さ10cmで走る。

貯蔵穴 住居南東隅に深さ25cmの不整形プランで設ける。

遺 物 南壁際西側の床面に密着して環(須恵器)が出土。

重 複 D-119号住居と重複する。D-119住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 119 号 住 居

形 状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.3mを測る。東壁に対して西壁が短い不整形長方形を示し、D-129号住居と、住居の形状、規模が近似する。

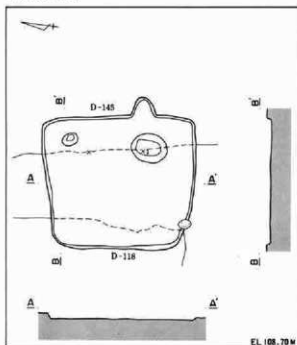
面積 8.6㎡ **方位** +84°

床 面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。生活面は周壁部が住居中央部より低い。

竈 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部には白色粘土を用い、石材を使用した痕跡はない。煙道は確認できない。

遺 物 電西側のピット底面に密着して環(須恵器)、住居北西部より鉄塊が出土する。

重 複 D-118号住居、D-145号住居と重複する。この住居がD-118住、D-145住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-113号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.1mを測る。直線的な壁と、直角の隅で構成される整った長方形を示す。C-25号住居、D-146号住居と住居の形状、規模、軸線の傾きがほぼ一致し、竈の位置及び構造も似ている。これらの住居は、中尾遺跡に最も多い小形準横長方形住居より、短軸に対する長軸の北が長く、直線的な壁と直角の隅で構成される共通点をもつ。台地中央の頂上付近に占地し、南側は遺跡の北半で最も住居が密集している部分である。

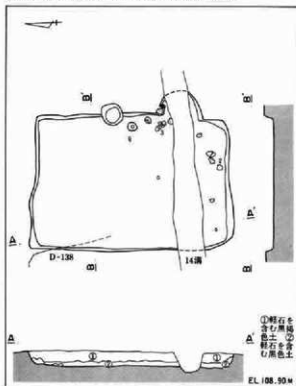
面積 12.0㎡ **方位** +91°

床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を壁立てて生活面としている。全体に平坦で良く整っている。住居の南側を東西に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南側に設置する。主体部の中央を後世の溝に切られるため、全形は確認できない。壁を幅70cm、奥行き50cm(推定)の円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の左側に凝灰岩の切石を確認した。竈西側の床面に密着して出土した同質の石は、主体部を構成していた可能性が高い。強く焼けた痕跡は少なく、煙道は確認できない。

遺物 南壁際中央の床面に密着して羽釜の破片、覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 D-138号住居と重複する。この住居がD-138住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-117号住居

形状 小形正方形。一辺3.3m。南壁に対して北壁が長い不整形を示す。

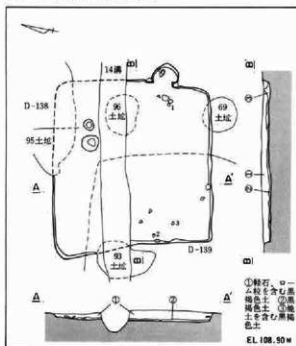
面積 11.8㎡ **方位** +85°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居南西部のD-139号住居との重複部に厚さ10cmの貼床を施して、平坦な生活面を作る。住居の中央北側を東西に、後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に沿って、凝灰岩の切石4個を据え、補強材としている。煙道は確認できない。

遺物 西壁際中央の床面に密着して環、竈西側の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 この住居がD-138住、D-139住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 126 号 住 居

形 状 小形準縦長長方形。長軸を東西にもち、短軸3.2m、長軸4.2mの整った長方形を示す。周辺には長軸を南北にもつ小形準横長長方形住居が圧倒的に多い。

面 積 13.2㎡ **方 位** +76°

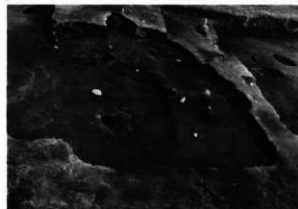
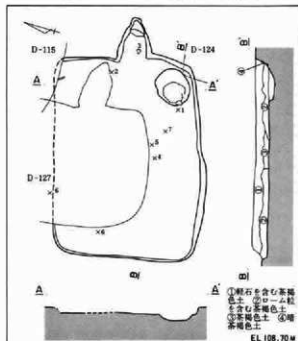
床 面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。大半を重複する住居に切られる。確認した住居南西部の面に貼床した痕跡はない。

竈 跡 東壁の中央に設置する。壁を幅60cm、奥行き50cmの台形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。煙道は奥壁の上段から20cm伸びて、70°の角度で立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺 物 竈西側の床面に密着して環、住居中央部の床面直上より環(須恵器)が出土する。

重 複 この住居がD-145住の覆土を切り、この住居の覆土をD-115住、D-127住が切る平面精査の所見を得た。



D - 124 号 住 居

形 状 小形準横長長方形と推定する。南壁部が確認できないため住居の外形は確定できないが、中尾遺跡で類推できる住居の外形は、D-74号住居と同形の小形準横長長方形以外にない。長軸を南北にもち、短軸2.3mを測る。

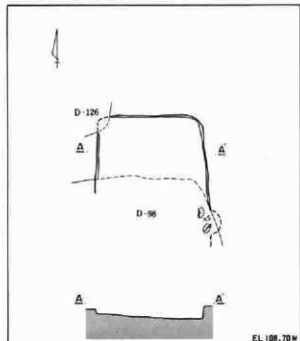
方 位 +90°

床 面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居南半のD-98号住居との重複部には厚さ10cmの貼床を施し、住居北半はロームの地山を整えて生活面を作る。全体に平坦で良く整っている。

竈 跡 東壁の南側に設置する。残存状態が悪く、熱焼部は確認できない。周辺部の床面に密着して出土した石は、焚口部に使用していた可能性が高い。

遺 物 竈の覆土内より羽釜の破片が出土する。

重 複 D-98号住居、D-126号住居と重複する。この住居がD-98住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。D-126住との新旧関係を判別する資料はない。



D-92号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸3.9mを測る。D-148号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

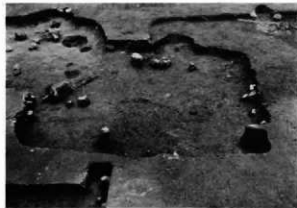
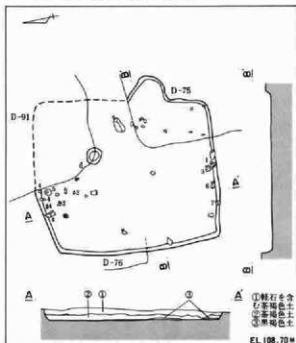
面積 12.0㎡(推定) **方位** +10°

床面 ローム層を25cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。

竈跡 東壁の南側に設置する。上半部を重複する住居に覆られて、残存状態は悪い。壁を幅80cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 南壁際中央の床面に密着して高台付埴(須恵器)、北壁際中央の床面直上より夾の破片が出土する。

重複 D-75号住居、D-76号住居、D-91号住居、D-93号住居と重複する。この住居がD-93住の覆土を切り、この住居の覆土がD-75、91住に切られる平面精査の所見を得た。D-76住との新旧関係を判別する資料はない。



D-127号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.4mで、西壁に対して東壁が短い不整形長方形を示す。

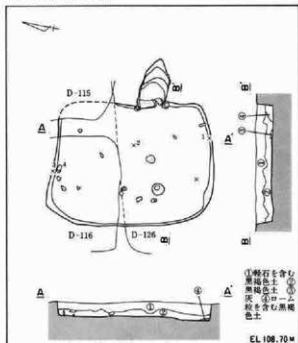
面積 8.4㎡ **方位** +8°

床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。南壁の間壁部幅1mには厚さ5cmの貼床を施し、その他はロームの地山を平坦に整えて生活面を作る。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅50cm奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、その間に同質の石を鳥居状に横架する。煙道は燃焼部の底面から緩やかに30cm伸びて、60°の角度で立ち上がる。

遺物 北壁際中央の床面直上より夾、南壁際中央の覆土内より埴が出土する。

重複 この住居の覆土がD-115住、D-116住に切られ、この住居がD-145住、D-126住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-142・145号住居

形状 大形正方形。D-145号住居は、確認した西壁と柱穴列及び竈の位置から、東壁に竈を設置し、柱穴と壁溝をもつ一辺6.0mの大形正方形と推定する。D-145住居西壁の東側に、西壁から南壁にかけて平行に巡る壁溝を確認し、南壁の壁溝をD-145住居の東壁まで延長すると一辺5.5mの大形正方形を示すので、これをD-142号住居とした。この2軒は、西壁と南壁がそれぞれ平行していること、2軒分の竈が確認できないこと、北西に位置する2個の柱穴が、北東に位置する柱穴の延長線上で、各壁に沿って整然と位置することの3点から、東壁と北東の柱穴を共有した拡張住居と判定する。住居の外形はD-142住がC-10住に、D-145住がC-11住にそれぞれ近似し、C-10住とC-11住は重複している。形状が相似形で規模の異なる2軒の住居が、拡張という形で形態を共有し、一方では重複して2軒の時間差を示している。この4軒の住居は、形態差のある住居の時間的連続性と因果関係を示す、中尾遺跡内で唯一の資料である。

面積 D-142住-29.9㎡(推定) D-145住-34.8㎡(推定) **方位** +82°

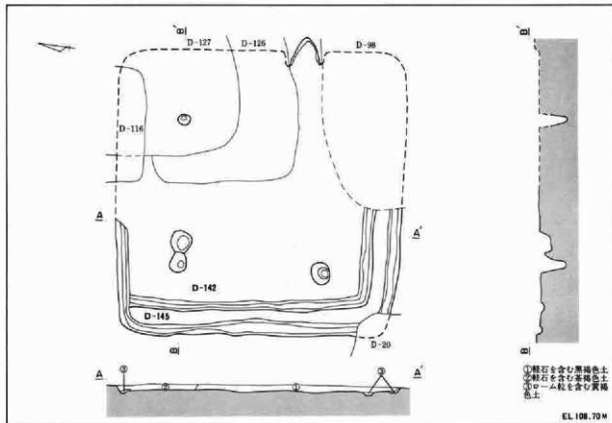
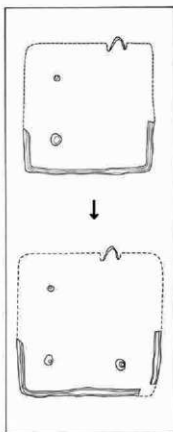
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。

柱穴 D-142住一北東と北西に位置する2個を確認した。北東の柱穴は2軒の対角線上に位置し、東壁に対して整然とした配置を示すことから、共有していたと判定。D-145住一住居の対角線上に整然と配置された3個を確認した。心々を結ぶと住居の外形と相似形で、一辺3.1mの正方形を示す。床面からの深さ50～60cmの円形掘方。

竈跡 東壁の南側に設置する。東壁が確認できないため、壁に対する熱焼部の位置は確定できない。この部分を除いて焼土、灰などの竈の痕跡を示すものは一切ない。

壁溝 西壁と北壁、南壁の一部に幅20cm、深さ5cmでそれぞれ確認した。

重複 D-98住、D-116住、D-119住、D-120住、D-126住、D-127住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-146号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸4.1mで、直線的な壁と丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示す。台地の中央部に単独で占地するが、南側に近接して同形の住居が密集している。近接するD-148号住居と、住居の形状、規模が近似する。

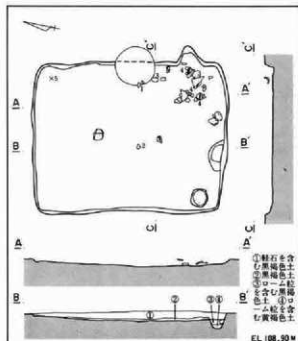
面積 12.9㎡ **方位** +81°

床面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。住居の中央部が周壁部より僅かに低い。

竈跡 東壁の南壁寄りに設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床は深さ10cmの台形に掘り窪めた後、床面と同一レベルまで貼床して構築する。煙道は40°の角度で短く立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南西隅に直径35cmの円形プランで設ける。

遺物 東壁際中央の床面に密着して環、甕西側の覆土内より羽蓋の破片が出土する。



D-84号住居

形状 分類できない。ローム層への掘り込みが浅いため、竈周辺部の住居南東部以外は確認できず、住居の外形を確定することができない。 **方位** +58°

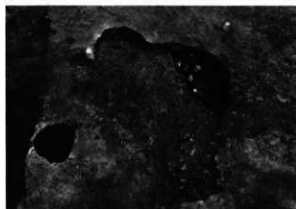
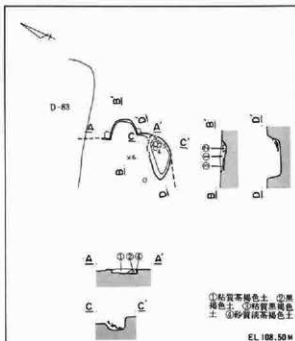
床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。住居の中央部と竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に沿って、凝灰岩の切石4個を据えて補強材とする。

貯蔵穴 住居南東隅の壁外に張り出して、深さ20cmの不整形円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴の覆土内より環、高台付埴(須恵器)、甕西側の覆土内より甕の破片が出土する。

遺構 D-83号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-83号住居

形状 超大形正方形。一辺6.9mを測る。直線の壁で構成される整った方形を示す。北壁に竈を設置する大形正方形住居と相似形を示すが、隅の丸味が大きく、竈を設置する壁が異なる。近接するD-98号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似。

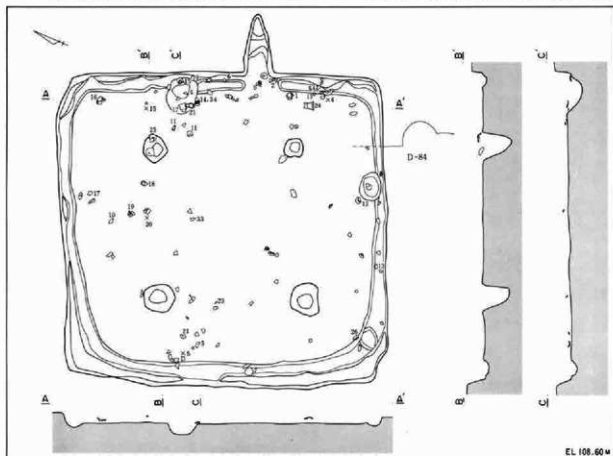
面積 45.5㎡ **方位** +78°

床面 ローム層を30cm掘り込み、ロームと黒色土の混土で貼床して平坦な生活面を作る。

柱穴 住居の対角線上に整然と4個を配置する。心々を結ぶ四角形は住居外形と相似形で、一辺3.1mの整

った方形を示す。深さ50～60cmの円形掘方である。
竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に粘土を積み上げて、主体部を構築する。煙道は壁の中段から掘り込み、水平に70cm伸びて立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

壁溝 幅30cm、深さ10～15cmで竈下を除いて全周する。
遺物 東壁際北側の床面直上より環、住居中央北側の床面直上より環(須臾器)、高台付埴(須臾器)が出土。



D - 134 号 住 居

形 状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.6m、長軸4.7mを測る。西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。D-14号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似する。台地中央の頂上部より西側に占地している。

面積 16.8㎡ **方位** +96°

床 面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。全体に踏み固められている。

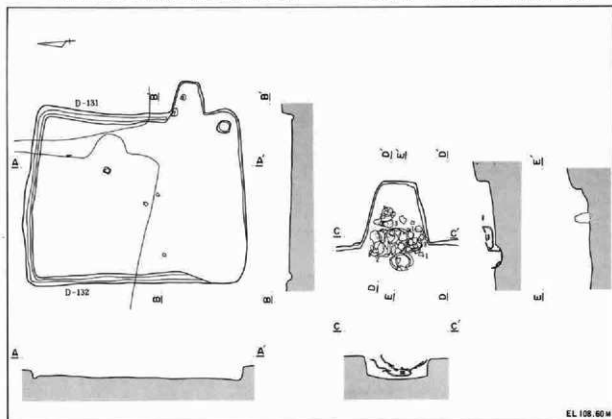
壁 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き70cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に白色粘土を積み

上げて、主体部を構築する。焚口部の左側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、焚口部の間に3個体の炭を組み合わせて構築する。構築した3個体の炭は崩れ落ちて、使用状態を示していない。火球の中央左側に、上端を細く加工した同質の石材を置いて支脚とする。

壁 溝 幅15cm、深き10cmで竈下と南壁を除いて巡る。

貯蔵穴 住居の南東隅に直径25cm、深き20cmの不整形円形プランで設ける。

重 複 D-131号住居、D-132号住居と重複する。D-132住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。D-131住との新旧関係は不明。



D - 132 号 住 居

形 状 小形正方形。一辺3.2mを測る。直線的な壁と直角の隅で構成される、整った方形を示す。D-137号住居と、住居の形状、規模が極めて近似している。

面 積 11.5㎡ **方 位** +106°

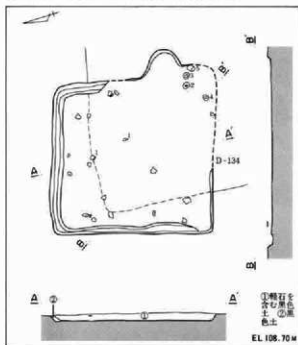
床 面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居の大半をD-134号住居と重複し、この重複部にはロームと黒色土の混土で貼床する。重複部以外は地山のロームを整えて生活面としている。

竈 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

壁 溝 北壁、西壁と東壁の一部に幅15cm、深さ5cm。

遺 物 住居中央部の床面直上より環(須恵器)、住居南東部の覆土内より環蓋(須恵器)が出土する。

重 複 D-134号住居と重複する。この住居がD-134住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 131 号 住 居

形 状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.9m、長軸4.0mを測る。直線的な壁と丸味の小さい隅で構成される、整った長方形を示す。D-78号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面 積 11.2㎡ **方 位** +93°

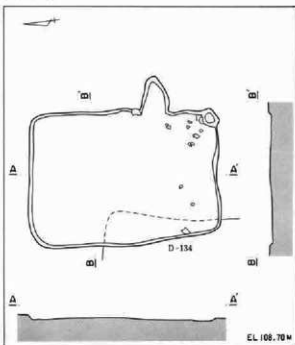
床 面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面を作る。全体に平坦で整っているが、南壁の周壁部が住居中央部よりも僅かに低い。

竈 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き70cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺 物 住居南東隅の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重 複 D-134号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-105号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸4.5mで、西壁に対して東壁が長い不整長方形を示す。

面積 15.2㎡ **方位** +84°

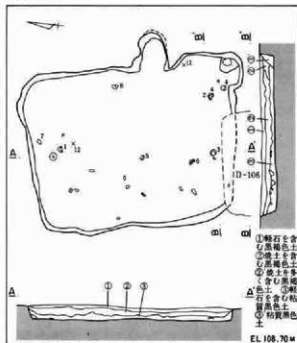
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で一様に貼床して、生活面を作る。生活面は住居の中央部が周壁部より僅かに低い。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き60cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部には白色粘土を用いるが、焚口部に石材を使用した痕跡はない。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居南東隅の壁外に張り出して、深さ30cmの不整円形プランで設ける。

遺物 住居南東部の床面に密着して環(須恵器)、北壁際中央の覆土内より環蓋(須恵器)が出土する。

重複 D-106号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-106号住居

形状 超小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.2m、長軸2.9mと推定する。準横長方形住居で最小の規模を示し、同形状、同規模の住居は中尾遺跡に3例しかない。D-49住と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似する。

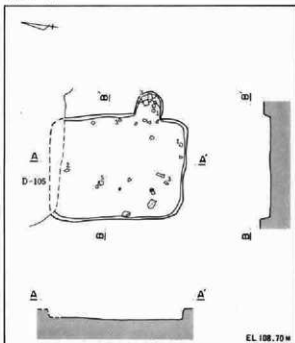
面積 6.2㎡(推定) **方位** +86°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築したと考えられる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈の覆土内より羽釜の破片、北壁際中央の覆土内より環が出土する。

重複 D-105号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



D-140号住居

形状 超大形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸4.4m、長軸6.6mを測る。直線的な壁で構成される整った長方形を示す。台地東側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に単独で占地し、横長長方形住居で最大の規模をもつ。柱穴列から推定したE-22号住居の外形はひとまわり小さく、中尾遺跡と同形状、同規模の住居はない。

面積 28.4㎡ **方位** +83°

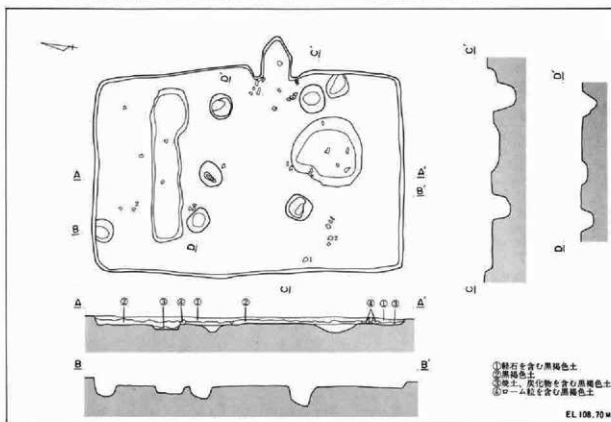
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。住居中央北側に深さ5cmの長方形ピット、住居中央南側に深さ15cmの円形ピットをそ

れぞれ確認した。

柱穴 住居の対角線上から大きくずれて4個を確認した。心々を結ぶ四角形は住居の外形と相似形を示さず、短軸2.0m、長軸4.0mで長軸を東西にもつ不整長方形を示す。床面からの深さ25~40cmの円形掘方。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に白色粘土で構築する。壁内に造り付けた長さ25cmの袖部を検出した。燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの方形で約半分を壁外に造り出す。煙道は大床から緩やかに立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 住居南西部の床面に密着して腰の破片、西壁際南側の覆土内より環が出土する。



D-111号住居

形状 小形半横長長方形。住居の北西隅は確認できないが、長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸3.8mの規模を示す。周辺に密集する住居の軸線が磁北に近いのに対して、軸線が西に傾く。

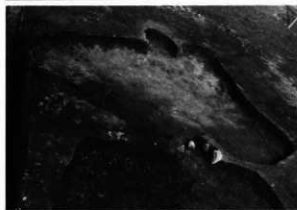
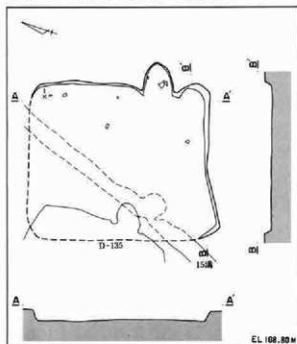
面積 12.8㎡(推定) **方位** +74°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。15号溝との重複部にロームと黒色土の混土で貼床し、他はロームの地山を整えて生活面としている。北壁の周壁部に小さな窪みが多い。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁内に長さ10cmの短い袖部を造り付けるが、幅60cm、奥行き70cmの燃焼部の大半は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した破跡はない。

遺物 住居北東隅の覆土内より坏が出土する。

重複 D-135号住居と重複する。D-135住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-135号住居

形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.2mを測る。東壁と南壁が、相対する壁よりも著しく短い不整長方形を示す。

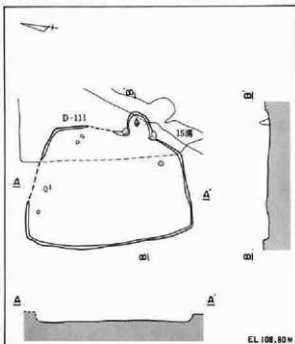
面積 7.6㎡ **方位** +88°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した破跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の左側に凝灰岩の切石、同右側に河原石、壁外に掘り込んだ燃焼部奥壁の両側に河原石を据えて、燃焼部の基部を構築する。煙道は火床から水平に20cm伸びて、70°の傾きで立ち上がる。

遺物 北壁際中央の床面直上より高台付埴(灰釉陶器)。

重複 D-111号住居と重複する。この住居がD-111住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D - 122 号 住 居

形 状 小形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸3.1mを測る。直線的な壁で構成される整った長方形を示し、台地の西側に単独で占地する。C-73号住居、D-6号住居と、住居の形状、規模が極めて近似し、凝灰岩の切石を使用した竈の構造も似ている。

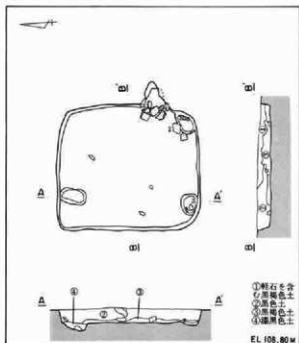
面 積 7.7㎡ **方 位** +94°

床 面 ローム層を10cm掘り込み、平坦に整えて生活面を作る。貼床はない。

竈 跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外に掘り込んだ熱焼部奥壁の両側に河原石4個を据え、焚口部には凝灰岩の切石を横架している。煙道は幅20cmで、火床から45°の傾きで立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの不整楕円形プラン。

遺 物 西壁際中央の床面に密着して環、住居南東部の床面に密着して高台付埴が出土する。



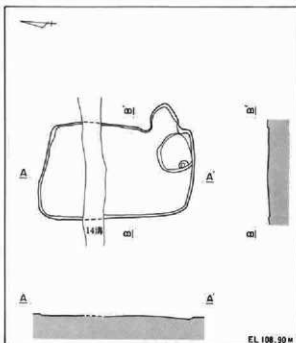
D - 121 号 住 居

形 状 小形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.0m、長軸3.2mを測る。西壁に対して東壁が短い不整長方形を示し、横長長方形住居で最小の規模をもつ。密集する住居の間に単独で占地し、周辺に同形状、同規模の住居はない。D-54号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似する。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はこの2軒である。

面 積 6.1㎡ **方 位** +95°

床 面 ローム層を5cm掘り込んで構築面とする。構築面は小さな起伏が多く、住居南東隅は周辺部より5cm低い円形に掘り窪める。この面に貼床して生活面を作った痕跡があるが、生活面は削平されて確認できない。住居中央北側を東西に後世の溝が切る。

竈 跡 東壁の南壁寄りに設置する。住居の掘り込みが浅いため主体部は確認できない。壁を幅60cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はなく、煙道は確認できない。



D-123号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸4.8mを測る。直線的な壁と、丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示す。住居が密集する台地中央の頂上部より西側に単独で占地する。この住居を含めた中形横長長方形住居は、住居の分布が少ない台地の西端に占地する傾向を示す。E-20住と、住居の形状、規模が一致している。

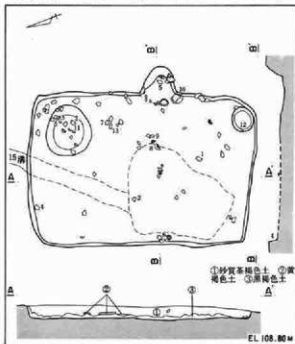
面積 15.2㎡ **方位** +100°

床面 ローム層を20cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。住居の北東部に深さ10cmの円形ピットを検出した。

竈跡 東壁の中央付近に白色粘土で構築する。壁を幅70cm、奥行き30cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とする。煙道は火床から55°の傾きで立ち上がる。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ10cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の覆土内より坏、西壁際中央の床面直上より炭、住居中央部の覆土内より高台付皿(須恵器)が出土する。



D-136号住居

形状 小形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.2mの整った長方形を示す。住居の掘り込みが浅いために壁の立ち上がりは確認できないが、住居の外形は確認した。E-4号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが極めて近似している。

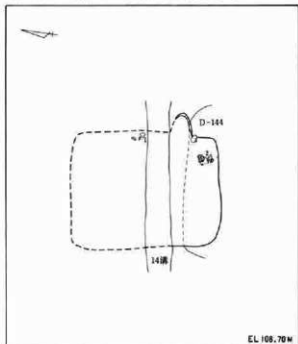
面積 7.6㎡ **方位** +86°

床面 ローム層を5cm掘り込んで床面とする。住居南側のD-144号住居との重複部に、黒色土で10cmの粘床を施し、他は地山を平坦に整えて生活面とする。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の右側に凝灰岩の切石を確認した。

遺物 東壁際中央の床面直上より高台付皿(須恵器)、住居南東部の床面直上より炭が出土する。

重複 D-144号住居と重複する。この住居がD-144住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



D-144号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸3.7mの整った長方形を示す。

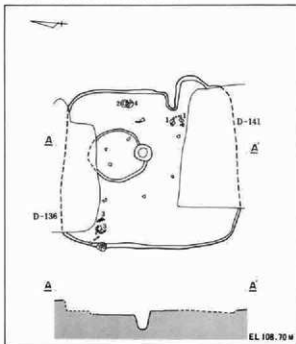
面積 12.0㎡(推定) **方位** +86°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。住居の中央北側に直径110cm、深さ5cmの円形ピットを検出した。住居中央に検出した直径30cm、深さ40cmの円形ピットは柱穴の可能性もあるが、壁外柱穴は確認できない。

竈跡 東壁の南側に設置する。竈の南側半分は重複する住居に切られて、全形は確認できない。壁内に造り付けた長さ40cmの袖部を検出した。燃焼部は壁内に造り付け、幅60cm、奥行き60cmと推定する。

遺物 竈西側の床面に密着して環、東壁際北側の覆土内より環(須恵器)、西壁際北側の覆土内より甕が出土する。

重複 この住居の覆土がD-136住、D-141住に切られる平面精査、土層断面の所見を得た。



D-141号住居

形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.6m、長軸3.5mの整った長方形を示す。D-31号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 9.2㎡ **方位** +86°

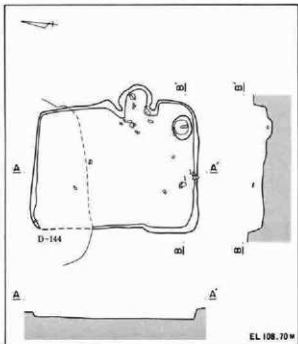
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。住居北側のD-144号住居との重複部に厚さ5cmの貼床を施し、南側はロームの地山を平坦に整えて生活面とする。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。ロームと黒色土で構築した長さ20cmの袖部を検出した。この部分は壁内に造り付ける。燃焼部は幅50cm、奥行き60cmで、約半分を壁外に造り出す。焚口部右側に河原石を据えて、袖部の芯にしている。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺物 南壁際中央の覆土内より環蓋(須恵器)が出土する。

重複 D-144号住居と重複する。この住居がD-144住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-148号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸3.9mを測る。台地東側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に占地している。

面積 12.9㎡(推定) **方位** +79°

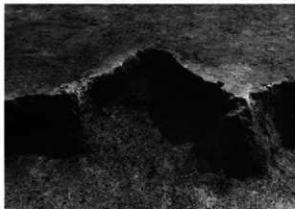
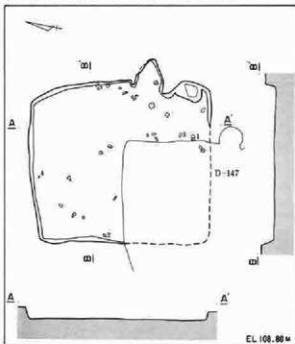
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。確認した面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁内に造り付けた長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅60cm、奥行き20cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。煙道は大床から30°の傾きで立ち上がる。

貯蔵穴 東壁際南端に深さ10cmの楕円形プランで設ける。

遺物 西壁際北側の床面直上より環(須恵器)、住居南東部の覆土内より環、北壁際中央の覆土内より銅製の鈍尾。

重複 D-147号住居と重複する。D-147住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D-147号住居

形状 小形正方形。一辺3.1m。住居の北東部は確認できない。D-63号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 9.2㎡(推定) **方位** +83°

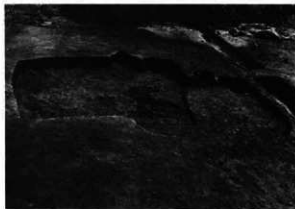
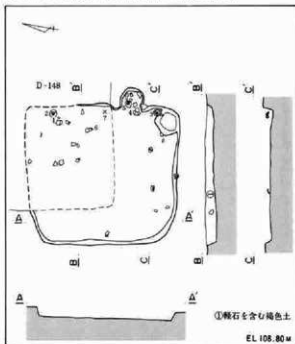
床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。住居北側のD-148号住居との重複部に厚さ5cmの貼床を施し、南側はロームの地山を平坦に整えて生活面を作る。竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺物 竈の覆土内より高台付埴(須恵器)、東壁際北側の覆土内より環(須恵器)が出土する。

重複 D-148号住居と重複する。この住居がD-148住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



D - 110号住居

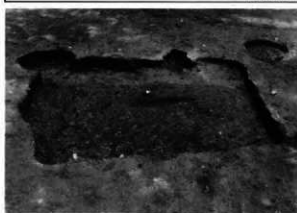
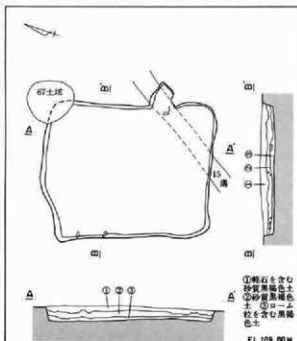
形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.6mを測る。北壁を除いて、直線的な壁と丸味の小さい隅で構成される。住居が密集する台地中央の頂上部より西側に単独で占地し、軸線の傾きは周辺の住居より西へ大きくずれる。D-130号住居と、住居の形状、規模が極めて近似しているが、軸線の傾きは大きく異なる。

面積 9.9㎡ **方位** +76°

床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。住居南東部の15溝との重複部以外に貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。住居の北東隅で67土壇と重複する。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き30cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築し、焚口部に石材を使用した痕跡はない。煙道は確認できない。

遺物 遺西側の床面に密着して環が出土する。



D - 149号住居

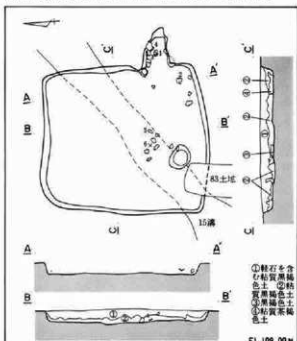
形状 小形準横長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m、長軸3.5mを測る。北壁に対して南壁が長い不整長方形を示す。台地西側の縁辺部に単独で占地しているが、E-4号住居と同時存在し得ない距離に近接している。

面積 10.6㎡ **方位** +91°

床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、住居の中央部は踏み固められて硬い。住居南西部で83土壇と重複する。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側と、壁外に掘り込んだ燃焼部奥壁の両側に河原石を据え、この上に白色粘土を貼って主体部を構築する。火床の中央に凝灰岩の切石を埋込んで支脚とする。

遺物 竈の火床に密着して環、住居南東部の覆土内より高台付埴(須恵器)、竈の覆土内より羽釜が出土する。





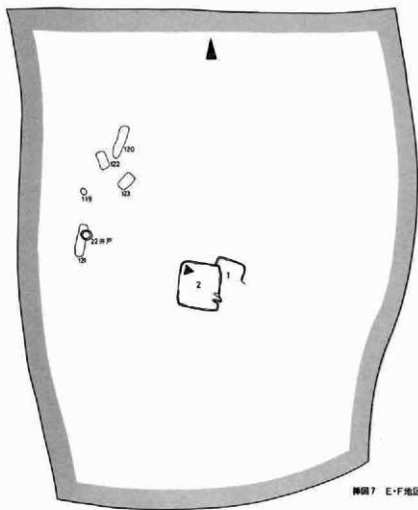
◀22 F地区北壁土層断面



▲23 遺物出土状態 (F-1-2号住居)



▲24 F-1-2号住居

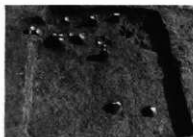
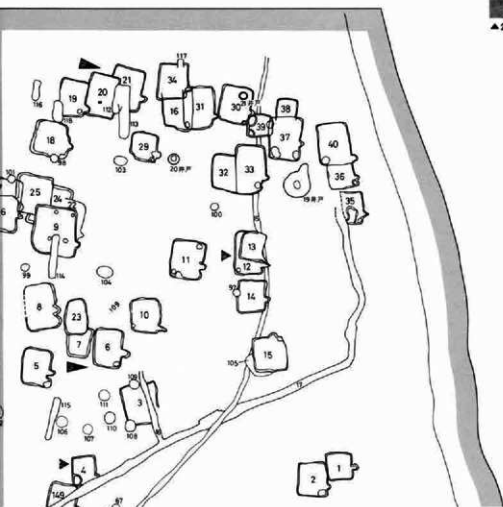


神岡7 E・F地区遺構配地図

▼25 E-6号住居周辺 (西から)

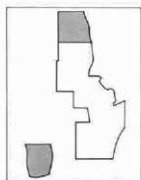


E・F地区

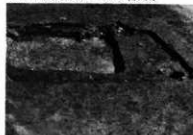


▲27 E-4号住居

▼26 E-21号住居周辺 (西から)



▼28 重複状況 (E-12・13号住居)



E-1号住居

形状 超小形正方形。一辺2.8mを測る。直線的な壁と、丸味の小さい隅で構成される整った方形を示す。E-29号住居と、住居の形状、規模が極めて近似し、凝灰岩の切石を使用した竈の構造も似ている。台地東側の沖積地へ移行する緩傾斜地に、E-2号住居と同時存在し得ない距離で近接して占地している。超小形正方形住居は遺跡の全域に分布し、単独で占地する傾向をもつ。

面積 7.5㎡ 方位 +81°

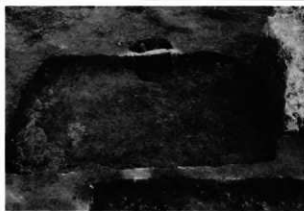
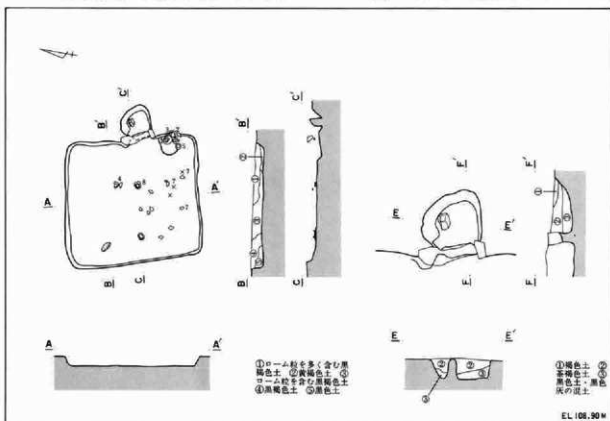
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で厚さ10cmの貼土を施して、生活面を作る。生活面は全体に平坦で、良く

整っている。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き60cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据えて補強材とし、その間に同質の石材を構築している。残存状態が良く、焚口部は原形を留めていた。火床の中央から僅か左側に、同質の石材を棒状に加工した支脚を埋め込む。

貯蔵穴 東壁際の南側に直径45cm、深さ20cmの不整形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴の底面に密着して環、貯蔵穴南側の床面に密着して環(須恵器)、南壁際中央の覆土内より甕。



E-2号住居

形状 小形準横長長方形、長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.6mを測る。直線的な壁と、丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示す。住居の分布が希薄な台地東側の縁辺部に単独で占地するが、E-1号住居と近接し、同住居との同時存在はない。D-80号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

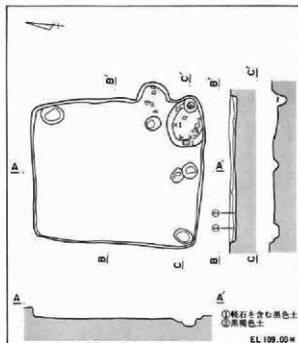
面積 11.0㎡ **方位** +86°

床面 ローム層を15cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅60cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居南東隅を直径100cm、深さ10cmの円形に掘り窪め、その東端に深さ30cmの円形ピットを設ける。

遺物 貯蔵穴の底面に密着して環、鏝、竈の覆土内より環(須恵器)が出土する。



E-3号住居

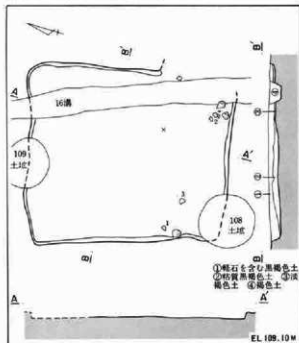
形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.6m、長軸4.3mを測る。南壁に対して北壁が長い不整長方形を示す。台地の中央部に単独で占地し、D-134号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 15.6㎡ **方位** +79°

床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒土の混土で貼床して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、全体に踏み固められて硬い。北壁の中央と南壁の西側に土壇と重複し、住居の東側を南北に後世の溝が切る。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。重複する溝に切られて全形は確認できない。壁内に軸部の痕跡を検出できないことから、燃焼部は壁外に造り出したと考えられる。煙道は確認できない。

遺物 住居の南西部と南東部の床面に密着して環(須恵器)、鏝、高台付皿(須恵器)が出土する。



E-4号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.1mを測る。直線的な壁と、丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示す。近接するD-109号住居と、住居の形状、規模が近似している。

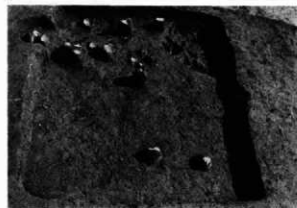
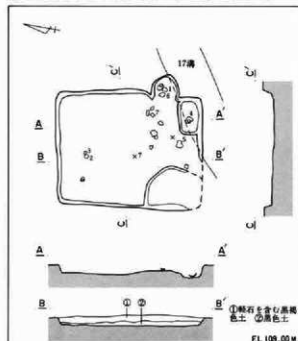
面積 7.5㎡ **方位** +82°

床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で、全面に10cmの貼床を施して生活面を作る。生活面は平坦で良く整い、全体に踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築し、焚口部に石材の使用はない。火床の中央から左側に凝灰岩の切石を埋込んで支脚とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの長方形プランで設ける。

遺物 竈の火床直上より環、貯蔵穴の覆土内より高台付埴(須恵器)、住居中央部の覆土内より婁が出土する。



E-5号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.0m、長軸3.9mの整った長方形を示す。台地西側の縁辺部に単独で占地する。D-111号住居と、住居の形状、規模が極めて近似している。

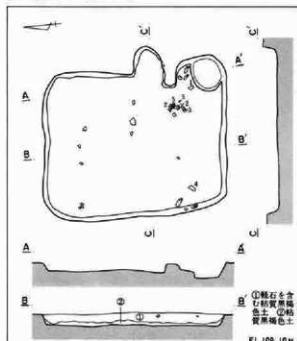
面積 12.0㎡ **方位** +92°

床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で、厚さ5cmの貼床を全面に施して生活面を作る。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。白色粘土で構築した長さ30cmの袖部を検出した。左側の袖部は確認できないが、燃焼部は幅50cm、奥行き50cmの円頂形で、約半分を壁外に造り出すと考えられる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 竈西側の床面直上より環(須恵器)、住居南西部の覆土内より環が出土する。



E-6号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもら、短軸3.0m、長軸4.1mを測る。直線的な壁と丸味の小さい隅で構成される整った長方形を示す。東壁に竈を設置し、住居南東隅に貯蔵穴を設ける一般的小形準横長長方形を呈す。E-19号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。周辺の住居は方形の空間地を囲むかのように重複して占地し、この住居は空間地の南側にあたる。

面積 11.7㎡ 方位 +91°

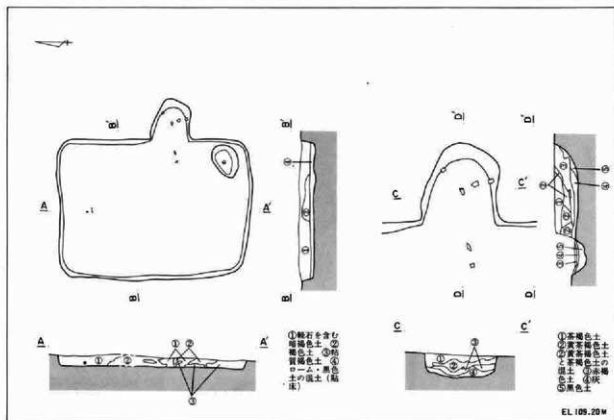
床面 ローム層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は平坦で良く整っている。この面にロームと黒色土の混土で、厚さ10cmの貼床を一様に施して生活

面を作る。生活面は全体に平坦で良く整い、竈の西側から住居の中央部にかけては、踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。壁を幅80cm、奥行き70cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。壁外に掘り込んだ燃焼部の側壁に沿って粘土を積み、主体部を構築する。火床は強く焼けている。煙道は確認できず、焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に直径50cm、深さ20cmの不整円形プランで設ける。

遺物 住居中央北側の覆土内より石製紡錘車が出土する。



EL. 105.20M



E-8号住居

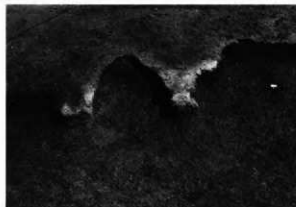
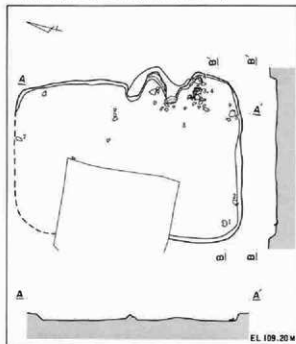
形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸4.9mを測る。住居の北西部は掘り込みが浅いため確認できない。台地西側の縁辺部に単独で占地している。この住居を含めた中形横長長方形住居は、台地の西側を南北に連なって占地する傾向を示す。

面積 15.9㎡(推定) **方位** +76°

床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して、平坦な生活面を作る。全体に踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。白色粘土で壁内に構築した長さ20cmの袖部を検出した。燃焼部は幅60cm、奥行き50cmの円頂形で、約半分を壁外に造り出す。焚口部右側に凝灰岩の切石を据え、同左側にも石材の竈跡を確認した。

遺物 東壁際南側の床面に密着して環、鏝、南壁際東側の床面に密着して環蓋(須恵器)が出土する。



E-10号住居

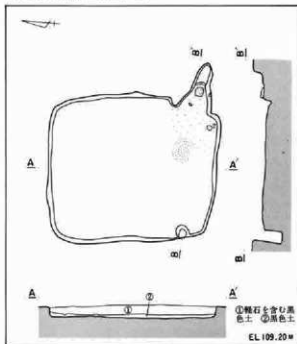
形状 小形半横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.1m、長軸3.6mの整った長方形を示す。台地の中央部に単独で占地している。中尾遺跡で竈を東壁の南端に設けるのは、単縦長長方形住居に多い。

面積 10.5㎡ **方位** +83°

床面 ローム層を25cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面としている。全体に平坦で良く整っている。西壁際南側の壁に沿って直径25cm、深さ40cmのピットを検出した。

竈跡 東壁の南端に設置する。壁を幅60cm、奥行き60cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部、煙道の天井部は白色粘土で構築する。煙道は幅20cmで火床から水平に40cm伸びて、垂直に立ち上がる。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 住居南東部の覆土内より皿、住居の覆土内より高台付皿(須恵器)が出土する。



E-7号住居

形状 分類できない。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.4mを測る。南壁に対して北壁が長い不整長方形を示す。小形単横長長方形の可能性もあるが、竈の痕跡がなく、近似した形状、規模をもつ住居の類例もない。住居の北西部は確認できない。

面積 8.4㎡ 方位 +2°

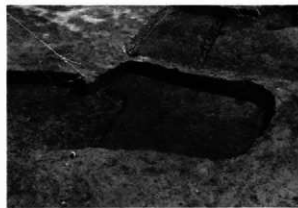
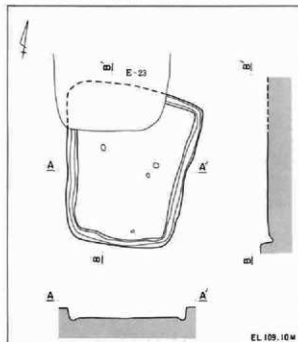
床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して生活面を作る。確認した生活面は平坦で良く整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に焼土、灰等の竈の痕跡を示すものは一切ない。

壁溝 幅20cm、深さ10cmで全周する。

遺物 住居中央部の覆土内より須恵器の破片が出土する。

重複 E-23号住居と重複する。E-23住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-23号住居

形状 分類できない。長軸を南北にもち、短軸2.5m、長軸3.8mを測る。南壁に対して北壁が短く、住居北西隅の丸味が大きい不整長方形を示す。住居の形状、規模はD-42号住居に近似している。小形横長長方形の可能性もあるが、竈付住居と認定できないために、同形として分類することはできない。

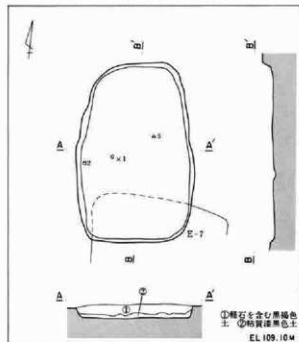
面積 8.3㎡ 方位 +4°

床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山をそのまま生活面としている。全体に平坦で良く整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居の可能性はあるが、竈の痕跡は一切ない。

遺物 住居中央東側の床面直上より埴の破片(灰赤陶器)、住居中央西側の覆土内より甕の破片が出土する。

重複 E-7号住居と重複する。この住居がE-7住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-11号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.5m、長軸4.1mの整った長方形を示す。住居の分布が希薄な台地の中央部に単独で占地する。

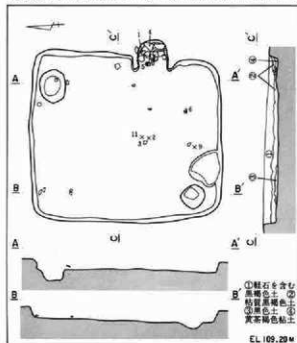
面積 14.0㎡ **方位** +94°

床面 ローム層を30cm掘り込んで床面とする。住居の北半はロームの地山を生活面とし、南半はロームと黒色土の混土で貼床した可能性が高い。

竈跡 東壁の中央から僅か南側に設置する。白色粘土で構築した長さ20cmの袖部を確認した。燃焼部は幅60cm、奥行き40cmで、約半分を壁外に造り出す。火床には、天井部を構成していたと考えられる凝灰岩が出土する。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ15cmの不整形円形プランで設ける。住居の北東隅にも深さ25cmの貯蔵穴様ビットを確認。

遺物 住居中央部の床面直上より環、高台付皿(須恵器)、北壁際西側の床面直上より坑の破片(灰輪陶器)が出土する。



E-30号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸3.9mを測る。直線的な壁で構成される整った長方形を示す。遺跡の北端に単独で占地するが、周辺には同時存在し得ない距離に近接した住居が多い。E-5号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

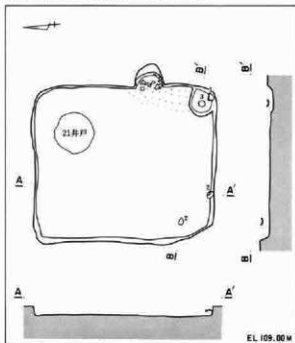
面積 12.8㎡ **方位** +97°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。住居の北東部を後世の井戸が切る。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き30cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。壁内に袖部を造り付けた可能性がある。焚口部に石材を使用した痕跡はなく、煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ10cmの円形プランで設ける。

遺物 南壁際西側の床面直上より高台付埴(須恵器)、貯蔵穴の覆土内より甕の破片が出土する。



E-12号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.7m、長軸4.6mを測る。D-50号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 12.2㎡(推定) **方位** +87°

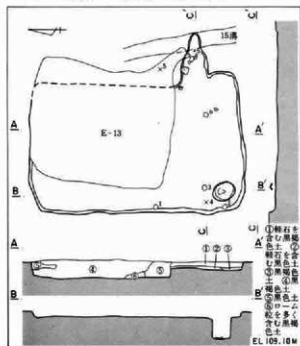
床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して平坦な生活面を作る。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床は深さ10cmの方形に掘り窪めた後、焼土と灰の混土で埋戻す。焚口部の左側と、燃焼部奥壁の左側に2個の河原石を確認した。煙道は火床から水平に40cm伸びる。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ40cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴北側の床面に密着して高台付皿(須恵器)、西壁際中央南側の床面直上より坏が出土する。

重複 E-13号住居と重複する。E-13住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



E-13号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸2.4m、長軸3.0mを測る。住居の大半をE-12号住居と重複する。住居の隅を斜めに切って竈を構築するが、この類例は中尾遺跡に少なく、小形準横長長方形住居では三例を数えるのみ。

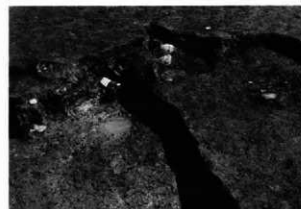
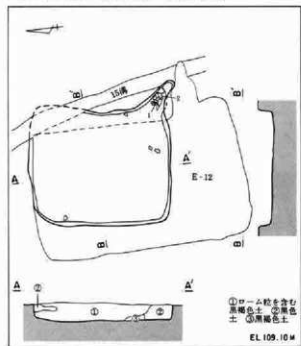
面積 7.1㎡ **方位** +93°

床面 ローム層を40cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を整えて生活面とする。生活面は南壁の肩壁部が僅かに低い他は平坦である。

竈跡 住居の南東隅に白色粘土で構築する。壁を幅40cm、奥行き40cmで、住居の南北軸に対して45°の角度で方形に掘り込み、燃焼部は壁外に造り出す。煙道は火床から緩やかに30cm伸びて、垂直に立ち上がる。火床の中央に河原石を埋込んで支脚とする。

遺物 竈の火床に密着して高台付皿(須恵器)が出土する。

重複 E-12号住居と重複する。この住居がE-12住の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



E-14号住居

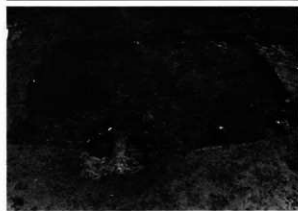
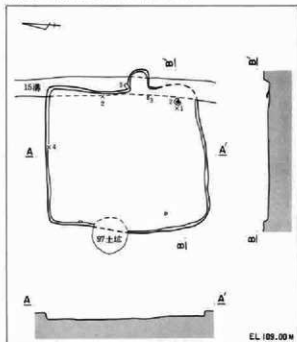
形状 小形正方形。一辺3.3mの整った方形を示す。住居の分布が希薄な台地中央部に単独で占地し、周辺の密集する住居に同形状はない。D-147号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 9.9㎡ **方位** +87°

床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。住居東壁部の15号溝との重複部を除いて、貼床した痕跡はない。ロームの地山を平坦に整えて生活面とする。生活面は南壁の周壁部が僅かに低い他は、平坦で整っている。西壁際中央部で97土壇と重複する。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築し、焚口部に石材を使用した痕跡はない。煙道は確認できない。

遺物 竈西側の床面に密着して高台付埴(須恵器)、住居南東部の床面直上より坏が出土する。



E-15号住居

形状 小形正方形。一辺3.6mを測る。北壁に竈を設置し、竈の右脇に貯蔵穴をもつ。中尾遺跡で北壁に竈を設置するのは、C-49号住居を除いて正方形住居に限定されている。

台地の中央部に単独で占地し、周辺に北壁竈の住居はない。

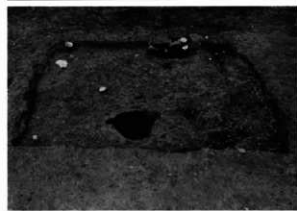
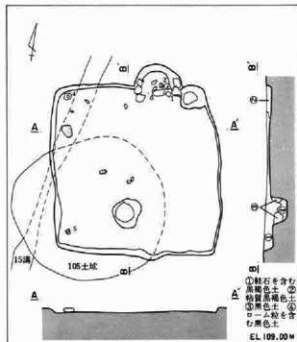
面積 12.5㎡ **方位** -9°

床面 ローム層を15cm掘り込み、この面にロームと黒色土の混土で貼床して平坦な生活面を作る。

竈跡 北壁の中央東側に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を確認した。燃焼部は幅60cm、奥行き60cmの方形で、約半分を壁外に造り出す。焚口部の両側と、燃焼部の側壁に沿って凝灰岩の切石を据え、この上に白色粘土を貼って主体部を構築する。焚口部は、両側に据えた凝灰岩の切石の間に同質の石を横架している。

貯蔵穴 住居の北東隅に深さ15cmの方形プランで設ける。

遺物 竈の大床直上より坏(須恵器)、住居北西隅の床面直上より高台付埴(須恵器)が出土する。



E-24号住居

形状 中形正方形。一边4.4mを測る。直線的な壁と直角な隅で構成される整った方形を示す。D-133号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

面積 18.4㎡(推定) **方位** +11°

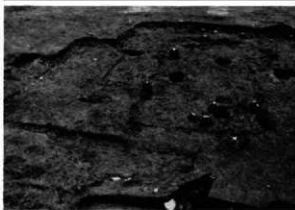
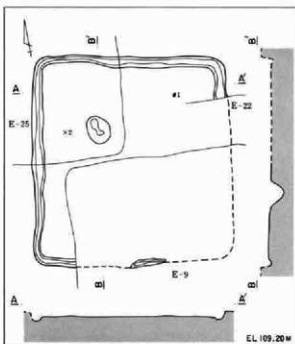
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を生活面としている。確認した面は平坦で整っている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する住居に切られた可能性が高い。

壁溝 幅15cm、深さ10cmで確認した壁下に巡る。

遺物 住居北西部の床面に密着して高台付埴(須志器)、西壁際中央の床面に密着して鉄塊が出土する。

重複 E-9号住居、E-22号住居、E-25号住居と重複する。E-9住、E-22住、E-25住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-25号住居

形状 分類できない。南壁部が確認できないため、住居の外形は確定できない。東西軸3.8mを測る。周辺の住居は空間地を囲むかのような分布を示し、この住居は空間地の西側に重複して占地している。住居の外形はE-24号住居と相似形を示す可能性がある。 **方位** +95°

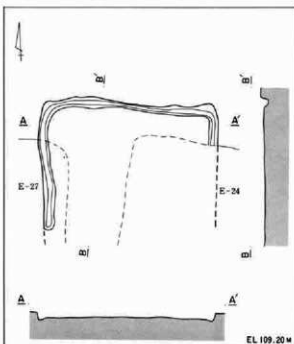
床面 ローム層を10cm掘り込んで床面とする。E-24号住居との重複部に貼床を施し、その他はロームの地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する住居に切られた可能性が高い。

壁溝 幅15cm、深さ10cmで確認した壁下に巡る。

遺物 住居の覆土内より埴の破片が出土する。

重複 この住居がE-24住の覆土を切り、この住居の覆土をE-22住が切る平面精査の所見を得た。E-9住、E-27住との新旧関係を判別する資料はない。



E-9号住居

形状 中形正方形。長軸5.0mを測る。南壁に対して北壁が短い不整形を示す。

面積 22.4㎡ **方位** +92°

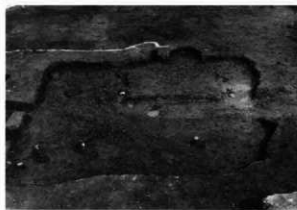
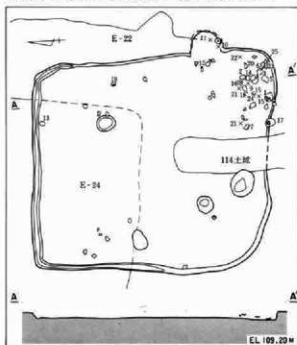
床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で厚さ10cmの貼床をして、平坦な生活面を作る。竈の西側は踏み固められて硬い。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅60cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はなく、煙道は確認できない。

溝 北壁と西壁、東壁の各一部に幅15cm、深さ10cm。

遺物 住居南東隅の床面に密着して環、台付甕、高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 E-22住、E-24住、E-25住と重複する。この住居がE-22住、E-24住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。E-25住との新旧関係を判別する資料はない。



E-22号住居

形状 大形準横長長方形と推定する。南壁と西壁が確認できないため住居の外形は確定できないが、柱穴列から推定した住居の外形は、長軸を南北にもち、短軸4.4m、長軸6.1mの整った長方形を示す。中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。 **方位** +94°

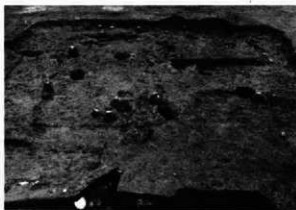
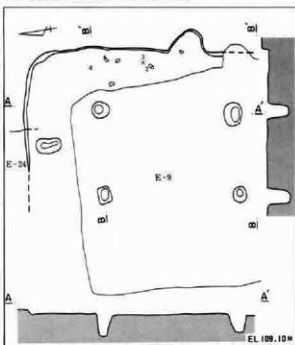
床面 ローム層を20cm掘り込んで構築面とし、この面に黒色土で貼床して平坦な生活面を作る。

柱穴 確認した東壁に平行して4個を検出した。心々を結ぶ四角形は短軸1.8m、長軸3.0mの整った長方形を示す。床面からの深さ40~50cmの円形掘り込みである。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 東壁際中央の床面直上より環、甕の破片が出土。

重複 この住居がE-24住、E-25住の覆土を切り、E-9住に切られる平面精査の所見を得た。



E-27号住居

形状 分類できない。西壁と南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。軸長が確認できず、住居の外形を類推することができない。台地西側の縁辺部に重複して占地する。周辺の住居は方形の空間地を囲むように占地している。

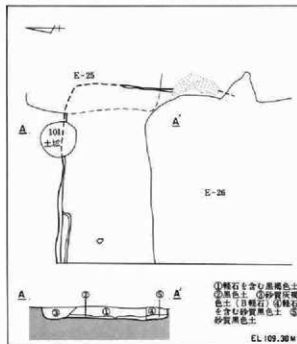
方位 +94°

床面 ローム層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。北壁際東側で101土壇と重複する。

竈跡 東壁に設置する。残存状態が悪く竈の全形は確認できない。壁に沿って多量の焼土、灰を検出した。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

壁溝 北壁の一部に幅15cm、深さ5cmで巡る。

重複 E-25号住居、E-26号住居と重複する。E-26住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。E-25住との新旧関係を判別する資料はない。



E-26号住居

形状 分類できない。西壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸3.5mを測る。中尾遺跡でこの軸長から類推できる住居の外形は、C-115号住居と同形の中形準縦長方形である。方位 +90°

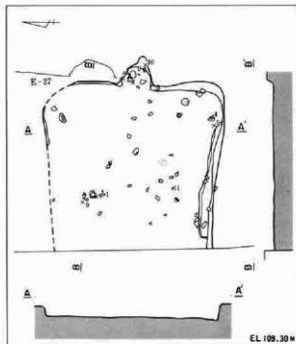
床面 ローム層を25cm掘り込んで構築面とする。この面にロームと黒色土の混土で貼床して平坦な生活面を作る。

竈跡 東壁の中央に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に作り出す。焚口部の左側に河原石、右側に凝灰岩の切石を据え、主体部は白色粘土を貼って構築する。火床の中央から左側に凝灰岩の切石を埋込んで支脚とする。

壁溝 南壁の一部に幅10~20cm、深さ5cmで巡る。

遺物 住居南東隅の床面に密着して高台付埴(須恵器)、南壁際西側の床面直上より埴(須恵器)が出土する。

重複 E-27号住居と重複する。この住居がE-27住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-21号住居

形状 中形標準長方形。長軸を南北にもち、短軸3.4m、長軸4.4mを測る。住居の南西部は確認できないが、E-37号住居に近い形状、規模を示すと推定できる。遺跡北端の、空開地を囲む一辺に占地する。

面積 15.1㎡(推定) **方位** +100°

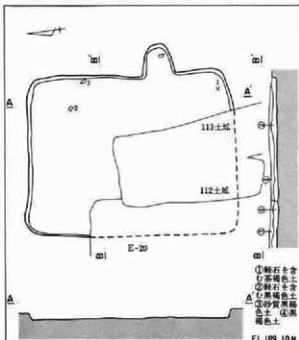
床面 粘質茶褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面を作る。住居の南側を112、113土壇に切られる。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き60cmの円頂形に掘り込んで、熱焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に設ける。(実測漏)

遺物 住居北東部の床面に密着して環、東壁際北側の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 E-20号住居と重複する。E-20住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-20号住居

形状 中形標準長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸4.6mの整った長方形を示す。D-73号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 14.3㎡(推定) **方位** +99°

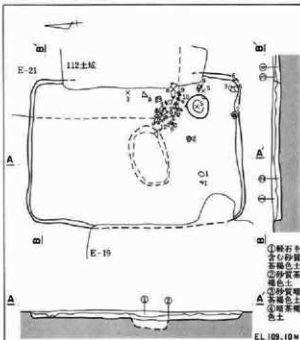
床面 粘質茶褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。住居中央南側のピットを除いて貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。ピットは深さ15cmの方形に掘り深めた後、周辺の床面と同一レベルまで埋戻す。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複する土壇に切られた可能性が高い。

貯蔵穴 東壁際南側に深さ15cmの円形プランで設ける。

遺物 住居南東隅の床面に密着して環、高台付埴(須恵器)、貯蔵穴北側の床面に密着して壁の破片が出土する。

重複 この住居の覆土がE-19号住居に切られ、この住居がE-21号住居の覆土を切る平面精査の所見を得た。



E-19号住居

形状 小形標準長方形。長軸を南北にもち、短軸2.8m長軸3.9mで、西壁に対して東壁が短い不整長方形を示す。D-78号住居と、住居の形状、規模が極めて近似している。

面積 10.8㎡ **方位** +96°

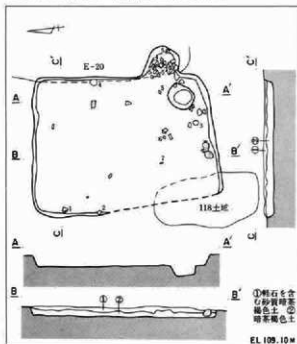
床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質茶褐色土の地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き50cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とし、火床の中央に同質の石材を埋込んで支脚とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの方形プランで設ける。

遺物 南壁際中央の床面に密着して環、甕の覆土内より甕の破片が出土する。

重複 E-20号住居と重複する。この住居がE-20住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-29号住居

形状 超小形正方形。一辺2.9mで、住居の南西隅を除いて直線的な壁と丸味の小さい隅で構成される。台地中央の頂上部付近に単独で占地し、E-1号住居と、住居の形状、規模が極めて近似している。

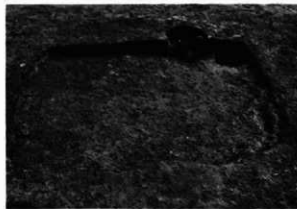
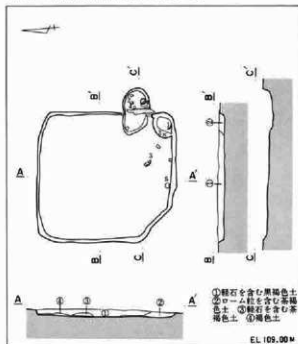
面積 7.7㎡ **方位** +97°

床面 ローム層を15cm掘り込み、平坦に整える。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の手前から火床にかけての床面を、幅40cm、長さ80cm、深さ10cmの方形に掘り深め、ロームと黒色土の混土で埋戻す。焚口部の両側に凝灰岩の切石を据え、その間に同質の石材を横架して焚口部を構成する。火床の中央左側には、棒状の河原石を埋め込んだ支脚を確認した。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ10cmの円形プランで設ける。

遺物 貯蔵穴の底面より環(須恵器)、南壁際中央の床面直上より高台付埴(須恵器)が出土する。



E-16号住居

形状 分類できない。北壁と東壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。長軸を南北にもち、短軸3.2mと推定する。この軸長から類推できる住居の外形は、E-31号住居と同形の小形単横長方形である。

方位 +84°

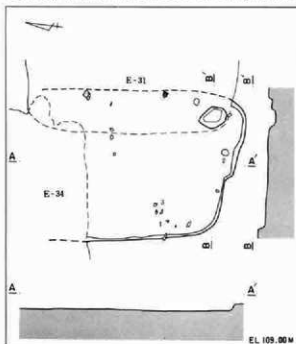
床面 粘質茶褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質茶褐色土の地山を生活面とする。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。重複するE-31号住居に切られた可能性が高い。

貯蔵穴 住居の南東部に深さ10cmの不整形円形プラン。

遺物 南壁際中央の床面に密着して坏、西壁際南側の覆土内より高台付塊(須恵器)が出土する。

重複 E-31住、E-34住と重複する。ともに新田関係を判別する実証的資料はないが、この住居の竈が確認できないことから、E-31住がこの住居を切っている可能性が高い。



E-31号住居

形状 小形単横長方形。長軸を南北にもち、長軸4.5mを測る。短軸は3.3mと推定する。E-16号住居と重複する西壁部は確認できないが、重複部の床面に僅かな段差を確認した。住居の形状、規模はE-11号住居に近似している可能性が高い。

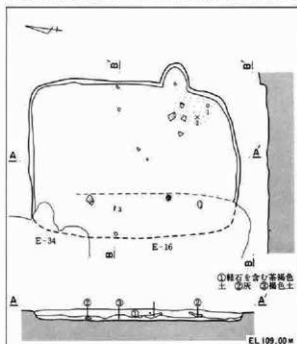
面積 13.9㎡(推定) **方位** +85°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで、平坦な生活面を作る。貼床した痕跡はない。

竈跡 東壁の南側に白色粘土で構築する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁内に造り出す。大床に密着して出土した凝灰岩の切石は、焚口部に使用していた可能性が高い。

遺物 住居南東部の床面に密着して高台付塊(緑釉)の破片、西壁際中央の覆土内より刀子状の鉄器が出土する。

重複 この住居の覆土がE-34住に切られる平面精査の所見を得た。E-16住との新旧関係を判別する資料はない。



E-34号住居

形状 小形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸3.7mを測る。直線的な壁で構成されるが、東壁に対して西壁が長い不整長方形を示す。遺跡北端の、空間地を囲む北側の一边に占地する。E-19号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

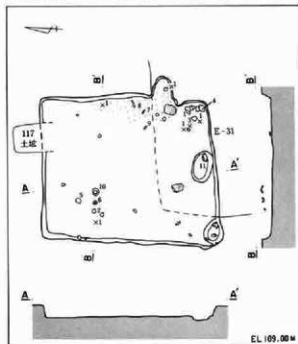
面積 11.5㎡ **方位** +89°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込み、平坦に整えて生活面とする。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き50cmの円頂形に張り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部手前の床面に密着して出土した凝灰岩の切石は、焚口部に横架していたものと考えられる。

遺物 住居の東南隅の床面に密着して甕、住居北西部の床面直上より環、高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 この住居がE-31住の覆土を切る平面精査の所見を得た。E-16住との新旧関係を判別する資料はない。



E-18号住居

形状 小形正方形。東壁の南側が長さ2.5mにわたって50cm張り出し、張り出した壁の中央に竈を設置する。C-36号住居が同形状を示し、類例は中尾遺跡にこの2軒を数えるのみである。張り出し部を除いた住居の形状は、一辺3.3mの小型正方形で、E-15号住居と、住居の形状、規模が近似している。

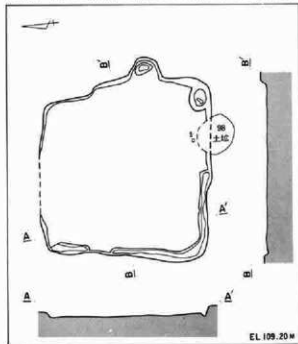
面積 13.0㎡(張り出し部含む) **方位** +97°

床面 ローム層を15cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、ロームの地山を平坦に整えて生活面としている。全体に踏み固められて硬い。南壁の東側で98土壇と重複する。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅60cm、奥行き40cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。主体部は白色粘土で構築し、焚口部に石材を使用した痕跡はない。

壁溝 西壁と南壁の一部に幅10cm、深さ10cmで巡る。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。



E-32号住居

形状 分類できない。東壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。南北軸3.8mを測る。中尾遺跡でこの軸長から類推できる住居の外形は、E-30号住居と同形で長軸を南北にもつ小形単縦長長方形か、C-115号住居と同形で長軸を東西にもつ中形単縦長長方形である。遺跡北端の空間地を囲む東側の一边に占地している。

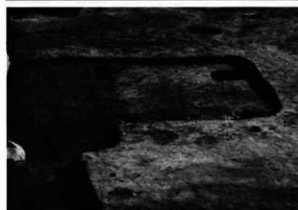
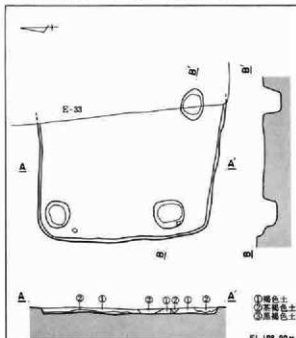
方位 +93°

床面 粘質茶褐色土層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質茶褐色土の地山を平坦に整えて生活面を作る。西壁際の両端と南壁際の東側に、柱穴の可能性もある深さ30cmのピット3個を確認した。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 住居の覆土内より高古付地(須恵器)が出土する。

重複 E-32号住居と重複する。E-33住がこの住居の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-33号住居

形状 中形横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2m、長軸5.3mを測る。東壁が竈を境に段差をもつ不整形長方形を示す。

面積 15.5m²(推定) **方位** +88°

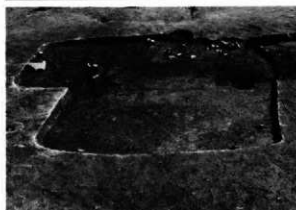
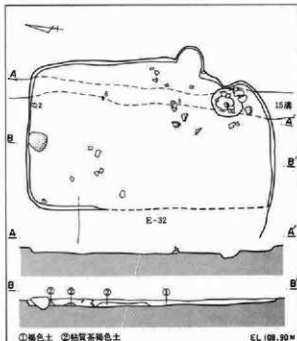
床面 粘質茶褐色土層を15cm掘り込んで床面とする。住居東側の15溝との重複部を除いて貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。溝との重複部には粘質茶褐色土で貼床する。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とする。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ20cmの円形プランで設ける。

遺物 住居北西隅の床面直上より坏、竈西側の床面直上より羽釜の破片が出土する。

重複 E-32号住居と重複する。この住居がE-32住の覆土を切って構築する平面精査の所見を得た。



E-36号住居

形状 小形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.2mを測る(北壁部は実測漏)。台地東側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に占地し、D-141号住居と、住居の形状、規模、軸線の傾きが近似している。

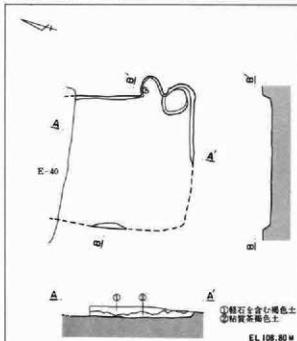
面積 8.8㎡(推定) **方位** +77°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質茶褐色土の地山を整えて生活面を作る。確認した面は平坦で良く整っている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅40cm、奥行き40cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床に密着して凝灰岩の切石が出土する。主体部は凝灰岩で構築していた可能性がある。火床は深さ5cmの楕円状に掘り窪める。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ10cmの円形プランで設ける。

重複 E-40号住居と重複する。E-40住がこの住居の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



E-40号住居

形状 中形単横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.3m、長軸4.5mを測る。近接するE-37号住居と、住居の形状、規模が近似しているが、竈、貯蔵穴の位置が異なる。

面積 14.9㎡ **方位** +80°

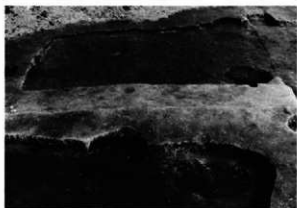
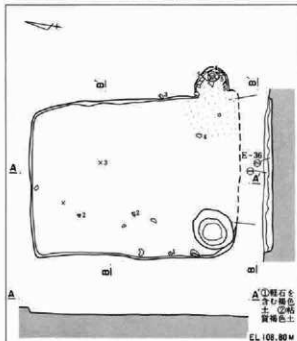
床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで、平坦な生活面を作る。

竈跡 東壁の南端に設置する。壁を幅60cm、奥行き50cmの円頂形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。竈側の床面に多量の黒色灰を検出したが、火床の焼け方は少ない。焚口部の右側に河原石を据えて補強材とする。煙道は確認できない。

貯蔵穴 住居の南西隅に深さ30cmの円形プランで設ける。

遺物 西壁際南面の床面に密着して環、竈の火床直上より羽釜、住居北西部の覆土内より高台付埴(須恵器)が出土。

重複 E-36号住居と重複する。この住居がE-36の覆土を切って構築する土層断面の所見を得た。



E-35号住居

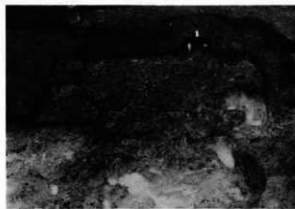
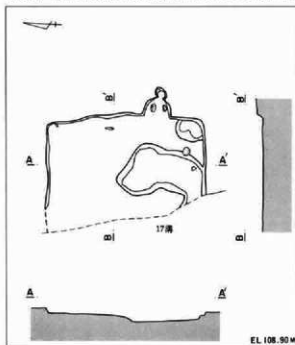
形状 分類できない。17溝と重複する西壁部が確認できないため、住居の外形は確定できない。西壁の掘り込みが17溝の西側に確認できないので、正方形と縦長長方形の可能性はない。南北軸3.4mを測る。中尾遺跡でこの軸長に近似しているのはE-2号住居で、長軸を南北にもつ小形準横長長方形の可能性が高い。台地東側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に占地している。方位 +87°

床面 茶褐色粘土層を10cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。住居の南半が不整形に掘り深められている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁を幅50cm、奥行き35cmの方形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。火床中央の両側に2個の河原石を埋込んで支脚とする。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

遺物 竈の覆土内より羽釜の破片が出土する。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ10cmの円形プランで設ける。



E-37号住居

形状 中形準横長長方形。長軸を南北にもち、短軸3.5m、長軸4.5mの整った長方形を示す。E-21号住居と、住居の形状、規模が近似している。

面積 15.2㎡ **方位** +90°

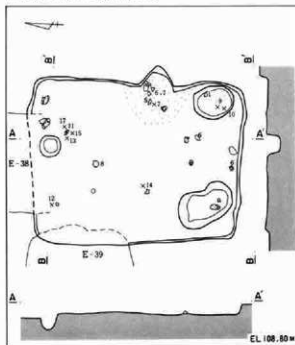
床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が周壁部より僅かに高い。この面に周壁部を住居中央部より厚く貼床して、平坦な生活面を作る。貼床材は粘質茶褐色土と黒色土の混土である。

竈跡 東壁の中央南側に設置する。壁を幅70cm、奥行き30cmの台形に掘り込んで、燃焼部は壁外に造り出す。焚口部に石材を使用した痕跡はない。

貯蔵穴 住居の南東隅に深さ15cmの楕円形プランで設ける。

遺物 竈西側の床面直上より高台付埴(須恵器)、住居中央西側の覆土内より高台付皿(灰軸陶器)が出土する。

重複 E-38号住居、E-39号住居と重複する。ともに新旧関係を判別する資料はない。



E-38号住居

形状 超小形単横長方形と推定する。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。東西軸2.2mを測る。中尾遺跡でこの軸長から類推できる住居の外形は、D-106号住居と同形の超小形単横長方形で、長軸を南北にもつ横長方形住居である可能性が高い。

台地西側の、沖積地へ移行する緩傾斜地に占地している。

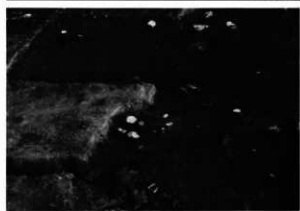
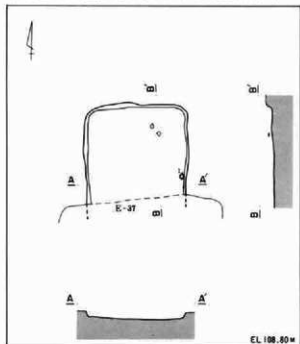
方位 +87°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、粘質茶褐色土の地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定できるが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 東壁際の床面直上より高台付埴(灰釉陶器)が出土。

重複 E-37号住居と重複する。新旧関係を判別する実証的資料はないが、この住居の竈が確認できないことから、E-37住がこの住居の覆土を切っている可能性が高い。



E-39号住居

形状 分類できない。長軸を東西にもち、短軸2.4m、長軸2.6mを測る。僅かな凹張りを示す壁と、丸味の大きい隅で構成される。超小形正方形に近いが、中尾遺跡に同形状、同規模の住居はない。

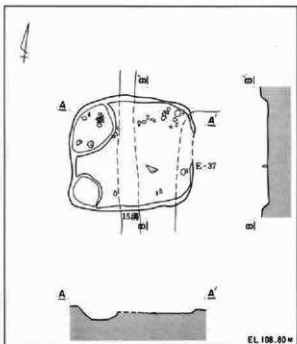
面積 5.9㎡ **方位** +82°

床面 粘質茶褐色土層を20cm掘り込んで床面とする。住居中央部の15溝との重複部にのみ貼床し、その他は地山を平坦に整えて生活面としている。住居の北西部が深さ15cmの不整円形に掘り窪められている。

竈跡 確認できない。出土した遺物から竈をもつ住居と推定でき、住居北西部のピット内より火を受けた凝灰岩の切石が出土するが、確認した壁に竈の痕跡は一切ない。

遺物 住居中央北側の床面に密着して環、住居北東部の覆土内より環(須恵器)、高台付埴(須恵器)が出土する。

重複 E-37号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



F-1号住居

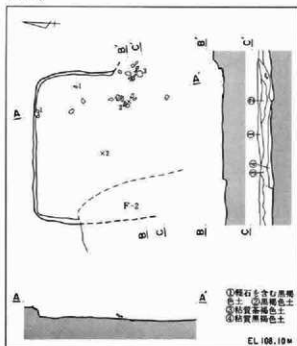
形状 分類できない。南壁が確認できないため、住居の外形は確定できない。東西軸3.2mを測る。この軸長から類推できる住居の外形は、C-71号住居と同形の小形正方形かC-75号住居と同形の小形準横長方形である。D-123号住居と東西軸長が一致するが、中尾遺跡には東壁の中央より北側に竈を設置する住居はないので、中形準横長方形の可能性は少ない。 **方位** +89°

床面 灰白色粘土層を20cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 確認した東壁の南端に設置する。子備調査のトレンチに切られて全形は確認できない。壁に焼土、灰を検出した。熱焼部の構造は不明。

遺物 竈西側の床面に密着して環(須恵器)、竈の覆土内より環が出土する。

重複 F-2号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



F-2号住居

形状 中形正方形。一辺4.8mを測る。直線的な壁で構成されるが、全体に僅か歪んだ不整形を示す。C-21号住居と、住居の形状、規模、竈の構造が近似している。

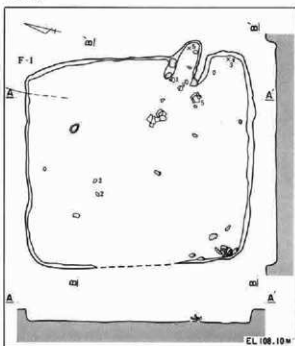
面積 20.8㎡・**方位** +75°

床面 灰白色粘土層を30cm掘り込んで床面とする。貼床した痕跡はなく、地山を平坦に整えて生活面としている。

竈跡 東壁の南側に設置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。熱焼部は幅40cm、奥行き50cmで壁内に設け、壁に対して直交より15°南に傾いている。袖部の先端と、左側の袖部中央に凝灰岩の切石を据えて芯にする。煙道は火床土5cmから壁を切り込み、壁外30cmまで水平に伸びる。

遺物 竈西側の床面に密着して甕、住居北西部の覆土内より環が出土する。

重複 F-1号住居と重複する。新旧関係を判別する資料はない。



IV 遺構図面・写真・記録集成

1. 掘立柱建物
2. 土壇
3. 井戸
4. 溝
5. 中尾城



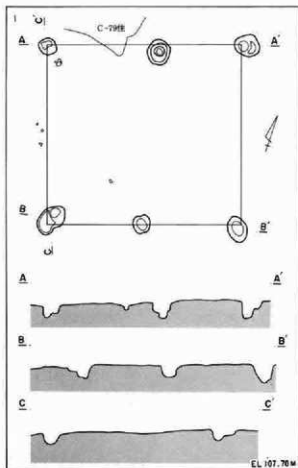
1. 掘立柱建物

概要 掘立柱建物は堅穴住居の279軒に対して、5棟を検出したにすぎない。伴出遺物に乏しいため年代を限定できるものは少ないが、5棟のうち2棟が堅穴住居と重複し、2棟が堅穴住居と近接して占地している。これは掘立柱建物と共存する遺構群との配置に関して、重要な資料を提供している。

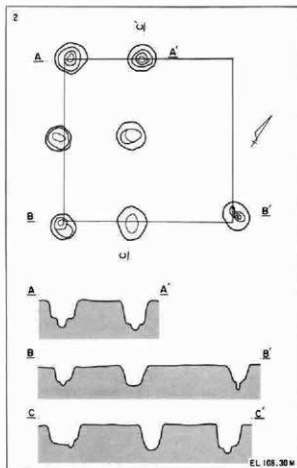
規模 柱間は桁行き2間、梁行き2間が4棟(1、2、3、4号)で、2間1間が1棟(5号)である。2間2間のうち、

総柱式が3棟(2、3、4号)を占めている。1、2、4号は桁行き3.9m前後、梁行き3.6m前後の近似した規模を示している。軸線の傾きは1、3、4、5号が近似し、2号のみが大きく異っている。

柱穴 柱底を土層断面によって確認したものはなく、平面形状と断面形状からの推定が可能なのが1棟(2号)である。2号を除く柱穴は全て単純円形掘方を呈し、直径30~60cmでローム層を30~50cm掘り込んでいる。

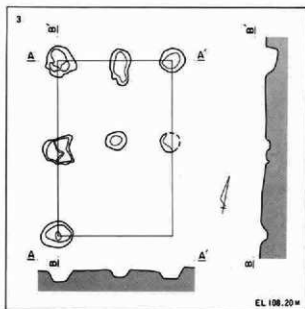


1号掘立柱建物



2号掘立柱建物

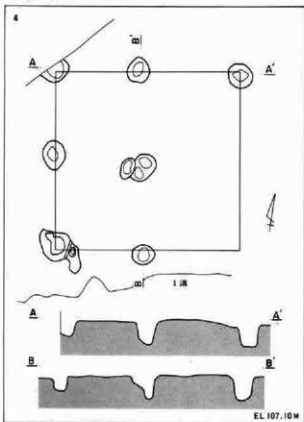




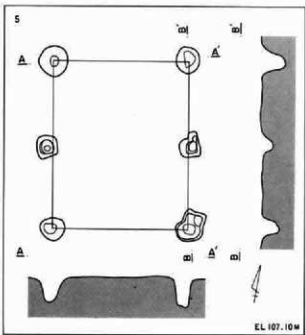
3号独立柱建物



4号独立柱建物



5号独立柱建物



2. 土 塚

概 要 土塚は遺跡の全域に広範囲な分布を示し、総数123基を抽出した。竪穴住居が、遺跡を南北に二分する大溝の北側と南側に集中した分布を示すのに対して、土塚は台地中央部での分布が希薄なため、竪穴住居との重複例が少なく、一箇所に集中した分布を示す部分はない。やや例外なのが遺跡北側のD地区北端部で、似たような規模の円形土塚が台地の中央から西端にかけて分布し、密集する住居を切って占地している。

形 状 検出した土塚のうち円形が半数を占める。方形は4分の1を占め、残りが楕円形と不整形である。遺跡の北側に円形、南側に不整形形がそれぞれ多く分布し、中央部には円形と方形とが混在する傾向を示している。

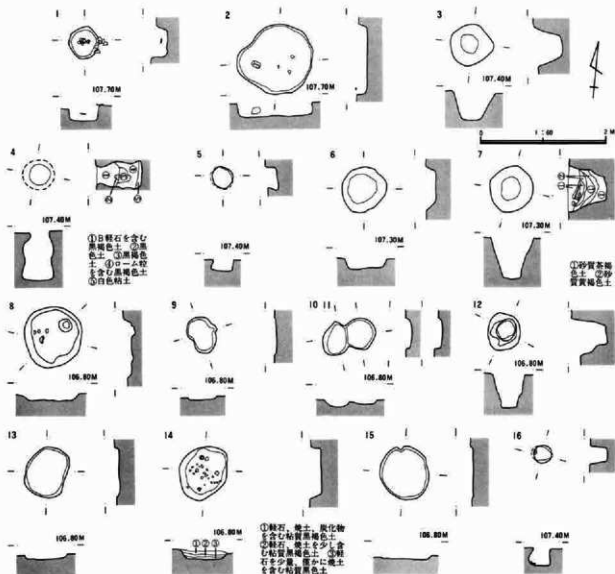
年 代 123基のうち、遺物の出土したものが15基で、残りの108基にはまったく伴出遺物が無い。竪穴住居との重複

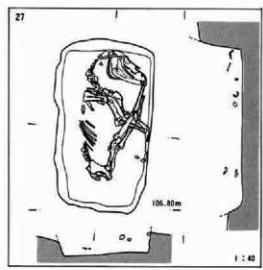
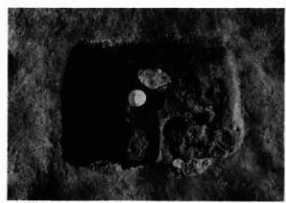
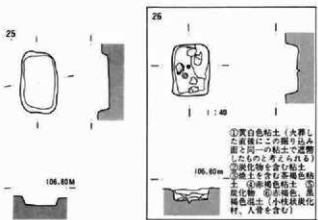
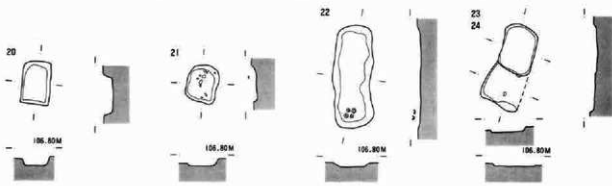
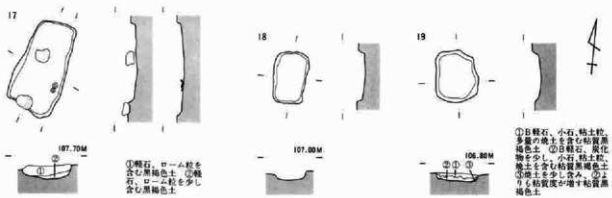
を考慮しても、年代を限定できるものは僅かである。出土した遺物は平安時代の須恵器の環と埴が圧倒的に多く、唯一の例外が縄文式土器を出土した78号土塚である。年代と性格の不明な土塚のなかにおいて、馬を葬った27号土塚は特徴的で生々しい。

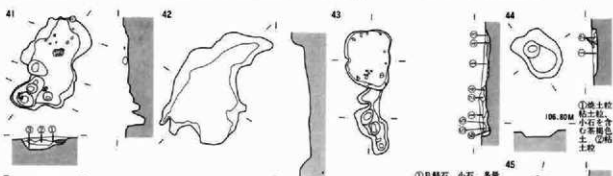
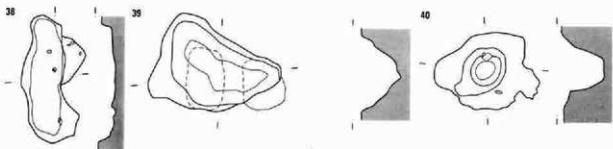
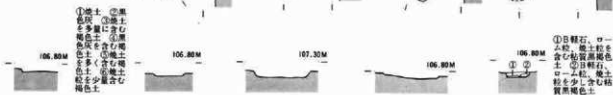
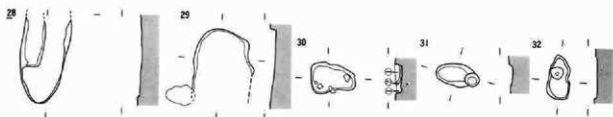
26号土塚 短辺80cm、長辺110cmで、長軸を北に向けた深さ25cmの長方形を呈す。底面に密着した炭化物と焼土に混って人骨を検出した。炭化物の直上より須恵器の環が出土。

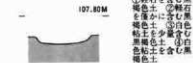
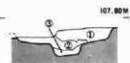
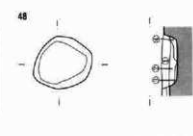
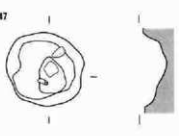
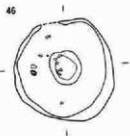
27号土塚 短辺100cm、長辺180cmの長方形を呈す。深さ30cmの底面に、後足を馬首に向けて大きく屈折し、前足と交差させた一頭の馬骨が、頭を北にして横たわる。

78号土塚 一辺90cm、深さ15cmの方形を示す。底面の楕円形に並んだ輝石安山岩の上に、意図的に打砕いたかのような勝坂式の深鉢が散乱している。





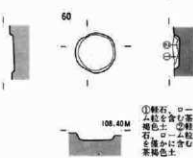
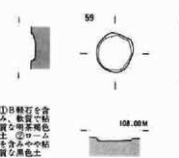
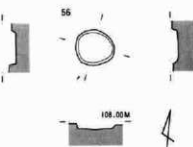
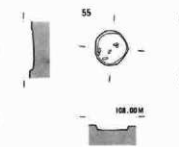
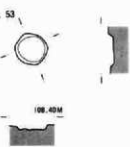
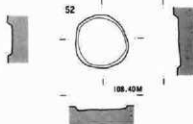
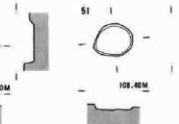
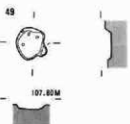




① 砂石を多量に含み硬い粘質褐色土。② 砂石を含む粘質褐色土。③ 白色粘土を均一に含む粘質褐色土。

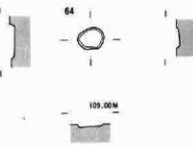
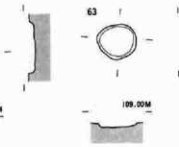
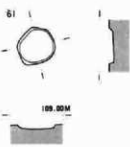
① 砂石、ローム粒を含みやや粘質な茶褐色土。② 軟らかくやや粘質な黒色土。

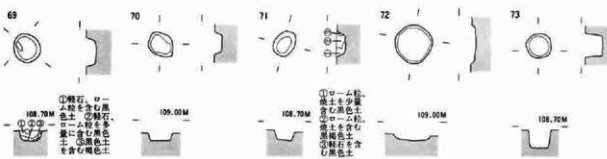
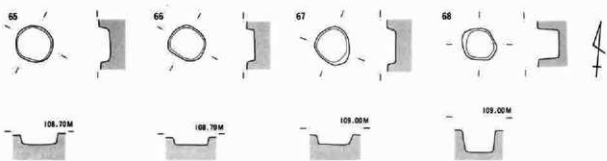
① 砂石を含む黒褐色土。② 砂石を僅かに含む黒褐色土。③ 白色粘土を少量含む黒褐色土。④ 白色粘土を含む黒褐色土。



① 砂石を含み、軟質で粘質な茶褐色土。② ローム粒を含みやや粘質な黒色土。

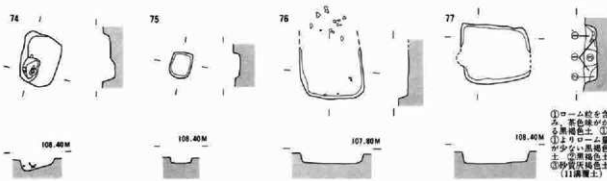
① 砂石、ローム粒を含む茶褐色土。② 砂石、ローム粒を僅かに含む茶褐色土。



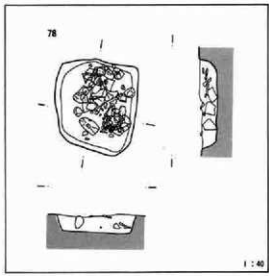


①軽石、ローム粒を含む黒色土
②軽石、ローム粒を少量に含む黒色土
③黒色土を含む褐色土

①ローム粒、黒土を少量含む黒色土
②ローム粒、黒土を少量含む褐色土
③軽石を含む黒色土

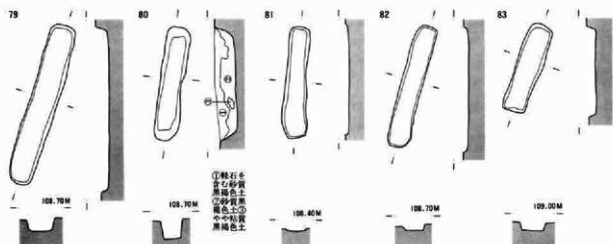


①ローム粒を含まず、褐色味が少ない黒褐色土
②上りロームが少なく、黒褐色土
③黒褐色土
④砂質灰褐色土(11層黄土)

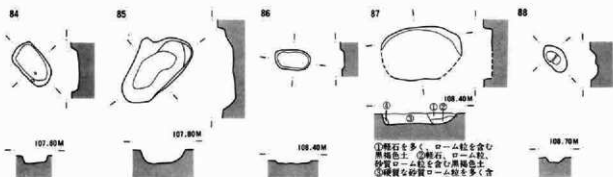


土松瓦

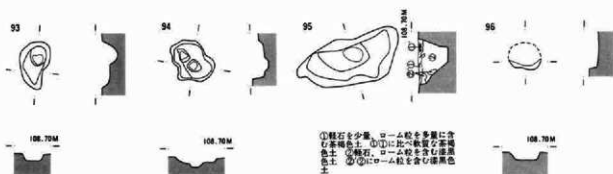
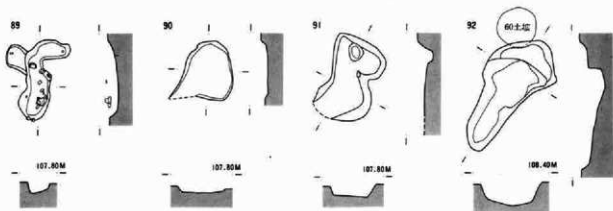




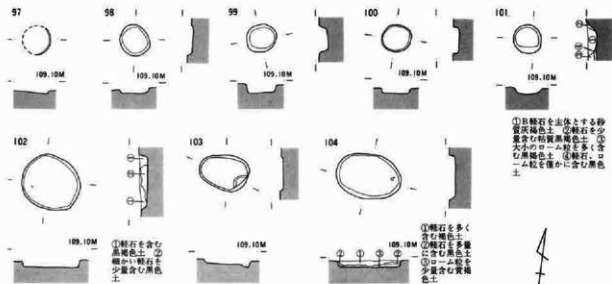
①軽石を含む砂質黒褐色土
②砂質黒褐色土
③中粒質黒褐色土



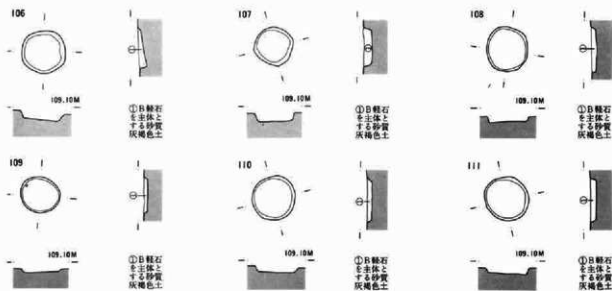
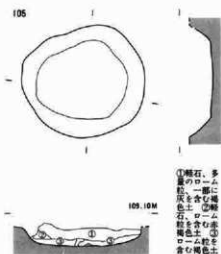
①軽石を多く、ローム粒を含む黒褐色土
②軽石、ローム粒、砂質ローム粒を含む黒褐色土
③細粒中粒質ローム粒を多く含む粘質黒褐色土
④軽石を少し含む黒褐色土

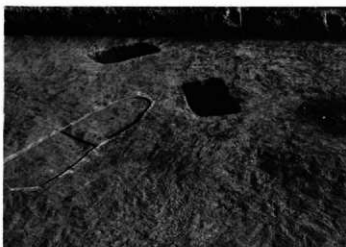
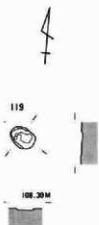
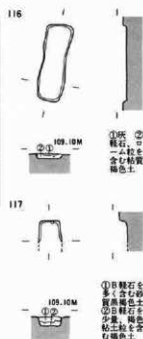
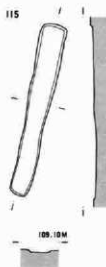
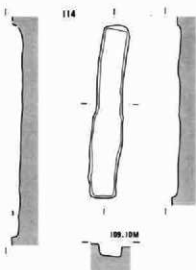


①軽石を少量、ローム粒を多量に含む黒褐色土
②①に比し粘質な黒褐色土
③軽石、ローム粒を含む黒褐色土
④②にローム粒を含む黒褐色土

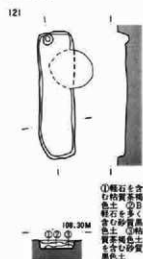
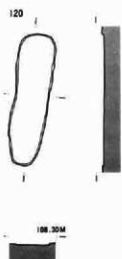


E地区土塚群





F地区土坑群



3. 井 戸

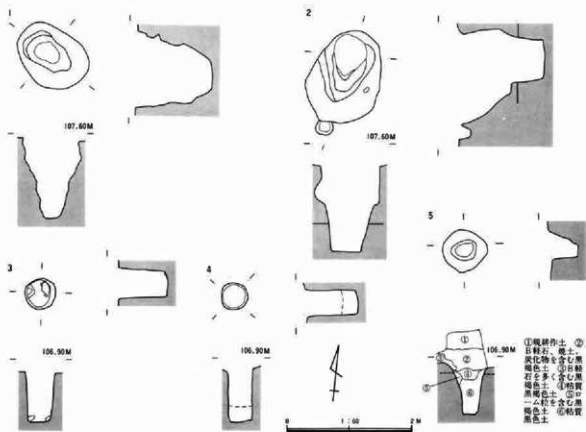
概 要 総数で22基を検出した井戸の多くは、遺跡を南北に二分する大溝より南側の、遺跡南半に分布している。台地の東側と西側は沖積地に向かって傾斜しているが、台地中央の微高地にも分布しているので、低地に限定した分布ではないようだ。ただ、台地の中央に立地する井戸は、縁辺部のものに対して比較的深い値を示している。

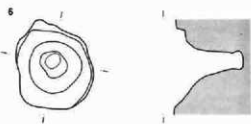
形 状 平面形状は円形と楕円形に分けられ、楕円形は円形の半数である。断面形状はV字形とU字形が大半を占め、上半部が漏斗状を示すものが僅かに認められる。平面形状、断面形状とともに、立地する地形とのあいだに適合すべき共通性がない。

年 代 出土状態から、遺物が井戸の構築年代を示す決め手とならないものが多いが、伴出遺物は全て平安時代以降のものである。これは浅間B軽石層を検出した層位の結果とも符合している。

10号井戸 上屋を想定できる唯一の井戸である。確認した4個の柱穴列と中央部の井戸が、整然とした配置を示している。井戸は上端の南側が漏斗状に開く短径1.0m、長径1.4m、深さ2.5mの楕円形を呈し、心々を結ぶと短軸1.8m、長軸3.5mを示す柱穴列の中央北側に偏して位置する。

番号	位 置	形 状	規 規	横m	伴出遺物
1	124C32	楕円	短径1.4長径2.0深さ2.0		
2	123C24	楕円	短径1.7長径2.5深さ2.3		内耳付鍋
3	101C18	円	径0.8深さ1.3		
4	117C27	円	径0.7深さ1.4		
5	113C14	円	径1.0深さ0.8		
6	112C7	円	径2.0深さ1.8		環
7	105C31	楕円	短径0.6長径0.9深さ1.4		
8	103C24	円	径1.4深さ1.5		
9	101C26	楕円	短径1.1長径1.7深さ2.8		
10	101C27	楕円	短径1.0長径1.4深さ2.5		砥石
11	115C49	円	径1.0深さ1.6		
12	112D0	円	径2.0深さ1.7		環、鉢、裏
13	113D0	円	径0.5深さ1.4		
14	112D8	円	径1.6深さ1.5		裏
15	123D8	楕円	短径1.9長径2.3深さ1.3		皿
16	98D22	楕円	短径1.1長径1.4深さ1.6		
17	110D17	円	径0.9深さ1.2		
18	92D29	円	径2.7深さ2.8		環、裏、皿
19	100E17	円	径2.6深さ2.6		筒、裏車
20	92E17	円	径2.0深さ1.5		
21	97E21	円	径0.8深さ2.1		
22	30F16	円	径1.0深さ2.0		





106.90M



井戸6



107.20M



106.90M



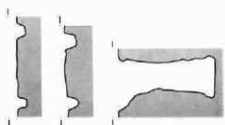
106.50M



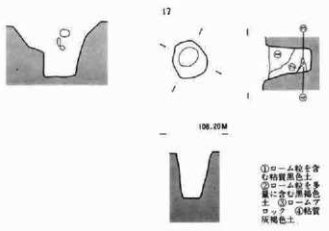
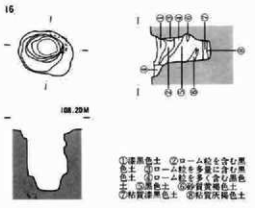
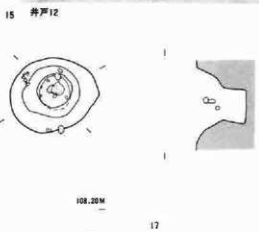
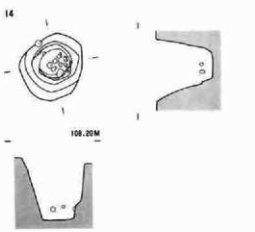
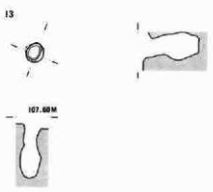
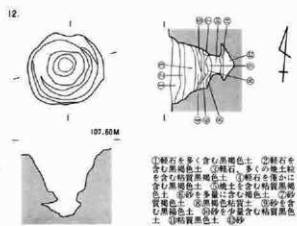
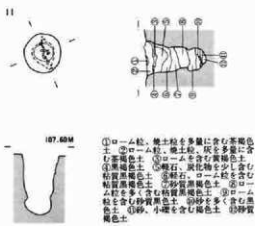
①砂質黒褐色土 ②粘質黒褐色土
 ③砂質黒褐色土 ④砂質黒褐色土
 ⑤砂質黒褐色土 ⑥砂質黒褐色土
 (全土層に砂質黒褐色土が混入する)



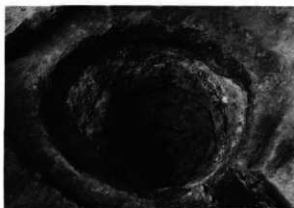
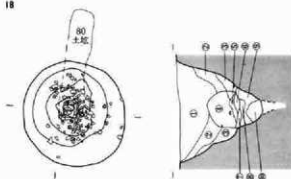
107.00M



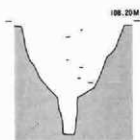
井戸10



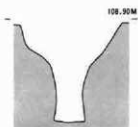
18



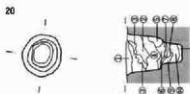
井戸18



①C 軽石、ローム粒を多く含む黒褐色土 ②ローム粒を多く含む黒褐色土
③ローム粒を少量含む黒褐色土 ④軽石、ローム粒を少量含む黒褐色土
⑤この層から多量の土器が出土 ⑥粘質黒褐色土 ⑦ローム粒、砂を含む粘質黒褐色土 ⑧河筋砂を多く含む黒褐色土
⑨川原砂を少量含む粘質黒褐色土 ⑩ローム粒を含む黒褐色土 ⑪ローム粒を含む粘質黒褐色土



井戸19



①粘土粒を多量に含む粘質黒褐色土 ②粘質黒褐色土
③粘土粒 ④黄褐色、粘質黒褐色土 ⑤軽石を含む黒褐色土
⑥軽石、少量のローム粒を含む黒褐色土 ⑦ローム粒を多く含む黒褐色土 ⑧黒色土
⑨黄褐色土 ⑩粘質黄褐色土 ⑪軽石を少量含む黒褐色土



①軽石を多く含む黒褐色土 ②軽石を多く含む粘質黒褐色土
③軽石を含む粘質黒褐色土 ④茶褐色土
⑤鉄公塚のふらねる粘質黒褐色土
⑥粘質黒褐色土 ⑦砂を多量に含む粘質灰白色土 ⑧粘質灰白色土 ⑨粘質黒褐色土

4. 溝

17



- 1 軽石を含みやや砂質の黒褐色土
- 2 軽石、ローム粒を含みやや砂質の黒褐色土
- 3 ローム粒を多量に含む黄褐色土
- 4 軽石を少量含む黒色土
- 5 ローム粒、ロームブロックを多量に含む黄褐色土
- 6 ローム粒を僅かに含む黒色粘質土

16



14



3



7



- 1 白軽石を多量に含む砂質黒褐色土
- 2 白軽石を少量含む黒褐色土
- 3 ローム粒を僅かに含む硬く締まった粘質黒色土

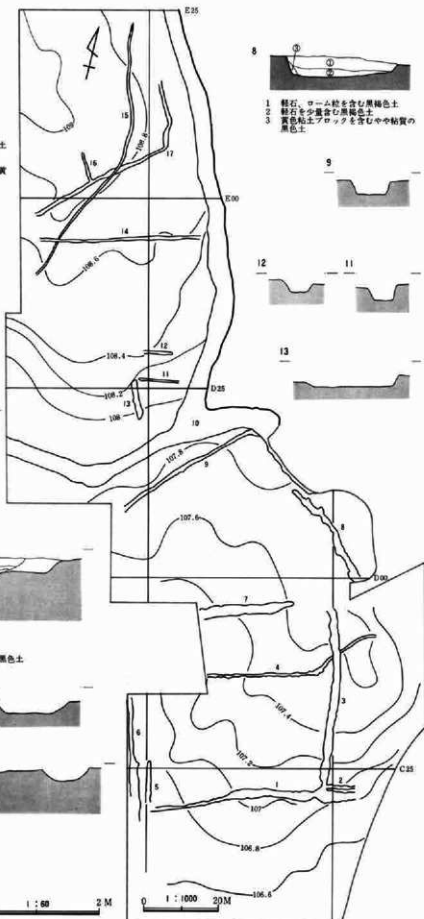
6



5



1, 2



8

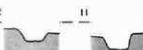


- 1 軽石、ローム粒を含む黒褐色土
- 2 軽石を少量含む黒褐色土
- 3 黄色粘土ブロックを含むやや粘質の黒色土

9



12



11



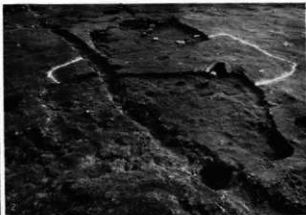
13



L 107M	1, 2, 5, 6
L 107.6M	3, 4, 7
L 107.8M	8, 9
L 108.6M	11, 12, 13
L 109M	14, 15, 16, 17

0 1:60 2 M

0 1:1000 20 M

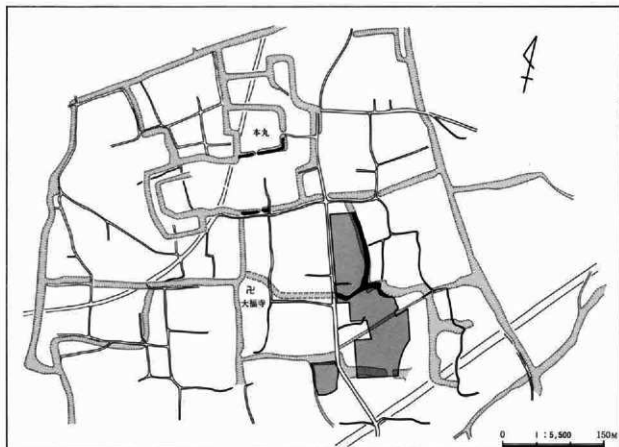


① 3号溝
② 4号溝
③ 15号溝



④ 8号溝
⑤ 馬歯出土状態(8号溝)
⑥ 14号溝
⑦ 7号溝
⑧ 15・17号溝
⑨ 17号溝





中尾城現況図

『群馬県古城遺址の研究』上巻附図368頁より



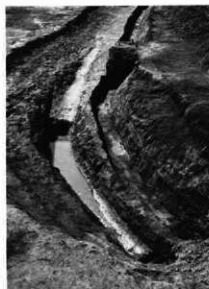
▲1上 堀の一部(西から)▲下 中尾城の立地

5. 中尾城

概要 中尾遺跡が位置する高崎市巾尾町から前橋市鳥羽町にかけての地域に、中尾城は城域500m四方程を展開し、当時の面影を窺いかけた堀跡にその痕跡をとどめている。現地踏査の結果では、学校敷地となっている城の北西部を除いて、幅2m、深さ1m程の堀跡を随所に確認することができ、城の中央南側に位置する大福寺の北側と、寺の北側100mを東西に横切る堀跡に沿って、高さ1m程の土塁が現存している。中核は城の北側を占め、本丸は城の中央北側に堀で区画した東西80m、南北60mの一角に占地するときれる。中尾遺跡は城の一部分を占めるにすぎないが、発掘前に地表で確認できた遺跡東縁の堀の他、遺跡中央を東西に横切る一条の堀(10号溝)を、発掘調査によって検出した。

10号溝 城の一部を構成する堀で、遺跡の北端から台地東側の縁辺に沿って南流し、遺跡の中央部で東西に横切る溝と変則的なT字形に交差する。南流する溝は幅4m、深さ1mの低湿地で現在は水田として、東西の溝は平坦化されて畑として利用されている。東西の溝は上端4.5m、下端0.5m、深さ1.8mで上半が漏斗状に開く一条を、上端が2.0mでV字状の溝が平行して切っている土層断面の所見を得た。この溝は西側の大福寺に向かって直進するが、同寺の北側に土塁を伴う溝があることから、同寺の東側で北に迂回すると思われる。

注1 山崎 一 『群馬県古戦場研究』 昭和46年12月



▲2 堀の一部(東から)



1. 黒色土と(4)との混土
2. 堀の切り込み面である黒色土の落土
3. 黒色土、粘土、ロームの混土
4. 粘土ブロック、軽石、ローム粒を含む茶褐色土
5. 粘土大ブロック、軽石を多量に含む茶褐色土
6. 粘土粒、ローム粒、多量の軽石を含む黒褐色土
7. 多くの白色粘土を含む白褐色土
8. 粘土粒、ローム粒、多量の軽石を含み、鉄分の沈澱が見られる茶褐色土
9. 粘質灰褐色土と細粒の川原砂の混土
10. 細粒の川原砂、茶色、褐色の川原砂が織状になっている
11. 粘土の混入する茶褐色の川原砂
12. 粘質灰白色土、よどんだ水中に堆積するような細粒の粘質土
13. 川原砂
14. 細粒の川原砂
15. ローム粒、多量の軽石を含む黒褐色土
16. 軽石を多く含む黒褐色土
17. 軽石を多く含む粘質黒褐色土
18. ローム粒、軽石を含む黒褐色土
19. ローム粒を含む川原砂、粘質灰白色土の混土
20. 細粒の川原砂、粘質灰白色土の混土
21. 川原砂
22. 粘質灰白色土
23. 細粒の川原砂、粘質灰白色土の混土、鉄分の沈澱が見られる
24. 砂質茶褐色土



▲3 土層断面(Aセクション)

竪穴住居索引表

住居番号	掲載頁	グリッド	規模・形状	柱	穴	扉・壁	溝	貯蔵穴	面積(m ²)	方位
C 地区										
C-1	4	132C43	中形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	18.7	-39°
C-2	4	131C45		無主柱	柱	北壁	東	無		+85°
C-3	5	134C41	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	13.3	-20°
C-4	6	135C37	小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	17.5	-26°
C-5		番								
C-6	11	126C42		無主柱	柱	東壁	南	無		+97°
C-7	11	127C44		無主柱	柱	北壁	東	無		
C-8	10	127C36	超大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部	53.9(推)	-7°
C-9	5	131C46		無主柱	柱	東壁	南	無		+93°
C-10	12	131C29	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	30.7	-12°
C-11	13	130C28	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	38.0	-5°
C-12	7	123C45		無主柱	柱	東壁	南	無		+69°
C-13	8	123C41	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	14.1	+85°
C-14	8	120C40	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	10.5	-5°
C-15	9	121C34	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	11.2	+91°
C-16	7	135C34	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	7.6	+97°
C-17	14	125C26	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部欠	30.9	-16°
C-18	22	119C34	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	23.1(推)	+11°
C-19	15	125C29	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部欠	28.2	-13°
C-20	16	119C26	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部	33.6(推)	-36°
C-21	21	120C30	中形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	21.7	+81°
C-22	21	119C31	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	9.9	+87°
C-23	20	119C33	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	40.7(推)	-13°
C-24	11	128C25	中形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	20.2(推)	+9°
C-25	6	136C26	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	12.7	+84°
C-26	25	121C38	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	13.9	+100°
C-27	24	127C24	小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	9.9	-11°
C-28	24	121C25	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	11.4	+27°
C-29	19	120C36		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-30	17	117C26	小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	11.4	+4°
C-31	17	116C24	大型正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部欠	27.1(推)	-10°
C-32	33	118C17	超大型縦長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	29.7	+92°
C-33	23	119C33		無主柱	柱	東壁	南	無		+86°(推)
C-34	27	113C18		無主柱	柱	東壁	南	無		+87°
C-35	27	112C12		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-36	29	110C12	小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	14.6	+90°
C-37	29	108C13	小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	無	10.3	-5°
C-38	18	107C10		無主柱	柱	東壁	南	無	24.7	-3°
C-39	30	104C11		無主柱	柱	東壁	南	無	18.3	+92°
C-40		番								
C-41		番								
C-42		番								
C-43	30	110C17		無主柱	柱	北壁	東	一部	無	
C-44	18	104C19	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	8.8	+86°
C-45	28	110C14		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-46	28	109C15		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-47	28	107C14		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-48	28	106C14	中形横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	15.3	+89°
C-49	25	112C27	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	14.4	-13°
C-50	30	103C14		無主柱	柱	東壁	南	無		+87°
C-51		番								
C-52		番								
C-53		番								
C-54	31	116C15	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	一部	7.7	+100°
C-55	26	112C 8	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	一部欠	11.5(推)	+96°
C-56	27	113C11	超小形正方形	無主柱	柱	東壁	南	一部	7.4	+89°
C-57		番								
C-58		番								
C-59	29	109C11		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-60	32	120C14	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	9.2(推)	+85°
C-61	32	120C15	小形準横長長方形	無主柱	柱	東壁	南	無	7.2(推)	+106°
C-62	32	121C15		無主柱	柱	東壁	南	無		
C-63		番								
C-64		番								
C-65		番								

住居番号	掲載頁	グリッド	規模・形状	柱 穴	炉・竈	壁 溝	貯蔵穴	面積(㎡)	方 位
C-66	欠	番							
C-67	欠	番							
C-68	欠	番							
C-69	22	118C34	中形正方形	4 個	竈不明	無	無	20.5(推)	+87°
C-70	36	116C36	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	一部欠	無	14.9	+6°
C-71	36	116C38	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	10.2(推)	+96°
C-72	19	119C42		無主柱	東壁南	無	無		
C-73	34	114C36	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	7.9	+88°
C-74	34	113C36	中形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	14.9(推)	+92°
C-75	35	112C37	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	12.3(推)	+115°
C-76	9	112C33		3個(4個)	地床炉	無	無		+31°
C-77	35	112C39	小形準縦長長方形	無主柱	東壁中央	無	南東隅	11.9	+87°
C-78	欠	番							
C-79	50	114C41		無主柱	炉不明	無	南西隅		+85°
C-80	37	107C27		無主柱	東壁南	無	無		+81°
C-81	37	106C27	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	南東隅	8.8	+84°
C-82	欠	番							
C-83	19	118C41	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	南東隅	13.9	+91°
C-84	38	108C34	超小形正方形	無主柱	東壁南	無	無	5.2	+86°
C-85	38	106C34	超小形正方形	無主柱	東壁中央	無	南東隅	8.1	+79°
C-86	40	105C35		無主柱	南東隅	無	無		+90°
C-87	40	103C34		無主柱	東壁南	無	南東隅		+85°
C-88	欠	番							
C-89	39	105C33		無主柱	竈不明	無			
C-90	欠	番							
C-91	39	109C35	超小形正方形	無主柱	東壁南	無	無	5.7	+86°
C-92	23	109C30		無主柱	東壁南	無	無	10.8(推)	+95°
C-93	40	103C34	超小形正方形	無主柱	東壁北端	無	無	7.2	+81°
C-94	欠	番							
C-95	欠	番							
C-96	39	106C32		無主柱	東壁南端	無			+86°
C-97	41	128C19	小形準縦長長方形	無主柱	南東隅	無	南西隅	11.2	+100°
C-98	欠	番							
C-99	欠	番							
C-100	欠	番							
C-101	欠	番							
C-102	41	126C19		無主柱	南壁	無			+157°
C-103	41	131C22		無主柱	竈不明	無			
C-104	欠	番							
C-105	43	123C18	小形正方形(推)	無主柱	東壁南	無	南東隅		+84°
C-106	欠	番							
C-107	37	128C14	小形準縦長長方形	無主柱	東壁中央	無	南東隅	9.5	+93°
C-108	欠	番							
C-109	欠	番							
C-110	欠	番							
C-111	44	119C 8	超小形準縦長長方形	無主柱	東壁北	無	無	6.3(推)	+79°
C-112	42	125C17	中形準縦長長方形	4 個	竈不明	無	無	21.5	+87°
C-113	44	120C 6		無主柱	竈不明	無	無	10.3	
C-114	44	122C 7		無主柱	東壁南	無	無		+92°
C-115	43	122C14	中形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	17.8	+91°
C-116	欠	番							
C-117	欠	番							
C-118	45	125C49	超小形正方形	無主柱	東壁南	無	南東隅	8.5(推)	+84°
C-119	45	124C50	小形準縦長長方形	無主柱	竈不明	無	南東隅	9.9(推)	+70°
C-120	46	117C49		無主柱	一部	無	無		
C-121	47	115C45	超大形準縦長長方形	無主柱	炉不明	一部	無	45.2	-84°
C-122	50	112C49		無主柱	竈不明	無	無		
C-123	48	110C49	大形準縦長長方形	3個(4個)	東壁南	一部欠	無	26.6	+77°
C-124	欠	番							
C-125	46	116C49		無主柱	東壁北	無	無		+102°
C-126	49	108C49	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	9.8	+86°
C-127	51	108C47	中形準縦長長方形(推)	無主柱	東壁南	無	無		+90°
C-128	50	111C47		無主柱	竈不明	無	無		+74°(推)
D 地 区									
D-1	54	126D 2	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	無	10.7	+74°
D-2	54	124D 2	小形準縦長長方形	無主柱	東壁南	無	南西隅	11.2	+91°
D-3	56	123D 1		無主柱	東壁南	無	南東隅		+95°
D-4	56	121D 1	中形正方形	4 個	地床炉	無	無	22.9(推)	+15°

住居番号	掲載頁	グリッド	規模・形状	柱	穴	壁	溝	貯蔵穴	面積(m ²)	方位
D-5	57	121D3	中形準縦長長方形	無主柱	東壁中央	無	無	南西隅	15.1	+82°
D-6	55	123D6	小形準横長長方形	無主柱	東壁中央	無	無	加	8.2	+84°
D-7	58	120D7	小形正方形	無主柱	東壁中央	無	無	南東隅	11.0	+60°
D-8	61	117D7	中形準横長長方形	無主柱	東壁中央	無	無	南東隅	19.7	+80°
D-9	57	119D2	無主柱	東壁	無	無	無	南東隅		-96°
D-10	63	114D5	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	7.2	+83°
D-11	63	115D3	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	北西角西隅	9.1	+74°
D-12	59	112D2	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	12.0	+69°
D-13	64	111D5	中形正方形	無主柱	伊不	一部	無	加	12.1	-26°
D-14	62	114D10	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南西角西隅	16.2	+86°
D-15	61	115D8	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南西隅	15.3	+72°
D-16	60	118D9	超大形正方形	4個	東壁	全周	無	南西隅	56.2	+22°
D-17	58	120D7	無主柱	東壁	無	無	無	加		
D-18	58	122D8	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.6	+69°
D-19	55	122D4	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	10.3(推)	+75°
D-20	70	117D14	無主柱	東壁	無	無	無	加		+77°
D-21	70	116D12	中形正方形	無主柱	伊不	一部	無	加	12.1	-25°
D-22	69	115D16	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	19.6	+6°
D-23	71	112D18	無主柱	東壁	無	無	無	加	20.4	-81°
D-24	72	113D15	小形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	10.8(推)	+63°
D-25	72	112D13	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南西隅	11.7	+81°
D-26	71	109D18	無主柱	東壁	無	無	無	加		+75°
D-27	72	107D16	小形準縦長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	12.7(推)	+87°
D-28	62	112D9	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	10.7	+78°
D-29	64	112D7	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	16.1	+76°
D-30	65	110D7	小形準縦長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	7.8	+85°
D-31	65	109D9	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.0(推)	+85°
D-32	78	107D6	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	13.5	+85°
D-33	66	110D5	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	12.2	+88°
D-34	66	110D3	中形準横長長方形	4個	東壁	無	無	加	19.5	+82°
D-35	67	108D4	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	19.2(推)	+86°
D-36	67	108D2	小形準縦長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	10.5(推)	+82°
D-37	68	106D3	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	14.0	+94°
D-38	68	106D5	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	11.9	+85°
D-39	69	105D6	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	11.8	+83°
D-40	59	114D2	中形準横長長方形	無主柱	地床	一部	無	加	17.2(推)	+50°
D-41	63	116D4	無主柱	東壁	無	無	無	加		+83°
D-42	75	104D2	小形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	10.3	+83°
D-43	75	106D1	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.6(推)	+86°
D-44	74	107D1	無主柱	東壁	無	無	無	加		+84°
D-45	74	105D2	大形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	29.4	+84°
D-46	73	105D1	中形正方形	4個	伊不	全周	無	加	19.6	-5°
D-47	73	104D0	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	19.2(推)	+80°
D-48	76	101D7	無主柱	東壁	無	無	無	加		+86°
D-49	76	101D6	超小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	6.1(推)	+83°
D-50	79	85D19	中形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	11.4	+85°
D-51	79	85D18	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	13.1	+90°
D-52	81	85D21	無主柱	東壁	無	無	無	南東隅		+80°
D-53	81	88D17	無主柱	東壁	無	無	無	加		+86°
D-54	80	88D19	小形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	7.0	+90°
D-55	80	87D19	中形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	16.0	+85°
D-56	77	99D3	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	9.8	+82°
D-57	81	91D18	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	9.4	+85°
D-58	82	90D21	小形正方形	無主柱	北壁	無	無	北西隅	14.3	-3°
D-59	82	91D23	小形準縦長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.9	+86°
D-60	83	92D21	小形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	8.3	+92°
D-61	84	94D21	無主柱	東壁	無	無	無	加		+93°
D-62	84	94D22	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	11.0	+93°
D-63	88	91D25	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.0	+90°
D-64	83	94D25	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	10.5	+101°
D-65	86	94D18	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	6.9	+80°
D-66	86	95D17	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	9.6	+77°
D-67	87	96D19	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	8.5	+80°
D-68	87	97D18	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	9.6	+82°
D-69	85	97D21	小形正方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	13.9	+91°
D-70	90	83D32	中形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	加	11.1	+92°
D-71	88	87D32	小形準横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	10.7	+87°
D-72	89	89D29	中形正方形	無主柱	東壁	無	無	加	17.4	+79°
D-73	89	88D28	中形横長長方形	無主柱	東壁	無	無	南東隅	13.5	+86°

住居番号	掲載頁	グリッド	規模・形状	柱	穴	伊・道	壁	溝	貯蔵穴	面積(m ²)	方位
D-74	97	96D28	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	7.2	+80°
D-75	97	95D30	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	7.6(雑)	+87°	
D-76	98	94D33	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	無
D-77	96	98D31	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.7(雑)	+100°
D-78	96	97D31	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.5	+95°
D-79	64	111D 8	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	無	14.5	+87°
D-80	99	95D35	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.2	+90°
D-81	94	101D27	中形正方形	無主柱	北	壁	東	無	北東隅	19.2	-12°
D-82	91	100D94	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	13.8	-14°
D-83	113	104D36	超大型正方形	4個	東	壁	南	全周	無	45.5	+78°
D-84	112	104D33	超大型正方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	無	+58°
D-85	93	106D30	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	無
D-86	92	104D32	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	無	無	+86°
D-87	93	104D30	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	一部	無	13.3(雑)	+74°
D-88	93	104D28	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.4	+1°
D-89	91	104D24	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	7.5	+76°
D-90	95	99D27	超小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	無	6.8	+89°
D-91	99	95D33	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	13.1	+101°
D-92	110	94D31	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	12.0(雑)	+100°
D-93	103	93D32	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	無
D-94	100	92D33	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	9.8	+89°
D-95	85	94D16	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	+60°
D-96	欠	番									
D-97	87	97D16	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	無
D-98	101	100D38	超大型正方形	4個	東	壁	南	無	南東隅	45.2	+85°
D-99	77	101D 2	小形正方形	無主柱	東	壁	中央	無	無	9.3	+88°
D-100	欠	番									
D-101	88	98D31	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	8.4(雑)	+107°
D-102	78	96D10	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	7.8	+80°
D-103	欠	番									
D-104	欠	番									
D-105	116	103D40	中形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	15.2	+84°
D-106	116	103D38	超小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	6.2(雑)	+86°
D-107	欠	番									
D-108	104	95D43	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	8.3	+95°
D-109	92	93D47	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	7.9	+94°
D-110	123	89D48	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	9.9	+76°
D-111	118	88D43	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	12.8(雑)	+74°
D-112	90	88D37	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.7	+87°
D-113	108	100D45	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	12.0	+91°
D-114	105	100D44	小形準縦長長方形(雑)	無主柱	東	壁	南	無	無	無	+87°
D-115	105	100D42	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	10.8	+80°
D-116	106	98D42	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	無	9.0	+80°
D-117	108	98D44	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	無	11.8	+85°
D-118	107	94D41	中形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	一部欠	南東隅	13.9	+91°
D-119	107	95D40	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	8.6	+84°
D-120	103	95D38	大形準縦長長方形	4個	東	壁	南	一部	無	27.5	+90°
D-121	119	92D44	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	6.1	+95°
D-122	119	90D45	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	7.7	+94°
D-123	120	85D40	中形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	南東隅	15.2	+100°
D-124	109	100D40	小形準縦長長方形(雑)	無主柱	東	壁	南	無	無	無	+80°
D-125	欠	番									
D-126	109	99D41	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	南東隅	13.2	+76°
D-127	110	98D41	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	無	8.4	+82°
D-128	98	94D36	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	無	無	無	無
D-129	98	94D36	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	9.8	+91°
D-130	102	92D39	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	中央	一部	無	10.2	+105°
D-131	115	93D36	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	11.2	+93°
D-132	115	90D36	小形正方形	無主柱	東	壁	南	一部	無	11.5	+106°
D-133	102	93D38	中形正方形	無主柱	東	壁	南	一部欠	南東隅	無	+96°
D-134	114	91D34	中形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	一部欠	南東隅	16.8	+96°
D-135	118	86D43	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	7.6	+88°
D-136	120	102D45	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	7.6	+86°
D-137	104	96D45	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	無	10.8	+88°
D-138	98	99D46	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	無	無
D-139	106	97D43	中形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	一部	無	13.8	+3°
D-140	117	106D42	超大型準縦長長方形	4個	東	壁	南	無	無	28.4	+83°
D-141	121	103D42	小形準縦長長方形	無主柱	東	壁	南	無	南東隅	9.2	+86°
D-142	111	97D40	大形正方形	2個(4個)	東	壁	南	全周	無	29.9(雑)	+82°

住居番号	掲載頁	グリッド	規模・形状	柱	穴	壁	溝	貯蔵穴	面積(m ²)	方位
D-143	欠	番								
D-144	121	102D44	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.0(推)	+86°
D-145	111	97D40	大形正方形	3個(4個)	東	壁	南	全周	34.8(推)	+82°
D-146	112	97D47	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.9	+81°
D-147	122	104D46	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	9.2(推)	+83°
D-148	122	105D47	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.9(推)	+79°
D-149	123	87D49	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	10.6	+91°
D-150	90	88D37	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無		+87°
D-151	90	88D37	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無		+87°
E 地区										
E-1	126	102E1	超小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	7.5	+81°
E-2	127	100E1	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	11.0	+86°
E-3	127	91E5	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	15.6	+79°
E-4	128	88E1	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	7.5	+82°
E-5	128	86E6	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.0	+92°
E-6	129	90E7	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	11.7	+91°
E-7	131	88E7	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	一部欠	6.4	+2°
E-8	130	86E10	中形横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	15.9(推)	+76°
E-9	136	87E13	中形正方形	無主柱	東	壁	南	一部	22.4	+92°
E-10	130	91E9	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	10.5	+83°
E-11	132	94E12	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	14.0	+94°
E-12	133	97E12	中形横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.2(推)	+87°
E-13	133	97E13	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	7.1	+35°
E-14	134	97E10	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	9.9	+87°
E-15	134	88E7	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	12.5	-9°
E-16	140	93E19	小形正方形	無主柱	東	壁	南	無		+84°
E-17	欠	番								
E-18	141	87E18	小形正方形	無主柱	東	壁	南	一部	13.0	+97°
E-19	139	87E20	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	10.8	+96°
E-20	138	89E21	中形横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	14.3(推)	+99°
E-21	138	90E22	中形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	15.1(推)	+100°
E-22	136	88E14	大形準横長長方形	4個	東	壁	南	無		+94°
E-23	131	88E9	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	6.3	+4°
E-24	135	86E15	中形正方形	無主柱	東	壁	南	一部欠	18.4(推)	+11°
E-25	135	85E16	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	一部		+95°
E-26	137	84E14	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	一部	無	+90°
E-27	137	84E16	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	一部		+94°
E-28	欠	番								
E-29	139	91E18	超小形正方形	無主柱	東	壁	南	無	7.7	+97°
E-30	132	96E20	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	12.8	+97°
E-31	140	94E20	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	13.9(推)	+85°
E-32	142	95E17	小形準横長長方形	3個(4個)	東	壁	南	無		+93°
E-33	142	97E16	中形横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	15.5(推)	+88°
E-34	141	93E22	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	11.5	+89°
E-35	144	102E15	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	無	+87°
E-36	143	102E16	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	8.8(推)	+77°
E-37	144	99E19	中形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	15.2	+90°
E-38	145	99E20	超小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無		+87°
E-39	145	97E19	小形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	5.9	+82°
E-40	143	101E18	中形準横長長方形	無主柱	東	壁	南	無	14.6	+80°
F 地区										
F-1	146	67F14	中形正方形	無主柱	東	壁	南	無		+89°
F-2	146	65F13	中形正方形	無主柱	東	壁	南	無	20.8	+75°

謝 辞

本書の作成にあたり、次の方々には有益な指導と助言をいただいた。記して深甚なる謝意を表します。

赤山啓造・新井房夫・安斉正人・石川正之助・石野博信・井上唯雄・桑原滋郎・田辺正三
寺高孝一・都丸 肇・能登 健・橋本澄明・前原 豊・松島栄治・松村恵司・山崎 一
ふるさとを知る会(小野田成孝・川原嘉久治・栗原 清・小池照一・田村 力・福田昌弘)
(敬称略)

発掘関係者名簿

●発掘主体

群馬県教育委員会 教育長 山川武正

群馬県教育委員会文化財保護課 課長 磯貝福七 係長 山田 始 係長 阿久津宗二

●発掘調査体制

調査担当者 松本浩一(県教育委員会文化財保護課 調査員)

都丸 肇(同 上 文化財保護主事)

調 査 員 前原 豊(県教育委員会文化財保護課)

佐藤京子(同 上)

●事務担当

小林起久治 白石保三郎 近藤平志 平野進一 国定 均 笠原秀樹 吉田有光 山本朋子

柳岡良宏 吉田英子 吉田恵子 野島のお江 並木綾子 今井もと子

●現場整理員

砂丞俊子 宇佐美征子 浦山通子 木下シゲ子 斉藤文子 坂口 一 佐野麗子 戸田節子

丹羽紀子 巾 隆之 平田慶子 堀田弘美 三浦京子 湯浅紀子 吉田和代

●室内整理員

新井悦子 伊藤淳子 狩野えり子 後藤和美 坂口 一 長沼久美子 三浦京子

中 尾 (遺構篇)

—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書 第6集—

印 刷 昭和58年3月26日

発 行 昭和58年3月31日

編 集	坂口 一	三浦京子
執 筆		坂口 一
レイアウト	三浦 京子	狩野えり子
図版作成	長沼久美子	伊藤淳子
	新井 悦子	後藤和美
カ ッ ト		菊池 実

編集・発行 群馬県教育委員会文化財保護課
群馬県前橋市大手町1丁目1番1号
(0272)23-1111

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
(0279)52-2511

印刷 上毎印刷工業株式会社

中尾遺跡全体図

